物が落ちて來はせぬかと思つたり、高い建物の側を通ると、其れが倒れて來はせぬかと恐はがつたり、首筋の方から蟲が入つて來はせぬかと心配したり、幾度手を洗つても、手に汚い物がついて居る樣に思はれたり、或は人が話をして居ると自分の風評をしてる樣に思はれたり。或は戸口を出る時には左足から踏み出さなければ氣が濟まぬ、途中まで行つてから左から出たか右から出たかを忘れて、一旦歸つてまた出直すなど云ふのは其の好適例である。或る人は手紙を書くときに、其文句は先方に失禮に當りはしないかと思はれて、幾度も〳〵讀み返し、それを封じてからも間違つて何か他の紙を封じはしないか、或は宛名を忘れはしないかと思つて封を切つて改める。いよ〳〵其書狀を郵便函に投入するとそれが下方に落ちたかどうかを氣遣ひ、或はもしまた入れたと思つたが、風の爲めに其邊に落ちてけはしまいかと思つて見廻す、よし入つても集配人が途中で落しはしまいか先方へ着いてから、玄關に投げ入れられたまゝ風に吹き去られはしないか、先方の下女が受取つても主人に示すことを忘れはしまいかと、それからそれと心配して、いよ〳〵返事が着くまでは安心しないと云ふのもある。

（療法）遺傳原因あるものにして、本症の傾向を認めたときには豫防法として、身體の强壯を講じ、適當の教育を施すがよい。また本症を發せるものには、よく本症の說明をなして、本症に打ち勝つべき自信力の養成は必要でもる。其他從來の周圍を去り、卽ち住居職業其他を轉換するもよろし、くまた精神療法、暗示療法等もよろしい、營養不良のものに强壯法を行ひ、神經質のものには水治法を行ふ。

【距骨骨折】Bricke des Talus(獨) Fracture of the astragalus(英)

（原因）無理に極度に足を背面に屈せし時に、銳き脛骨稜に衝突して起るものであつて、多くは跟骨々折と合併して起るものである。

（症候）距骨頭が脛骨の稍々前方に轉位するが爲めに運動障礙は著しきものである。其他疼痛、咿軋音等一般骨折の症狀を具ふ。

（療法）手術的療法によつて整復せしめ、整復したる後は固定法を行ふ。

【距骨單獨脫臼】Isolierte Luxation des Talus(獨) Single dislocation of the astragalus(英)

（原因）關節に於ける强き屈曲によつて起る。

（症候）後方及び前方に脫臼するが、稀れに見るのみである。また後方脫臼に於ては距骨脛部の骨折を伴ふものである。

（療法）手術的に之を整復するが、時としては距骨を剔出するの必要を認むることがある。

【嗅覺異常】Geruchsanomalien（獨） Abnormality of the smelling sense（英）

（種類）本症を大別して嗅覺脱失及び鈍麻症、嗅覺過敏症、嗅覺錯誤症の三種となし、更に之を數種に區別す。

（原因及び症候）（一）嗅覺脱失及び鈍麻症は、呼吸性、神經性、中樞性及び不限局性の四種に分つものである。

呼吸性嗅覺脱失及び鈍麻症は、鼻茸、甲介新生物、後鼻孔閉鎖等によつて、氣流に混在せる嗅素の嗅部に達せざる爲めに起るもので、消長あるものである。

神經性嗅覺脱失及び鈍麻症は、嗅神經に變化を來せるもので、モルヒネ、コカイン、アトロピン中毒、硫化炭素其他の劇烈なる臭氣、强劇なる洗滌液の刺戟、眞正臭鼻、結核及び黴毒性浸潤、インフルエンザ、外傷等によつて起るものである。

中樞性嗅覺脱失及び鈍麻症は、嗅神經球または腦疾患卽ち腦膜炎、腦腫瘍、脊髓癆等に來るものであるが、また稀れに先天性無嗅官頭蓋なるものがある。

不限局性嗅覺脱失及び鈍麻症は、發熱、卵巢摘出後、月經中または妊娠中に來るものである。

（二）嗅覺過敏症　月經時、妊娠、ヒステリー、神經衰弱等に來るものであつて、其の名の如く嗅覺の過敏を來すものである。

（三）嗅覺錯誤症　ヒステリー、神經衰弱、精神病者またはインフルエンザ等に來るものであつて、一定の香臭を他の香臭と誤り感ずるものである。

（豫後）呼吸性のものは、手術によつて其原因を除けば恢復し得るも、中樞性のものは多くは不治である。

（療法）原因を除くことが第一の注意である。また電氣療法、ストリヒニンの鼻腔内吹入も賞用せらる。過敏症にあつては鼻内に弱コカイン液を塗布し、兼ねて臭劑を内服せしむるのである。

【起立及歩行不能】Abasie-Astasie（獨） Abasia and Astasia（英）

（原因）精神感動、外傷、過勞に來り、其他衰憊を起す疾病によつて起る。

（症候）倒顚するを恐るゝか、または起立及び歩行が不可能なりとの觀念によつて起る

ものであつて、ヒステリー患者等によく之を見るものである。

（療法） 精神療法、暗示療法は有效である。また秩序ある體操を行はしむるもよい。

【緊張病】Katatonie（獨） Katatonia（英）

（原因） 早發性癡呆の一種である。

（症候） 發病は漸次的或は亞急性稀れには急性に起る。精神的に全身或は諸部の筋が緊張狀態を呈するのが特徴である、即ち主に强直性、次で搖搦性、或は舞踏病的である。またこれに身體の奇異なる運動若しく擧動を呈する所謂衒奇症を加ふるものである。四肢の强梗は著明に、思想は滅裂するものである。

（豫後） 其三分の一乃至四分の一は輕快又は全治するも他は全治せず。

（療法） 早發性癡呆を見よ。

【虚脱】Kollaps（獨） Collapse（英）

（原因） 出血、心臟疾患及び其過勞、貧血、栓塞、中毒等に來る。

（症候） 顏面蒼白又は紫藍色を呈し、四肢厥冷、冷汗、瞳孔散大、脈搏細弱にして頻數不正にして且つ結代す。呼吸は淺表にして或は淺く或は早く或は遲し、體溫下降し、意識

溷濁、嘔吐等があり、治療奏效せざるときは死に來るものである。

（療法） カンフルの反復皮下注射、ヂカーレンの注射または生理的食鹽水に混じて靜脈に注入する等、其他原因療法を行ふ。

【虚脱性精神病】Erschöpfungsirresein（獨） Collapsed psychosis（英）

本症は腦髓の神經物質が一時に急激の變動に逢ひ補給之に伴はずして發する精神病であつて虚脱性譫妄、妄覺病、後天性神經衰弱の三種ある。詳細は各病下を參照せらよ。

【疣贅】Verrucae（獨） Verruca（英）

（症候） 帽針頭乃至豌豆大の堅き半球狀の隆起であつて、尤も屢々顏面、有髮頭部及び手に生ずるもので、其表面は平坦又は稍疼痛ある出血性の裂溝あるものもある。少年の人には、手甲及び額部に平坦にして軟質の帶黃褐色又は褐赤色にして、殆んど表面より隆起せざる（疣贅少年性平滑疣）を見、老人には屢々顏面、背部、手背、足背に脂漏狀の表面を呈し、褐色にして扁平なる疣を發するものである（老人性疣贅）

疣は移植することは出來るけれども原因は不明である、

（療法） 老人性疣には、「クリサロビン」最も可である。

少年性疣には、内用として亞砒酸、又は「アトロピン」を與へ、又外用藥も與へるのである。

堅き疣には、電氣分解を行ひ、又頑固なる場合には「ラヂウム」及びレントゲン光線療法を行ふのである。

【輸卵管炎】 Salpingitis(獨) Salpingitis(英)

(原因) 急性症は、單獨に發すること甚だ稀れで、多くは子宮、腹腔或は腸管の病氣が同時であるか、又は此等の病氣の後に起るもので、殆んど其三分の一は子宮の内膜炎、實質炎、偏轉若しくは屈曲に續發し、三分の一は腹膜の疾患、子宮外膜炎、骨盤蜂窩織炎等に起り、尙ほ卵巢炎、卵巢囊腫炎、淋疾、陰部の梅毒性潰瘍、バルトリン氏腺炎、鼠蹊腺炎等に續發するものである。

慢性症は、急性症より移行することもあれば、又初めより慢性にやつて來るものもある。

(症候) 急性症は、他の生殖器病等と同時に起るから、本症に冒されても獨特の症狀を呈することはないが、大抵外陰部、尿道若しくは子宮等の炎症ある時の症候に續いて、下腹の一方若しくは兩方、又は腰部に鈍痛があるが、初めは痛む時と痛まぬ時とあるが、後には疝痛樣又はお產の時の痛みのやうになつて、時々ひどく痛むことがある。殊に月經のある時、交接の時、働く時などは痛みは最も甚しい、又往々發熱して惡心、嘔吐などが起ることもあれば、色慾が減じて消化も惡しく、便秘があり、貧血しく漸次瘦せて來る、爲めに神經質になつたり、ヒステリーに陷つたりするものである。

慢性症にあつては、月經に障害を來し、月經困難、無月經、子宮出血等もあるが、又一子不妊症を來し、唯一人の子供を產んだ限り、其後絕えて妊娠せぬなどはよく本症に見る處のものである。それから喇叭管炎の内容物は久しく疼痛が續いて後子宮内に澤山漏れて膣より外に流れ出ることもあれば、出血することもあり、又膿を洩らすこともある。

(療法) 急性症にあつては、身體の安靜、殊に生殖器を安靜になし交接を禁と、局部に氷囊を貼し、又緩下劑を用ゐて自然の治癒を待つがよい、若し又帶下の爲めに刺戟される樣であつたならば注意して微溫食鹽水にて膣の洗滌を行ふがよい。

慢性症にあつては、常に便通の整正を計り、若し便通なければ時々下劑を投じて腸管に誘導するがよい。又攝氏三十五度の溫坐浴又は全身浴を行ふがよい。殊によいのは溫泉場に轉地して湯治すると共に力めて滋養食を攝り、全身の營養を高ゝるがよい、若し又百方

治療しても效なきものにあつては、截除術によつて喇叭管を截除すれば無論根治するものである。

【幽門狹窄】Pylorusstenose（獨） Stenosis of the pylorus（英）

（原因） 幽門部の肥厚によつて起るもので、自然營養兒に之を見、多くは生後第二三週に來るものである。

（症候） 頑固なる嘔吐は主徵候である。胃部は膨隆して左より右に蠕動を見、患兒は羸瘦し、また便秘、尿利減少を來すものである。

（豫後） 輕症は體重減少徐々にして、二三ヶ月の後には漸次治癒に至るものであるが、重症にあつては危險である。

（療法） 姑らく薄茶、薄き米湯等を與へて、胃を安靜ならしめ、然る後母乳を與ふ。本症にイブラヒム氏は、冷却せる搾乳を毎時十瓦より始め、漸次間隔を增して十五瓦、二十瓦、二十五瓦として三百瓦に達すれば餓死の危險が無いと云ふて居る。また人工營養に賴るときには脫脂乳がよろしい。

【幽門痙攣】Pylorusspasmus（獨） Spasm of the pylorus（英）

（原因） 胃の幽門部又は其附近に發生せる潰瘍の爲めに、反射的に本症を發するものである、或はまた膽石症等に於て胃液分泌過多または酸過多を來せるときにもまた本症を起すことがある。

（症候） 自覺症としては嚥下困難が主徵候であつて、飲食物が停滯して、假令流動物であつても一頓には通過せざるを訴ふるも。消息子檢査によれば格別の狹窄を認めざるものである。

（療法） 臭素劑の內服、電氣療法等を行ふ。

【遊走腎】Wanderniere, Ren Mobilis（獨） Wandering kidney（英）

（原因） 腎臟部に受けたる外傷が直接の原因となることあるも、多くは潛行性のものであつて、處女に於ける下垂腎は虛弱なる體格體質が先天性素因となつて、これにコルセットの如き誘因が加つて起り、分娩婦人の遊走腎は下腹部に於ける內壓變化が誘因となる。

（症候） 主として女子に來るものであつて、處女に於ける腎下垂は屢〻激烈なる疼痛を來すも、分娩婦人には、格別の症候を呈せざるものである。一般に胃腸障礙、便秘、神經性諸症を伴ふものである。腎臟の生理的位置より下垂するのが本態である。

（療法）　姑息的には、緊張せる腹帶を用ゐて腹腔の内壓を高めて、腎臓の位置を押し上げるのであるが、根治には腎臓固定法なる手術を要するものである。

【遊走脾】Wandermilz（獨）　Wandering spleen（英）

（原因）　脾臓は胃腺靱帶及び横隔腺靱帶によつて定位置を維持するものである故、此等靱帶が弛緩するか或は異常伸展あれば遊走脾を起すもので、一般内臓下垂症、產後、外傷其他脾臓の病的肥大によつて起るものである。

（症候）　何等の症候を呈せざることあるも、或は腹膜に牽引性疼痛、壓迫、重物感、消化障害等を來すことがある。また莖捻轉が急劇に起れば劇痛、腹滿、便祕、嘔吐、虛脫等を起すものである。

（療法）　外科手術によりて脾臓を固定するがよい。

【癒合齒】Zahnwall（獨）　Adhesive tooth（英）

（原因）　先天性には齒牙の一部又は全部が融合したるまゝ化灰せるにより、後天性には慢性齒膜炎の結果として、白堊質が肥大して齒槽壁を破り、隣齒と癒合したるに因る。

（症候）　先天性癒合には種々ある、即ち齒冠のみ連合し、或は齒根のみ連合せるものもあれば、また全部に於て連合せるもある、そして其癒合は表層のみのもあれば象牙質をも連合し或は髓腔の連合するものもあるが、後天性は唯根部に於て白堊質のみ連合す。

（療法）　外觀醜惡なるときは、切斷または拔去して義齒を施すのである。

【面皰】Comedones（獨）　Comedo（英）

（症候）　本症は、普通十五六歲より二十五歲頃までの青年男子及び少女に發するものであつて、畢竟皮脂の分泌障害より起るものである。

本症の發生部は、主に顏面であつて前額、鼻、頰、頤等に殊に多いのである、即ち帽針尖乃至頭大の小黑點を現はし、之が皮脂腺口に一致して居る。そして之を側方より壓すれば蟲樣の脂肪性の灰白色の細小なる栓塞の出るのを見るのである。これは主に皮脂であつて其れに塵埃や上皮の屑が混じて居る。又屢々面皰の基底に痙攣の小結節を生ずることもある。或は又往々面皰が二三個以上合併して一團となり相融合することもある（巨大面皰）

（療法）　面皰は面皰挫匙を以て皰栓を壓出するのがよい、又常に加里石鹼精を以て能く洗滌し、且つ酒精で拭ふがよい。また硫黃軟膏、ベタナフトール、レゾルチン等の軟膏を塗布するのである。

【メニール氏病】Ménirésche Krankheit（獨） Ménière's disease（英）

（原因） 不明なるも、恐らく内耳に急に滲出物あるか或は出血を來す爲めに起るものであらう。

（症候） 突然顏面蒼白となり冷汗を流し、知覺脫失を來すと同時に、兩側の聽力障害を起し、甚しきは全く聾となるのもある。そして眩暈、歩行蹣跚等を發して患側に倒れんとすることがある。これは所謂卒中病と名づくる所以であるが、此發作は數分又は數日間持續せるのみで止ることあるも、或は又數日若しくは數月を經て反復發作することもある。

（療法） 絕對的心身の安靜を守らしめ、枕を高くして仰臥せしむるのである。藥物としては、鹽酸キニーネ、ヨードカリウム、鹽酸ピロカルピンを處するのである。

【迷走神經麻痺】Vaguslähmung（獨） Paralysis of vagus（英）

（原因） ヂフテリー、アルコール中毒、チフス、インフルエンザ、猩紅熱其他の熱性傳染病に來り、また鉛中毒、砒素中毒等にも起る。中樞性には脊髓癆、球麻痺、腦膜炎等に來り、又屢々ヒステリーに起るものである。

（症候） 一側の迷走神經麻痺の時は、咽頭、喉頭及び口蓋帆の麻痺を來して、鼻聲語及び强度の嚥下障礙を來すものである。また兩側麻痺のときには、聲帶が麻痺するが爲めに强度の呼吸困難を來すものである。其他心臟障礙を來す。

（療法） 平流電氣または感傳電氣療法を試み、ヒステリー性麻痺には暗示療法を行ひ、下喉頭神經後枝の麻痺のときには、場合によりては氣管切開術を要することがある。またヂフテリー性全麻痺は最も恐るべきものであつて、時に生命に危險を及ぼすものであるが、かゝる場合にはストリヒニンの大量を與ふるがよい。

【迷路震盪症】Labyrintherschütterung（獨） Concussion of the Labyrinth（英）

（原因） 直接或は間接に耳を强く打擊せられたるとき、または大砲の如き强音を突然耳の近くで聞くとき等に起るものである。

（症候） 耳鳴、聽力障害、頑固なる眩暈等が主なる症候である。

（療法） 身心の安靜を命じ、總ての音響を避け、電氣療法を行ひ、或はヨードカリウムの內服を處する等である。

【味覺障礙】Geschmacksanomalien（獨） Disturbance of the sense of taste（英）

（種類）本症には味覺脫失及び味覺減退と、味覺過敏及び異性味覺の三種ある。

（原因及び症候）一味覺脫失及び味覺減退は、口腔粘膜の疾患によつて來るもの、鼻疾患の爲めに味覺的嗅覺を言する爲めに起るもの、口腔粘膜の乾燥、または中耳の疾患、胃腸病によつて高度の舌苔あるとき、過冷過熱の飲食物或はコカインの塗布等によつて起る。また中樞性にはヒステリー、外傷性神經衰弱、三叉神經領域に於ける頭蓋内疾患等によつて起るものであつて、物の味がよく分らぬか、または全く判らなくなるものである。

（二）味覺過敏は主としてヒステリーに發するものであつて、味を過敏に感ずる症であるとして多くは異性味覺症を伴ふことが多いものである。

（三）異性味覺と矢張ヒステリーに來り、其他精神病者、胃腸病者、熱性病者及び妊婦等に來るものであつて、甘酸鹽苦等の味を正しく感覺せざるものである。

（療法）原病の治癒は第一である。其他局部に電氣療法を行ふ。

【脈絡膜炎】Chorioiditis（獨）Chorioiditis（英）

（原因）黴毒、結核、傳染病、眼球の外傷等によつて起る。

（症候）本症には（一）病竈狀脈絡膜炎、（二）汎發性脈絡膜炎、（三）化膿性脈絡膜炎等の別あるが、何れも自覺症としては眼火閃發、紅視症、夜盲症等を發して視力の障礙、及び暗點等を來し、或は失明に陷ることがある、また合併症として網膜剝離、硝子體混濁、化膿性硝子體續出、眼球癆または出血等を來すものである。

（原因）原因療法を行ふ、卽ち黴毒より來たるものには驅黴療法を行ふ等である。また局處的には、加溫されたる生理的食鹽水の結膜下注射を行ふ等である。

【ミクリッツ氏病】Mikulicz'sche Krankheit（獨）Mikulicz's disease（英）

（原因）不明。

（症候）三大唾液腺、涙腺、ブランデンヌーン氏腺、口腔及び咽喉入口の粘液腺が慢性相稱的に腫脹するのが特徵である。また時として淋巴腺及び脾臟の腫脹を伴ひ、恰も假性白血病の如き像を呈することがある。

（療法）砒素劑の內服、光線療法等を行ふ。また時に唾液腺及び涙腺の摘出を要することがある。

【齒列不正】Die Unregelmässigkeit der Zahnreiche(獨) Irregular of a row of teeth(英)

（原因）齒列不正は卽ち俗に云ふ反齒である。これは我が日本人には頗る多いものであ

るから少し詳しく説明して見よう。これには大體七つの原因がある。

第一の原因は、乳齒と永久齒との交代期に當つて、乳齒が齲齒であるか、或はまた何かの事情で永久齒の發生しない前に、乳齒が脱落して了ふと、其跡は空隙を生じ、これが爲めで出齒や反齒となることがある、と云ふのは、兒童は絶えず食物を咀嚼したり、或は談話等の際上下の顎骨を動かすから、知らず識らず齒を咬み合せて、右の空隙を兩面から壓迫して來て、遂には永久齒の發生すべき餘地を狹め、甚しきは全く之を塞ぐに至るものであるから、發生すべき空隙を失ひたる永久齒は是非なく横側に反齒となつて出たり、前の方に押し出して亂杭齒や出齒となり、齒列不正を來すものである。

第二は、前の場合とは全く反對に、乳齒が何時迄經つても交代せずに、已に發生しつゝある永久齒を抑壓して、其發生を妨ぐる爲めに、永久齒は意外のところに齒頭を現はし來つて反齒となることがある。

第三は、技術の拙劣なる齒科醫の施術にて義齒を塡充したり、或は金冠を被せなどして上下齒の咬合を妨げたる場合、即ち人工的に他の齒を壓迫して反齒を拵えるものである。

第四は、何かの原因によつて齒を失ふと、其兩側の齒は平均を失ふて一方の偏壓に堪え

得ないで、失ふたる齒の空隙に押し出して來る爲めに、反齒となるもの。

第五は、遺傳性のもので、是は始めから正しく齒列の齊合無く、從つて其生え方も亂雜不規則にして横生へする事もある。

第六は、惡癖の習慣、例へば頬りに指頭を咬へ若しくは咬み、又は舌を上齒と下齒の間に挾み、或は舌を上下に捲き縮めたり、伸長したり、其餘勢を以て口腔の内部から外方に上下の齒根を壓迫し、又は下唇を引き寄せて口腔内部に深く弓形に曲げ入れたりするなど其他種々なる惡習をなすもの等は、些細のことではあるが、長くやつて居る間には、反齒の原因となるものである。

第七は、鼻呼吸をせずに、口より呼吸する爲めに起るもので、日本人には兎角此惡習が多い故、この爲めに反齒となるものが割合に多いものである。

（豫防法） 次に此反齒を豫防することが出來るかと云ふに、遺傳性のものはどうも仕方がないが、口より呼吸する小兒は必ず鼻より呼吸する習慣を養はしむるがよろしく、若しどうしても鼻呼吸を營むことの出來ないやうであつたならば、醫師に就て鼻若しくは口中の病氣の有無を診て貰ひ、若し故障があらば其を除き、尚ほまた乳齒と永久齒と交代する

ときには必ず齒科醫の診察を受けて、以上述べたる如き缺陷なからしめ、また齲齒の缺けたものは、其儘に捨て置かずに、必ず塡充して貰ふがよろしい。斯く注意して、總て原因に掲げたる條項を除くやうにすれば、大抵は豫防し得るものである。要するに反齒や亂杭齒は、其父母の不注意より起るものであつて、注意周到なる家庭に育つ處の子女には決しに反齒などあるべき筈のものではない。

（療法） 反齒は矯正し得るものであるかどうかと云ふに、大抵は矯正し得るが、これも年齢に關係のあるもので、齒の矯正に最も適當なる年齢は十二歳頃までゞある、それより年齢の長ずるに從ひ、漸次多くの日數と手數とを要するもので、二十歳を超えたる者は施術が最も困難である。手術に要する日數は、體質、齒列の狀態、年齢によつて差異あるもので、中には一週乃至三週間位で矯正の目的を達し得るものもあるが、また中には六ヶ月を費やして、始めて奏效の端緒を見るやうなものもあつて、其の全治に至る日數は一定しては居ない。

それでは、反齒はどうすれば矯正されるかと云ふに、元より熟練なる齒科醫の手術に待たねばならぬが、大體の方法を述べると、大臼齒は施術の基礎となるものである故、先づ大臼齒が上下正當に咬み合ふや否やを檢し、若し正當に咬み合はざるときは、第一に之を正しくし、次に之に隣接せる齒を順次に動かして、矯正すべき齒の隣りに空隙を造り、其の空隙間に反齒若しくは出齒を矯め入れるのである。そして矯正したる齒は其固定を助くるが爲めに小さき物を齒間に挿み置くこともある。要するに反齒も出齒も生長後に於て發生するものであるから、父母たる人はよく〳〵注意して、其兒の尙ほ幼稚なる時代に於て、矯正することを忘れてはならぬ。

【齒垢】 Die Unreinlichkeiten, welche sich an den Zähnen ausammelt(獨) Dirt of the tooth(英)

（原因） 食片及び唾液幾分の沈著により多數の細菌が之れに蕃殖するものであつて、口腔の清掃を怠る人に多いものである。

（症候） 齒頸部に堆積し、白色稍黃色を帶び、甚だ柔軟にして惡臭を放つもので、これが醱酵すれば齲齒を生じ易き傾向となるものである。

（療法） 常に口腔を清潔にして沈着を防ぐがよろしく、また沈着せるものは、齒刷子を以て能く齒を磨けば除れるものである。

【齒石】 Die Zahnstein(獨) Tartar(英)

（原因）唾液中に溶存する炭酸石灰や燐酸石灰の沈澱する際に、食片、上皮片等の有機成分を伴ふて齒牙に膠着するに因つて生ずるものである。

（症候）齒石は何人の齒にも多少は沈着するものであるが、殊に掃除不完全の人に多い卽ち唾液排泄管に對する齒牙、上顎大臼齒頰面、下顎前齒舌面に厚き淡黃色乃至暗褐色の層を爲すもので、其の硬度はいろ〳〵である。此ものは齒牙の外觀を損ずるばかりで無く口中を不潔にし、呼氣に惡臭を帶ばしめ、また唾液を變敗し、尙ほ軟組織を刺戟して、齒齦炎及び齒槽膿滴等を發生せしむるに至り、甚しきは齒齦及び齒槽の吸收を來すことがある。

（療法）齒科醫に就て其除去を計るより外に方法が無い。尙ほ平素善良なる齒磨粉を用ひて、完全に齒の掃除を爲すは、豫防となるものである。

【齒牙折傷】 Zahnbruch(獨) Break of the tooth(英)

（原因）齒牙の打撲、衝突其他直接に齒牙に加はる暴力により、また間接には顎骨を媒間體としての打撲、顚倒等により上下顎の相衝突するによつて起る。また劇寒及び劇熱は琺瑯質に罅隙を生ずるものである。

（症候）折傷なれば琺瑯質の破壞に止まるも、大なる臼齒にあつては、咬頭の接合部に於て斜或は縱に分裂して齒根に達することがある。前齒にあつては斜または橫折して、齒根にまで波及することがある。そして何れの折傷にあつて疼痛を覺え、冷熱及び酸味によつて刺戟せられ、折傷若し大にして齒髓を露出するときは急性齒髓炎を發して、劇痛堪え難きものである。

（療法）齒質の缺損僅に齒冠の一小部に止るときは、充塡によりて之を補綴するがよろしく、また齒冠の大部分を失ひ、齒髓を露出せるものにあつては、壓迫麻醉によつて齒髓を除き、治療を施したる後、繼續齒を施すがよい。また齒牙の脫落せるものにあつては、再植する等である。

【齒齦肥大】 Die Vergrösserung des Zahnfleisches(獨) Hypertrophy of thegum (英)

（原因）慢性齒齦炎より本症を續發すること多く、其他緩和なる刺戟は總て本症の原因となり、また月經時、妊娠時に一時性の肥大を來すことがある。

（症候）齒齦は緩徐なる增殖をなし、或は數齒の齒齦緣に亙りて廣汎性增殖を來し、柔軟海綿樣にして出血し易く、また齒頸との間に膿汁を潴溜し、または上面に潰瘍を形成す

ることがある。自覺症としては疼痛があり、咀嚼の際に兎もすれば出血を來すものである。

（療法）刺戟を爲すところの齒牙、齒石、充塡物等を除き、肥大組織を局處麻醉の下に切除するがよろしい。肥大輕度なるものは、六〇％アルコールを以て摩擦し、二〇％クローム酸にて腐蝕するがよい。

【齒牙腫】Der Zahngeschwulst(獨) Tumor of the tooth（英）

（原因）齒牙の芽胞或は發育中の齒牙より生ずるものであつて、これに軟性齒牙腫と硬性齒牙腫とある。

（症候）特有の症候は無いが、壓迫によつて劇しき神經痛を起すことがある。軟性齒牙腫は生齒期に發生して緩徐に增大するものである。また硬性齒牙腫は、形成不全又は潛伏せる齒牙と關聯し、骨樣硬度を有し、胡桃大に達することがある。

（療法）局處麻醉の下に、口腔內より粘膜及び骨膜を切除し、或は齒槽突起の一部切除によつて、腫瘍を露出して之を摘出し、治癒後に顎骨缺損部を補綴するのである。

【齒齦炎】Die Zahnfleischentzündung Gingivitis（英）

（原因）齒石の堆積、異物の齒間介在、剛毛刷子及び小楊子の濫用、不適合の義齒、齒牙難生、口腔不潔、飯酒、喫煙、熱性病等によつて起るが、また全身病の一症候として、水銀中毒、鉛中毒、壞血病等に來るものである。

（症候）齒齦は固有の光澤を失つて溷濁を呈し、潮紅浮腫を來し、知覺が銳敏となり、少しく之れに觸るゝも出血するに至る。また齒齦は齒頸部より剝離して其の間に分泌物を滯溜するものもあれば、また潰瘍の散在することもある。唾液の分泌が增進し、口中は常に惡臭を放つに至るものである。

（療法）刺戟となるものを去り、齒石を除去し、過酸化水素を以て洗滌し、ヨード丁幾の塗布またはアルコールを以て齒齦を摩擦するがよろしく、潰瘍面は硝酸銀を以て腐蝕するか、または電氣燒灼を行ひ、防腐收斂性の含嗽劑を與ふるがよい。

【齒冠吸收】Die Resorption der Zahnkrosse(獨) Absorption fo the crown of a ooth(英)

（原因）齒牙の表面が膿汁に浴するときは、其膿の爲めに齒冠表面の一部は脫灰溶解するに至るものである。また齒牙萠生機が障害せらるれば、周圍に破骨細胞が現はれて齒冠を收吸し、表面に吸收窩を生ずるに至るものである。

（症候）齒冠に不正形の凹陷として顯はれ、暗褐色乃至黑色を呈して齲蝕に似て居るも

のである。

（療法）充塡を施すがよい。

【齒髓結石】Der Zahnmarksstein(獨) Calcinus of the dental pulp(英)

（原因）齒牙の硬組織が缺損し、之れに刺戟が加はる爲めに生ずるものであるが、また健全齒にも見ることがある。

（症候）時として反射的疼痛を發して、其原因を探求するに苦しむやうなことのあるのは大抵本症である。またこれが爲めに多く齲齒を發生するものである。

（療法）失活して齒髓を除くがよい。此際先づ結石を除去するは必要の注意である。

【齒髓實性充血】Parenchymatöse Blutüberfüllungby der Zahnmark(獨) Active hyperamia of the dental pulp(英)

（原因）齲齒、侵蝕症、外傷、磨耗症等によつて齒纖維を露出せるところへ、變性唾液過冷過熱の飲食物、異常醱酵等によつて刺戟されて起るものである。

（症候）含嗽、飲食物の攝取殊に冷熱または甘酸物に逢ふて輕微の疼痛を覺え、また運動、飲酒、入浴等によつて血液の循環を盛んならしむるも微痛を發するものである。

（療法）先づ防濕法を施して窩洞を乾燥し、軟化牙質を剔刮したる後、キャンフォフェニックまたは鹽酸コカイン等を貼し、ストッピングを以て封塞し、一二日間放置して、異狀が無ければ不導性物質を窩底に布き、其上に充塡を施すのである。

【齒髓虛性充血】Falsche Blutüberfüllung by der Zahnmark(獨) Passive hyperamia of the dental pulp(英)

（原因）動脈充血、結石等によつて、靜脈の壓迫せられて、齒髓に鬱血するに因て起るまた全身的に寒冒、熱性病、心臟病、リウマチス、水銀中毒等によつても來る。

（症候）疼痛は變性充血性の疼痛よりも連續するものであつて、格別刺戟無くとも起るものである。疼痛は鈍重であつて數時間持續し、鎭痛劑を用ゆるも奏效すること遲きものである。

（療法）齒齦に沃度丁幾を塗布して血行の恢復を計り、同時に丁幾油、薄荷油、キャンフォフェニック等の鎭痛劑を貼するがよい。

【齒髓乾性壞疽】Trockener Brand der Zahnpulpa(獨) Dry necrosis of the dental pulp(英)

（原因）齒髓の密封せられたる齒牙に來り、深在齲齒の充塡後、化學的或は冷熱的の刺戟によつて徐々に壞死せるものが、暴力によつて齒髓の根端部より斷絶して壞疽に陷るものである。

（症候）多くは打撲の既往症を有し、或は金屬充塡を認め、齒痛其他の症候を有すること無く、齒牙は透映の度を減じ、多少暗色を呈するのみにて格別の症候を呈せざるものである。

（療法）窩洞を完全に防濕消毒し、髓腔を開擴して、齒髓を抽出するがよい。

【齒髓濕性壞疽】Feuchter Brand der Zahnpulpa(獨) Moist necrosis of the dental pulp(英)

（原因）乾性壞疽に同じ。

（症候）殆んど乾性壞疽と同樣である。唯齒牙の變色が顯著であつて、暗灰色乃至暗綠色となり、齒髓は軟化し、或は液化して、灰白色乃至暗灰色、暗黑色若しくは暗綠色の泥狀物質に變ずるものである。

（療法）乾燥性壞疽の如く、窩洞を開放して、齒髓を抽出するのである。

【齒根ネクローゼ】Necrose by der Zahnwurzel(獨) Necrosis of the dental root(英)

（原因）長く持續せる化膿性齒根膜炎の結果として、白堊質細胞の壞死の爲めに生じ或は老人性變化の爲めに發するものである。

（症候）齒根は、齒槽及び齒龈と連續せず、或は露出して壞死せる白堊質部は異物として存するが、若し化膿性炎を共存するときは膿を認むることがある

（療法）切除若しくは拔去するの外施すべきの術がない。

【齒根緣下沈着物】Der Niederschlag unter an Zahnwurzelrand(獨) Inframarginal deposits of the gum(英)

（原因）發炎せる齒龈分泌物中の石灰分が沈着せるものである。

（症候）齒龈緣下に小鱗片狀或は小顆粒を爲せる暗黑色の沈着物である。

（療法）纖細なる「スケーラ」を以て除去するがよい。

【子癇】Eclampsia(獨) Eclampsia(英)

（症候）癲癇樣の間代性搐搦發作を爲すものであつて、發作後は意識混濁增進して其消失を來すのが特徵である。分娩期に來るものは最も多く、妊娠末期はこれに次ぎ、產褥期に來るものは比較的少い。そして經產婦よりも初產婦に多く、其多くは蛋白尿を伴ふものである。

（療法）妊娠末期又は分娩期中なれば急速催產術を行ふ。其他の發作に對しては、クロロホルム等の全身麻醉劑を與ふるものである。

【子宮內膜炎】Endmetritis(獨) Endometritis(英)

（原因）本症の原因には種々あるが、大體は二種類に分つことが出來る。第一は黴菌の爲めに起るもので、急性の內膜炎は皆之れである。第二は黴菌に關係なくして起るもので、卽ち月經前後の感冒、それから白帶下のあるとき、手療治に藥などを膣內に入れた爲めに起ることもある。或は下手な醫師の消息子を用ゐて子宮を探つた爲めに起ることもあれば、其他產後に乳汁を哺ませぬ爲めに、貧血、流產、手淫、蟯虫の侵入、產褥時の不攝生、房事過度、幼兒にあつては麻疹、猩紅熱、痘瘡、濕疹等もあるが、其內最も多いものは、月經時の不攝生である、それから稀には虎列刺、窒扶斯、肺炎、再歸熱、赤痢、流行性寒冒などの後で起ることもある。

黴菌から起る內膜炎は通常六つに區別して居る。

（一）化膿性內膜炎、これは分娩、流產等の場合に適當の消毒を怠るか、或は取扱ひし產婆の手指、器械等の消毒が十分でなかつた場合、又は普通の時でも不熟練な手術を受たり、自分の不攝生から起ることもある。

（二）腐敗性內膜炎、これは流產や普通の分娩の際に胎盤の殘片などが子宮の中に殘つて腐る時に多く起るものであるが、又は子宮の中に出來た腫物がくづれて出來ることもあるし、又徒に物を入れて見たりした爲めに起るのもある。

（三）淋毒性內膜炎、これは淋疾の黴菌の爲めに起るもので、良人の淋疾のとき同衾した爲めに直ちにこれに罹るものである。併し毒力の弱い場合には、黴菌は深く入り込まないから、これに罹つても輕いのは普通である。斯やうにこれは多く良人から傳染る病氣であるから注意しなければならぬ。尤も稀には入浴に使用する海綿、手拭、風呂桶から感染することもある。然しこの淋毒性內膜炎は非常に癒り難いもので、化膿性內膜炎や、腐敗性內膜炎などは、適當の治療さへ施せば治癒に至るけれども、これは其急性の症狀が癒つても、根治することは六つかしく、十年も二十年も潛伏して居つて何かの機會に再び發するものである。

（四）黴毒性內膜炎、淋毒性內膜炎は妊娠を妨げること多いが、黴毒性內膜炎にあつては妊娠はさのみ妨げらるゝ場合は少いが、脫兒が子宮內に育つことが出來ないので多くは流產して了ふものである、そしてこれは黴毒の末期卽ち黴毒が全身に廻つた後に起るものである。

（五）結核性內膜炎、これは肺病と同じ結核菌の爲めに起るものであるが、唯子宮內丈

けの結核症の起る場合は稀れではない。併し肺、腸其他の臓腑に結核症があつて、後に子宮の内膜にも結核症を起すことが多い、子宮内の結核症は内膜にのみ止まらないで子宮の肉全體を腐らして仕舞ふ場合もあるが、又卵巣が先づ侵されて後に子宮に下る場合が多いので卵巣の結核症と共に存在することが少くない。

（六）實扶的里性内膜炎、これは化膿性内膜炎と同じく、流産後又は普通産褥時にも起るものであるが、此種のものは極めて稀れであつて、獨逸の大家が一二の例を報告した位のもので・日本には未だ聞かぬのである。

本症を起す處の黴菌は如何にして子宮内に入り込むかと云ふに、多くは外陰部から膣を經由して子宮腟内に入り込むものであるが、元來健全な婦人の膣内の分泌液は黴菌を殺す力を持つて居るものである、其上に子宮の口元の處は子宮頸管と稱し狹くなつて居る處がある（最も狹い處は子宮頸部と名づく）又其狹い管の樣な處には平素は濃い粘液が丁度栓をしたやうになつて居るものである。故に膣内に入る黴菌は、病を惹き起す種類の黴菌であつても、亦格別に病を惹き起すやうな黴菌でない。即ち人間にとつて無害な黴菌であつても何れも一方は膣液の爲めに生活力を殺がれ、或は全く殺されることになるし、又一方には子宮の頸管部には、自然の保護裝置があるから黴菌が子宮腔の内には容易に入ることは出來ない樣になつて居る。併し毒性の強い或は又容易に殺すことの出來ない黴菌にあつては此等の自然の保護も打負けて遂に病に侵されて仕舞ふことになるのである。それに又斯の如き黴菌の侵入と共に婦人の全身が弱つて居るとか、感冒を惹いて居るとか月經時の不攝生の爲めに内膜炎に冒され易い誘因をなして居るとか、また子宮の位置形狀が惡い爲に子宮に於ける血の循りが惡くなつて居るとか、或は又腫瘍が出來て居るとか、又は直接に子宮に傷を受けて居る場合等には皆此黴菌の爲めに侵され易いものである。又產をして約六週間計りの間は子宮口も擴つて居り、又子宮腔内が荒れて居る、其に惡露はあるし、最も黴菌の侵害を受け易い場合である、殊に產後の肥立の惡い場合、又發熱の場合には釀膿菌や大腸菌其他の黴菌が子宮を侵したのであるから本症に罹ることが多い、故に產後には殊に陰部の消毒を十分にし、產婆の手や指又總ての機械類・綿や布片の類も消毒を施したもの、・少くとも充分日に乾かして卽ち日光消毒を施したものを用ゐる樣にし、成るべく黴菌を陰部に近づけぬ樣にしなければならぬ。

（症候）本症を頸管加答兒と體加答兒と分けての說明は專門的になるから、唯急性と慢

性の二つに別けて說明して見やう。

一體黴菌性の內膜炎は痛みが急に始まるもので、其症狀も急に劇しい時期がある。黴菌性でないのは多くは慢性であつて何時始つたともなしに次第に惡くなる、內膜炎の急性期には、陰部に劇しい痛みがあり、丁度胎兒の產れる時の樣な痛みが起つて來る、そして下腹は壓された樣に重く、何か充滿して居るやうな感じがあつて、尿意頻發、排便の困難、又惡寒、發熱もあつて丁度流行性寒冒の樣になる、子宮の粘膜に赤くなつて腫れ上り、粘膜は赤くなつて腫れ上り、粘稠な帶下を澤山に漏す、そして其帶下には血液が混ずることもあれば、或は膿が混じることもあつて紅色、帶黃赤色、或は黃色を呈することがある。それから腐敗性の急性子宮內膜炎が起ると熱が高くなつて、漿液性或は血性或は膿性の帶下を澤山漏らして甚だしく惡臭を發するものである。次に慢性症には、輕重の別あるが、子宮頸部の粘膜が增殖して子宮口から膨れ出ると、僅かに身體を動かすとか、又便通の困難があるとか、交接をすると痛みを發して出血するものである。それから帶下の分量も多く又時々出血がある、出血は多くは月經の現はれる時期に起るが、時としては月經と月經との間に出血することもあるが、兎に角疼痛と出血と、多量の帶下の爲めに甚しき衰弱、

貧血を呈するものである。又內膜炎が起つてから古くなつたのは左程劇しい痛みはないが、唯月經前後に少し痛みがあり、又月經に障害を起したり、白帶下があつたりして何となく氣分が優れないので、不妊症を起すものである。

一體慢性と云ふ言葉は、專門家に於て不治の症と云ふ意味ではなく、危險であつた急性の時期が去つて治癒に近き時代に向つて來たものと云ふ位の意味である、急性の時期から慢性の時期に移ると、醫者の方では先づ〳〵難關を通り脫けて一と安心と云ふやうな次第であるから、決して心配することはないのである。たゞ急性で患者の苦しむ時には比較的に短いが愈々慢性となつて、全癒までには却々日數を要する、それに苦痛は急性の時期に比べると殆んど無いと云ふても好い程であるから、自然手當を怠つて病症を益々重らせる恐れがあるから十分注意する必要はある。處で醫師の方から見ると婦人の七八分は此慢性內膜炎に罹つて居るものと思はれる、急性から慢性になつたものは自分でも病氣であると云ふことは分るが、其他の原因假へば月經時の寒冒、いたづら、妊娠或は產褥中に適當な攝生を怠る爲めに知らず識らずに之に冒されて居るのが非常に多いものである。そして折々下腹が痛んだり、骨盤の深くに嫌な壓すやうな感じがしたりして出入の醫者に診て貰ふ

と胃腸が惡いものとなし一時的の療法をやつて置くし、自分も之を怪しまない、輕症のものであると食物を注意して靜かにして居れば、一時苦痛を緩めることが出來るから、胃腸の惡いものと思つて居るが、其内に段々病氣が重くなつて初めて白帶下と云ふ水の樣な透明な分泌物が出る。それが一層重くなると黄色い糊のやうなものを漏らす樣になる、さうなると下腹が脹り腰が冷え、腰から下腿にかけて痛みを覺え、夏期は足がほてり、冬期は反對に手足が冷えて逆上が强くなる、又月經も不順となり頭痛、眩暈がして食慾が減り、動悸が高まり、精神は憂鬱となる、と云ふ風で本症ほど婦人にとつて嫌な病氣はないけれども醫者の方から見れば、本症程手數の掛らぬ治し易い病氣はないのである、唯餘り長く治療を怠つて居るから、之を治すも容易でないのである、醫者が日々手を掛けて居る患者は大抵四年五年、短くも一二年は經過して居る　それで居て一週間位かゝつたら癒る積りで居るのは實に間違つて居るのである。

（豫防法）　本症は如何にしたならば豫防し得るかと云ふに、矢張其原因となるべきものに注意して成るべく、これに遠るより外に途はない、殊に寒冒の豫防、消毒せぬ物を膣内に挿入せぬこと、其他分娩時、又は產褥時にも充分攝生しなければならぬ、普通のお產より流產、早產の場には特に注意を怠つてはならぬ。然るに世間の人は多くは普通の產褥時には割合に注意するけれども、流產などには左程深い注意を拂はぬ樣に見える、と云ふのは甚だ間違つて居ると思ふ。普通の滿月に達した分娩は、果實が熟して自然に樹から落ちる樣なものであるが、流產は無理無體に親木から振り落すやうなものであるから、自然親木に傷を付けることになるので、從つて其瘡面は普通より餘程癒り難いものである、其處へ外部から色々な黴菌が入り込んで時を得顏に繁殖するものである。それを流產は胎兒が胎内にある時の短いの母體の疲勞がそれ程でないと思ふのは甚しき間違である、故に何れの產褥時に於ても攝生は特に注意を拂ひ少しの故障でもある場合には速に專門家の診療を受くべきである。又平素の注意としては月經の終つた後とか、其他不潔の物に接した場合には「イルリガートル」にて百倍の溫食鹽水、五十倍の溫硼酸液で洗ふがよい、又病氣の爲めとか又は便秘のある場合には「カスカラサクラダ」錠の如き緩下劑を用ゐて便通を整へるがよろしい。

（療法）　急性症に罹つたならば、身心の安靜と云ふことは大切であるから成るべく仰臥して休んで居るがよい、食物は成るべく淡泊なものを用ひ、發熱甚しき時は牛乳、粥汁、ス

ーブ」鷄卵等の流動食を選び、熱が下つたならば消化し易くて滋養分の多いものを用ゐ、便通ある樣に注意するがよい。療法としては膣灌注（膣加答兒と同じ）或は子宮頸部の亂刺、「イヒチオール」の内外用が宜しく、慢性症には全身强壯療法を行ふと共に、石炭酸水、「クレオリン」水、「フォルマリン」水等で洗滌を行ふがよい、又近時白蠟及び柯々阿酪よりなれる小囊を子宮内に入れ一二時間の後歩行せしむると藥液子宮全粘膜に蔓延して附着すると云つて賞用する人がある、又出血に對しては、麥角・「ヒドラスチン」を與へ粘膜の增殖せるものには粘膜搔爬法を行ふがよろしく、其他「スポストリー」法、「ピンクス」蒸氣腐蝕法、熱氣腐蝕法等、其他藥劑に、手術に種々おるが何れも專門に屬するもので、普通の醫師でさへ專門家に非らざれば困難な技術である、慢性症の輕いのなら自家療養として膣内溫湯灌注法を持長して行ふと效あるものである。それから交接は何れの場合であつても嚴禁しなければならぬもので、折角癒りかけたのに僅か一回の交接の爲めに再び、白帶下、或は出血を起して病症を增惡せしめた例は澤山にあるからよく〳〵注意を要するものである。又慢性症の輕いのは事情の許す限り湯治するがよいし、そして溫泉は成るべく鹽類泉を擇ぶがよい。東京附近では箱根の底倉、熱海の大湯、伊豆の伊東溫泉、修善寺溫泉、東山道方面では、上州伊香保溫泉、下野の鹽原溫泉などが適當である。

慢性症はなか〳〵容易に癒らぬものであるが、殊に素人の子宮内膜炎と云ふのは、この慢性症を云ふのである。そしてこの内膜炎は大抵多少の實質を伴ふもので、實質炎があれば、必ず内膜炎があり、内膜炎があれば大抵多少の實質炎はあるものである、つまり内膜炎とか實質炎とかは醫者が解剖的に付けた名であつて、病氣の方から云へば子宮に炎症を持つので單に内膜とか實質とか云ふ風に區別して來るのではない。故に先づ實質炎の伴ふた節には多少の時日を要しても實質炎の方を始めに治療し、腫れがなくなつてから、つまり内膜炎許りになつたと思ふ時手術を行ふと治癒するものである。併し若し實質の腫脹が尙ほ殘つて居る際に内膜の手術を行ふと、一時に分泌物がなくなり、全快した樣に思ふけれども、腫脹卽ち實質炎が殘つて居ると、長い間に慢性の炎症たる實質炎は追々と内膜に及ぼして遂に又々内膜炎を起し、分泌物が多くなるのである。併し素人の人は前の一時の分泌物減少又は絕無なる徵候を以て全快し、再び分泌物卽ち白帶下あるので再發の樣に思ふけれども、内膜を洗つて見ると全治でなかつたと云ふこと卽ち一時彌縫的策なることが分るのである、それから再發の有力なる原因は淋毒である、この淋毒は決して婦人自發の

ものでなく多くは、其相手なる男子より傳染するものである、從つて婦人は傳染を受けて苦痛に堪えず治療を得て全癒しても、男子に猶淋毒を有する場合には、再び傳染し前同樣の徵候を起すものである、故に淋毒症子宮内膜炎にあつては、婦人の治療を受くると共に一方男子の診斷を受け猶病毒の存在する場合にはこれが根治を圖らなければならぬ。

【子宮癌腫】Carcinoma uteri Uteruskrebs(獨) Uterus cancer(英)

（原因）本症は他の癌腫と同樣未だ確知されぬが、兎に角四十歳以上の婦人に多いものである。

（症候）本症の主なる徵候は、出血、白帶下、疼痛の三つであつて、交接の後に出血するなどは最も注意すべき徵候である。其出血が段々に增して來るに從つて白帶下を增して來る、そして其間には赤色を帶びる樣になつて、丁度肉汁の樣になつて腐つたやうな臭氣を發する。痛みは一樣でない、全く無いのも稀にはあるが、多くは始め骨盤の深部に時々輕い針で刺すやうな痛みがある、それがだん〳〵强くなつて刺すやうな穿つやうな、堪へられない痛みがある、其痛みが增すに從つて患者は日夜病床に呻吟し食慾も無くなり、營養は益々害せられ、顏色蒼白となり、眼凹み、鼻高く、全身痩せ衰へ、所謂癌腫性惡液質となつてまるで生きた髑髏のやうになるが、精神は其割合に侵されないから、其痛々しさ加減は全く見て居られぬやうになる、癌腫に罹つて死ぬまでの間は短きは九週日、長きは十一年に亙る報告もあるが、先づ大抵は一年か一年半位のものである。

（療法）獨逸のある婦人科學會にて配付せるものは次のやうなものである。

一、本症は痛みなく、又他の症候もなく始まる。

二、本症は最初の徵候は子宮出血及び白帶下であるが、其出血は或は月經過剩として、或は月經以外の不時の出血として、或は月經閉止期の出血として、又は月經閉止後の月經復歸として來る。

三、本症は唯手術によつてのみ治療し得るものであつて、しかも其手術は最も初期に於てのみ行はるゝものである、本症は手術を施さないで決して治療するものでない。

四、本症は放置するに於ては必ず悲慘なる死を遂ぐるものである。

五、本症の患者の救はるゝには、子宮出血及び白帶下が（殊に四十歳以上の婦人にあつて）あつたならば何の顧慮する處なく其忠告に從はねばなりません、然らざれば一時間毎に危險を增すものである。

六、故に命の惜しい人は、少しでも其現象があつたならば、直ちに醫師の手術を受けるがよい、一時間たりとも晩れてはならぬ、此惡魔を退治するには唯醫師の刀のみである。

以上は外科手術より他に療法なしとしたのであるが、近時此方面の療法に新生面の開けたのはラヂウム療法であつて、これを適當の時期に用ふれば確實に根治せしむることが出ると云ふ實例の報告がある。又レントゲン光線も同樣の奏效を有すると云ふ報告もある、之等は誠に喜ばしいことであるが、唯其療法の充分に行き渡らないのは遺憾である、だから若し癌に疑診を懷かれた場合には速かに手術を受けるか、或は大都會の病院に行き此療法を受けるがよい。

【子宮筋腫】 Myoma Uteri(獨) Myoma of the uterus(英)

(原因) 本症の原因は不明であるが、バレイは三十五歳から後に死んだ婦人百人中二十人は筋腫の爲めであると云ひ、又クローグ氏は五十歳以後の婦人の死亡者百人中四十人は筋腫の爲めに死んだものであると云ふて居るから、兎に角相當に多いものに相違ない、それから既婚と未婚との關係は既婚は三倍も多く、年齡は三十以上に多い。

(症候) 本症が發すると下腹部に膨滿の感があつて、時としては痛むことがある、尤も痛みは筋腫が餘程大きくなるまでは起らぬが、不整の子宮出血は屢々ある。筋腫が大きくなり次第に腹部が膨れて來るので、便通や尿利も惡くなり、又血の循りが惡くなつて外陰部や下肢に浮腫が來る、心臟も惡くなれば又出血の爲めに貧血となり、子宮は筋腫の出來る場所によつて、前方或は後方に屈曲し、交接にも月經時にも痛むやうになる、帶下も多量にあつて、追々身體が衰弱するものである、筋腫の大いのになると無論妊娠を妨げられるが、小さいのは格別障りにならぬらしい。

(療法) 本症が出來ても幸に中途で發育が止まるか、或は萎縮して小さくなれば宜しいが中には腐敗したりする爲めに死することもあるから、早期に切除するのは一番安全で然も確かである。また近頃レントゲン放線によつて奏效したる例がある故、手術を肯んぜざる人には此療法がよい。

【子宮實質炎】 Metritis(獨) Metritis(英)

(原因) 急性症にあつては、第一は產褥時に於ける腐敗傳染でこれは最も恐しいものである、次は月經に續發するもの、月經時の寒冒又は房事過度、外傷、醫師の粗暴なる診察、又は不潔なる器械の挿入等であるが、矢張內膜炎と同じく淋毒は最も多くの原因を爲すも

のである。

慢性症にあつては、急性症の吸收不充分なる爲めに起ることもあれば、分娩後及び月經時の不攝生、子宮内膜炎、子宮の轉位及び變形、子宮周圍炎、月經時の寒冒、甚しき興奮を伴へる反復せる交接、受孕を防ぐ爲めに射精前に中止せる交接、生殖不能の男子との交接及び手淫等が原因となり、其他消化障害、便秘等下腹部の充血を來すことも矢張り原因となるものである。

（症候）急性症　惡寒がして戰慄が起り、それから熱が出る、下腹や腰にひきつれるやうな痛み、並に壓すと強くなる痛が下腹にある。又炎症が腹膜に及ぶときは痛みが全腹に放線して少しの運動、咳嗽、噴嚏、談話の如き些事に於てさへ痛みが劇しくなり、腸や膀胱に甚しき障害を與へるものである。又月經時の寒冒の爲めに起つたものであると、月經が俄然停止し、數日を經て再び急激に現はれて來て、一般に其量は少くなつて來るけれども時には非常なる出血を來すものである、そして本症の善良なる經過を取るものは、他に合併症のなき場合には數日の後には痛みも熱も去つて了ふけれども、淋病の爲めに起つたものは、喇叭管や腹膜にまで及ぶことが間々ある。

慢性症　一般の婦人病に於ける如く生殖器に特異なる病的知覺があり、帶下が多量で月經時には出血量は增し、月經は不順となつて疼痛を伴ひ、月に二三度も月經を見ることもあれば、月經間缺時には血樣の帶下があることが多い。其他腹部の異常痛、薦骨部の疼痛、偏頭痛、食思缺乏、消化不良、便秘等を伴ふものである。

（療法）急性症には、消炎法として安靜に平臨せしめ、下腹部に氷囊を貼し、又下腹に水蛭を貼する、それと同時に消毒性に兼ねて冷却性の灌注を行ひ、止痛藥として阿片丁幾二十滴を毎二時間に服用せしめ、又子宮の亂刺、坐浴、下劑を與ふるなどもある、又月經に繼發せるものにあつては冷罨法に代ふるに溫罨法を以てするがよい、其外攝氏五十度の溫湯を灌注するなど種々の療法がある。

慢性症の治療法は醫師の熟練なる治療を要するものであるから略するが、素人療法として行ふべきは攝氏三十二度位の溫湯に少しく食鹽を入れたるものに六分乃至十分間坐浴を爲すがよろしく、湯治又は海水浴は大に效がある、食慾も少く又經血も少きものには海水浴がよろしく、之れに反して經血は多量なるも食慾あるものは、含鐵溫泉に浴せしむるがよろしく、又甚しく衰弱せるものにあつては山地或は森林地に轉地せしめて、新鮮空氣中

に逍遙せしひるがよい。

【子宮の畸形】Die Missbildung der Gebärmutter(獨) Deformity of the Uterus(英)

(成熟子宮) 子宮の畸形卽ち發育の異常を述ぶる前に、少しく成熟せる子宮の形狀に就て說明して見よう。

成長した人の子宮の形狀は、普通の茄子の臀の方を壓し菱げた樣なもので、上の方は下の方より幅が廣く、全體は手拳よりは小さい、曲尺で二寸六七分の長さで、上の方の最も幅の廣い所が一寸六七分のものである。そして子宮は腔洞に成つて居る、卽ち一の肉の囊と見做しても良いもので、其口は下を向いて腟の中へ開いて居る。此腔洞は卽ち子宮腔と唱へ、其口は子宮外口と稱せらるゝものである、また其肉の厚みは凡そ三分許りで、子宮腔の長さは子宮全體の長さから三分許り子宮の底になつて居る肉の厚さを減いたゞけ卽ち二寸三分ばかりあり。斯くの如き大さと形狀とが種々なる子宮の病の爲め、または子宮の周圍にある臟腑の病の爲めに、色々に形狀が變り、又は大きくなつたり、小さくなつたりするものであるが、また生れ附きで、子宮の形が變つて居る人もあれば、或はまた子宮が前の如き大さに育たない人等もあつて、此等は皆異常と稱するものである。

(畸形の種類) 生れ附き形狀の變つて居る子宮には、複頸雙角子宮と云ふて、子宮が全く別々に發育したものもあり、子宮腔が二つあつて、腟迄も左右半分づゝになつて居る重複雙角子宮と云ふものもある。また單頸雙角子宮と云ふて、上の方は二つに分れて居るが下の方と腟丈けが一つよりしか無いものなどもあるかと思へば、また其外形は少しも變らない、卽ち前に述べた通り、臀の方だけ菱げた茄子の樣な正しい格好をして居るが、子宮腔の眞中に縱の隔ての出來て居て、其爲めに一つあるべき子宮腔が、左右に二つ並んで居るものもある。また中には子宮が左か右かの一方にのみ育つて、片方が育たぬ爲め、一方にのみ細長い子宮もある。

其他にまた子宮口の塞つて居るものや、又は子宮腔の無いものなどある。それから子宮腔には左右の上の隅の方に、左右の輸卵管の口がそれ〴〵開いて居るのが普通であるけれども、其れの塞がつて居るものもある、それは醫學上では子宮閉塞と名づくるものである此子宮閉塞は產れ附きさういふ風になつて居ることもあるが、それよりは、チフス、ヂフテリー、黴毒、新生物、猩紅熱、コレラまたは子宮頸管加答兒等の病氣の後に起ることが多いものである。

前に述ぶるが如く子宮の形の變つて居るものは、少し位のことならば、格別症候を呈せぬものであるが、時としては其形狀の惡い爲めに炎症を持ち易く、またそれの爲めに妊娠の出來ぬこともあり、妊娠しても胎兒の發育を妨げることもある。そして此等の多くは形狀を直すと云ふことは六づかしいが、若し炎症があつたり、何か障害のある場合には、手術によつて治療することが出來るものである。

（療法） 子宮が閉塞して居ても、月經の來潮以前にあつては格別の障害は無いが、月經が開始すると、其血液が外に流れ出づることが出來ないから、非常の苦痛を覺ゆるものである、卽ち下腹部が緊滿して疼痛があり、爲めに全身に種々の障害を與ふるものであるから年頃になつても月經が無く、然も毎月下腹部に疼痛を覺ゆる樣な人があつたら、先づ此症に疑を置いて、專門家の診察を求むるが良い。子宮閉塞にあつては、元より妊娠することは無いが、手術によつて之を開除すれば、妊娠もすれば、また前に述ぶる樣な苦痛も無くなるものである。また其療法は膣閉塞の場合と同じく、切開手術を行ふのである。

（子宮萎縮） それから一般に陰部の發育は宜しいが、獨り子宮のみ育たないものがある これは子宮萎縮と云ふものであるが、これには胎兒或は小兒子宮と云ふて、子宮全體の發育の惡いものと、それから生殖器成熟の時期に於て病氣に罹つたとか、或は他の原因の爲めに、子宮の萎縮したもので、これは其形狀こそ小さいが、兎に角完全したる形狀を更へて居るものである。小兒子宮を有する婦人は、生殖器成熟期に至るまでは、少しも身體に障りがあるものでないが、一旦結婚しても月經も無ければまた久しく妊娠もしないので、始めて何處かに惡い處があるでは無いかと考へて、醫者に診て貰ふのが多いやうである。尤も盛春期になつて、普通の人ならば既に月經があると云ふ頃になると、丁度普通人の月經が來潮すると云ふ場合に、中間痛と云ふて、下腹部の兩側に疝痛を起し、生殖器の分泌も增加すれば、膀胱や直腸が壓されるやうな氣がして苦しむものもあり、甚しきは神經症狀や頭痛を來したり、また吻血や痔血などが出て、丁度代償性月經のやうな風になるものもある、そして此等の婦人は、見たところは普通の婦人と異る處は無いが、一般は脂肪過多で年齡の割合には若いのが常である。

（療法） 胎兒子宮或は小兒子宮を有するものは、如何なる方法によつても、之を增大發育せしむることは出來ぬが、病氣の爲めに萎縮したもの、これは惡性貧血の爲めに起るものが多いから、充分滋養劑を取らしむると共に、鐵劑を服用せしむるがよろしく、また餘

りに脂肪肥滿せる爲めに起つたのならば、海水浴または種々なる運動を盛んにして、尙ほ天然カルヽス泉鹽を毎朝服用せしむるがよい。

それから局處療法も亦必要であるが、子宮萎縮の爲め甚しき全身障害を來せる場合ならば、處女には局處療法を施さぬ方が宜しい。格別、さしたることの無きものであつたならば、全身症があれば元よりのこと、若し無くとも成るけれども既に結婚せる婦人にあつては、其療治と云ふのは、子宮の血行を盛んにして、其筋べく早く療治を受けた方がよろしい。

肉を發育せしむる方法を取らしむるもので、專門家の賞用するのは、膣部の亂刺と云ふてマイエル亂刺刀を以て、子宮口から其口唇粘膜を種々の方向に亂刺するものである。それからまた子宮內扞と云ふて、象牙又は亞鉛或は銅製の小杆を子宮腔內に挿入して其粘膜を刺戟することもある。或は子宮を按摩する方法や、電氣をかける方法等もあるが、家庭內に於て、素人療治として採用することの出來るのは、熱い湯を膣內に深く灌ぎ込む仕方である。それも矢張子宮內に於ける血行を良くして、子宮の發育を良くすることが出來るものである、それに此膣內溫湯灌注法は、子宮や其周圍にある炎症を去る效能があり、また白帶下のある人や、其他種々の場合に應用することの多いものであるから、少しく詳述し

よう。

先づ道具から並べると、湯を入れる桶の類と、其桶から湯を導くゴム管三四尺許り、其先きに着ける嘴管と稱する硝子の管の六七寸位あるものと、これだけあれば宜しいが、嘴管はへの字形に少し曲げてあるものゝ方は使ひよい。太さは手指の太さ位で、肉厚な硝子管であると安全である。また藥種屋や醫療器械店で賣つて居る「イルリガートル」と云ふものは、湯を入れるところは硝子、眞鍮、亞鉛、鐵葉等で出來て居るが、これを求めて使用するのは面倒が無くてよい。そこで道具立が出來たら、其れに入れる湯は一度よく沸かしたのを冷して使ふがよろしく、其湯の中へ湯一合に付き食鹽を半匁程の割合で入れる、丁度薄い鹽湯の加減である。湯の溫度は攝氏の四十五度位、一回に使用する量は約五合位で、一日二三回灌注するとよい。使用法は湯殿か、湯殿無くば便所でも宜しいから、「イルリガートル」を三尺位の高さに掛け置き、排便する時の格好にして、少しソリ目になつて居る、手や指は充分に石鹼にて洗ひ清め、嘴管も清潔にして、始めは外陰部を洗ひ、それから嘴管を充分深く膣內に挿入して深いところに、充分湯が屆くやうにするのである。そして洗つた後は、暫く横になつて休んで居るのが宜しい。

【子宮位置不正】 Die unregelmässige Lage der Gebärmutter(獨) Irregular of the uterine position(英)

（形の不正） 子宮が適當の大さと、適當の形に育つたものが、種々の原因の爲めに歪んだり、曲つたりすることがある、これを子宮の形の不正と唱へるものである。子宮の位置の不正と形の不正とは、それ〴〵別にもあるけれども、また多くは雙方合併することのあるものである。元來子宮のある場合は、骨盤腔即ち腰の骨の中の中央で、前の方には膀胱が直接に連つて居り、後の方には腸管がある、子宮の左右には肉厚の膜を以て、骨盤の內側に引張られて居る、それで此膜に異常が無い限りは、左右へは動かないやうになつて居るけれども、これに反して前後の方面には動き易い、即ち尿が膀胱に充ちて居る時には膨れた膀胱の爲めに、前から押されて子宮は後の方へ行く、即ち子宮が後方から押し出されて前の方へ行く、これも矢張其位置が不正となるものである。そして是等の位置の不正が小便をした後または大便を通じた後には、夫々元の正しい位置に歸る間は宜しい、即ち單に子宮の前の方にあるのを子宮前位症、また後の方にあるものを子宮後位症と稱するものであつて、未だ病氣の仲間には入らぬが、それがいろ〳〵の原因によつて、假令大小便を通じても正しい位置に歸らずに、何時迄も不正の位置にある樣であつたならば、それは即ち子宮の位置不正と云ふて、全く立派な一つの病氣になつたのである。

（位置の不正） 子宮の位置は大體は正しい、即ち骨盤腔の略ぼ中央にあるが、併し子宮の上の方の部分が、下の方の部分即ち子宮口のある處よりも、前の方に傾き過ぎて居る場合がある、それを子宮前轉症と云ふ、尤も此場合に子宮自身は略ぼ眞直な形狀を保つて居る、即ち棒を傾けた樣になつて居るが、若しそれが子宮其ものが前の方へ折れ曲つて居るのであつならば、これは子宮前屈症と名づくるものである。尤も正しい子宮は眞直に伸びて居るものでは無くて、少し前の方へ屈んで、そして傾いて居るものである、即ち正しい子宮、子宮の生理的位置は前屈及び前轉の有樣である、然るにこれが普通よりも甚しく前へ傾き、或は前へ屈んで殆んと折れる樣になつて居るのは、既に生理的の範圍を脫して病氣になつたのである。またこれと反對に子宮後轉症及び後屈症と云ふものがある、甚しく後方へ折れ屈んで居る時には、子宮口の方が上になつて、子宮の本來の上の方の部分が子宮口よりも下になつて居るものがあるが、此等は共に先天性竝に後天性に起つたものと妊娠中に起つたものと、產褥中に起つたものとある、此子宮後屈のことは、後屈子宮のところに詳しく記載してあるから、それを參照されたい。

（子宮前屈症）　前屈症の先天性に起るものは稀れであるが、後天性に起るものは、子宮の後ろの方に骨盤結締織の炎症あつた後に起るものが最も多く、其他卵巣の腫瘍、子宮後塗の腫瘍、子宮の慢性炎症或は淋疾なども原因となることがある。

其症狀は、月經の前に、直腸及び膀胱に壓重の感並に裏急後重の感が起り、月經が濟むと其感じが無くなり、其後月經の度毎に、右樣の症狀が起つて、遂には疝痛、ヒステリー、不妊症等を來すに至るものである。それからまたしば〳〵子宮粘膜の加答兒を併發するもので、劇しい薦骨痛があり、下腹の知覺過敏、子宮の痛み、大小便の通利困難、刺戟性分泌物の增加、胃病の症狀、神經病の症狀などの起るものである。

（療法）　處女にして、合併症の無いものであつたならば、滋養に富んが消化し易い飲食物を與へ、體育法に注意すればよろしいが、合併症のあるものは、どうしても局所療法を要するものである。それから妊娠中の前屈は、經產婦に起るものであるが、腹帶を用ひて之を豫防することも出來れば、また治療することも出來る。次にまた分娩後に起るものは通常急に起るもので、產後三日乃至五日目位に突然尿の通利が惡くなり、劇しい痛みが起つて、患者は出血の爲めに非常に弱るものであるから、速に專門家を招くがよい、この療法としては、攝氏五十度の溫湯灌注或は熱蒸氣を半分乃至一分間子宮腔に吹注せしむるなども應用せらる。

【子宮脫垂症】　Gebärmuttersenkung(獨)　Prolapsusuteri(英)

（原因）　分娩後は、一般に骨盤底の組織が緩んで居り、また膣管も擴がつて居るから、此際に劇しい腹壓を起したり、または產後間も無く立つて勞働などすると、子宮が下の方へ垂れ下つて來ることがある。また手淫の爲めに起ることもあれば、老年になつて脂肪が減ずると脫垂することもあるが、最も多く起るのは二十五歲乃至三十五歲位の婦人である。そして單に子宮のみが脫垂することもあれば、或はまた膣と共に脫垂するものもある。

（症候）　子宮の脫垂するのは、大抵徐々に起るものであつて、初めに陰門が開いて、內臟の脫出するやうな感じがあつて、步行や起立が妨げられる、そしてそれが長くなると、衣服で摩擦せられたり、糞尿で汚されたりして、急性の炎症を起したり、時としては潰瘍に陷ることがある。それからまた產褥時に急に起つて身體を過度に動かすと、急に子宮脫垂が起つて、俄かに殆んど堪へ難き劇しい努み、下腹の壓重の感、それに牽引性疼痛があつて失神卒倒することがある。

（豫防法）子宮脱垂を豫防するには、其傾きのある人は、産後に毎日大小便の通じがあるやうに爲し、成るべく側臥せしめて、充分に恢復する迄は、勞力殊に努力を禁じ、消化し易くして滋養に富める食物を攝らしめ、股間には丁字帶を施して置くのである。

（療法）脱垂の輕いものは、攝氏五十度の溫湯の灌注かまたは坐浴を取らしめ、消毒したる栓塞をして置き、身餘を安靜にするのである。次に全く脱垂したのであつたなら、子宮に油を塗り、指にて之を握り骨盤軸の方向に徐々に壓し上げると、大抵は整復することが出來るものである。整復し終つたならば靜かに臥かせ、單寧酸溶液に浸したる栓塞を以て栓塞して置くと宜しい、若しそれでも固定が出來ないで、再び脱垂する傾きがあるならば、ペッサリウムを用ゆると大抵は固定されるものであるが、中にはどうしても固定の出來ぬものがある、かういふのは仕方が無いから、根治的手術として、膣粘膜の弛緩して居る部分を切り除つて、其痕を縫合して膣を狹くして、子宮の脱垂を防ぐのである。

【子宮破裂】Uterusruptur(獨) Rupture of the uterus(英)

（原因）狹窄骨盤、骨盤内腫瘍、子宮畸形、胎兒の横位、または頭位に於ける腦水腫、等によつて起るものである。

（症候）前驅症狀として陳痛過劇がある、けれども分娩は進まず、産婦は不安となり、腹痛、速脈を起す。かくして破裂を來せば、下腹に劇痛を覺え、陳痛は歇止して、腹壁直下に胎兒を觸るゝに至る。外出血は少量なるも、内出血が多量なる爲めに、急性出血の症狀を呈し、患者は虚脱、失神に陷り、早く手術によつて、之を救ふにあらざれば、死を免れざるものである。

（療法）豫防法としては、産婦を精査して、凡て子宮破裂を來すべき原因に對して速に適當の處置を施すのである。また破裂に切迫するときは、急速に胎兒を分娩せしむるがよろしいが、若し自然産道より娩出せしめ能はざるときは速に開腹術を行ふて分娩せしむるのである。また破裂を來せるものは、急遽開腹術を行ひ、胎兒を娩出せしめたる後、子宮を縫合する等一般外科的の療法による。

【子宮血腫】Haematometra(獨) Haematoma of the uterus(英)

鎖陰、及び子宮畸形中子宮閉塞を見よ。

【子宮贅肉】Uterispolyp(獨) Polypus of the uterus(英)

（原因症候）粘膜性贅肉は慢性子宮頸管加答兒の爲めに、粘膜が增殖肥厚して、小豆大

乃至雀卵大鮮紅色柔軟なる疣贅として子宮外口より突出するものであつて、少許の接觸によつて出血し易いものである。また大形の硬固なる贅肉にして子宮頸管及び外口を擴張して、外口外に脱出するものがあるが、これは多くは有莖の粘膜下發生の筋腫なるものである。

（療法）粘膜性のものは、捻轉によつて莖を根底より離斷するがよろしく、また筋腫にありても莖を切斷するがよい。そして同時に存在する子宮内膜炎の治療をも併せ行ふのである。

【子宮飜轉症】Inversio Uteri(獨) Inversion of the uterus(英)

（原因）分娩時若しくは產褥時に於て、子宮壁が高度の弛緩を來せる爲めに起るもので多くは不適法の產科手術に關聯するものである。

（症候）急に起れるものにあつては、膣内若しくは膣外に鮮紅色にして出血し易き腫瘤として、飜轉せる子宮内面が現はれるものである、つまり子宮脱垂症は、子宮が其まゝ下つて來たのであるが飜轉症は飜轉して下つて來たので、脱垂症よりは一歩重いものと見做すことが出來るものである。

（療法）複納を試み固定法を行ふことは、脱垂症のそれと同樣である。けれども複納が不可能の場合、または子宮壁が壞疽に陷れる場合には、切斷するか、若しくは子宮の全剔出を行はねばならぬ。

【子宮外妊娠】Extrauterinschwangerschaft(獨) Extrauterine pregnancy(英)

（原因）輸卵管炎を患ひたる人は、子宮外妊娠を起し易きものである。又輸卵管炎は既に記載せる如く、淋疾が多く原因となるものであるから、婦人が尿道淋に罹れるときには合併症を來さざる間に、早く根治せしむることが肝要である。

（症候）受胎せる卵は、子宮内に於て發育するのは當り前であるが、中には子宮以外の所で妊娠することがあつて、それを子宮外妊娠と云ふものである。假令卵が子宮外に發育しても子宮内には、普通の子宮内妊娠のやうに脱落膜を生ずるものである。

卵が輸卵管で發育すれば輸卵管妊娠、卵巢で育てば卵巢妊娠、腹腔で育てば腹腔妊娠と云ふものであるが、此中輸卵管妊娠が最も多いものである。

子宮外妊娠でも、矢張普通の妊娠のやうに乳房も大きくなれば、子宮も軟かくて大きくなるが、唯違ふのは、時々或は妊娠の始めから不正の出血があつて、子宮の脱落膜は同時

に、相當に多い出血と共に外に排泄され、子宮は四箇月までは大きくなるが、其よりも後は反つて小さくなる。そして胎兒の動くのは、通常の妊娠よりも早く分り、其際には劇しい痛みを感ずるものである。

子宮外妊娠で、初めの中に胎兒が死ぬと、其胎兒が吸收せられ了ふこともあるが、少し妊娠が進んでから卵の囊が破れると、劇しい痛みが起つて、腹内に大出血を起し、妊婦は貧血の爲めに死んで了ふ。若しまた妊娠の終りまで胎兒が生存して居つても、出る途が無いから、矢張胎兒が壞れて、母は腹膜炎を起して死ぬ。或は稀れに死んだ胎兒が腹の中で化石して何等の害を殘さぬこともあるが、多くは早期に手術しなければ、母の一命を失ふに至るもので、甚だ恐るべきものである。

（療法）　子宮外妊娠は斯くの如く恐るべきものであるから、これを惡性の腫瘍と見做して診斷確定次第、手術によつて之を除去すべきものである。また妊婦が若し普通の妊娠よりも變だと思つた場合には、速かに醫師の診察を受け、若しいよ〳〵それと決つたならば手術は一に醫師に任せ、家人はよく醫師の命令を守らねばならぬ。若しまた不幸にして早く破裂して疼痛を感じ、或は出血を來せる場合には、平臥して腹部を氷嚢にて冷すと共に一方成るべく早く醫療を求むるがよい、かくすれば九死の中に一生を得るに至るものである。

【子宮の腫瘍】Geschwülste des Uterus(獨)　Tumor of the uterus(英)

（種類）　子宮の腫瘍中主なるものは、癌腫と筋腫であるが、これは既に記した、今肉腫と腺腫に就て記載しよう。

（子宮肉腫）　癌腫は多く老人に發するが、肉腫は之れに反して、何れの場合にも比較的若い婦人に發するものである。子宮の肉腫は癌腫程多くは無いが、矢張惡性腫瘍の一つであるから、早く截り取らないと一命にかゝるものである。

肉腫の症候は、矢張疼痛と出血である、尤も疼痛は全く無いこともあれば、或は非常に劇しいこともある。帶下は初期には水のやうであるが、末期になると、これも癌腫のやうに臭氣を來すやうになる。

肉腫が粘膜に出來たときにはそれほどでも無いが、子宮實質に出來ると、急に大きくなるもので、肉樣のものは子宮全體を摘出しなければならぬものである。

（子宮腺腫）　子宮腺腫は、子宮の粘膜の腺が大きくなるか、或は茸腫のやうに腺が增殖

して子宮内に垂れ下ることがある。腺腫からして、また癌腫に轉ずることがあるから、腺腫が出來たら、矢張子宮の全摘出を行ふ方が安心である。其症候は出血であつて、月經もまた強くなるものである、爲めに患者は貧血に陷り、遂には衰弱して、死に至るものである。

【子宮膣部潰瘍】Geshwürder Portio vuginalis(獨) Ulceration of the vaginal portion(英)

本症には、糜爛、壓迫創、軟性下疳、護謨腫、結核性潰瘍、癌腫等の種類があるが、此中糜爛は最も多く遭遇するところのものである。

【子宮膣部糜爛】Zervixerosion(獨) Erosion of the vaginal portion(英)

（原因）子宮頸管加答兒の炎症刺戟によつて起るものである。

（症候）子宮膣部に鮮紅色の糜爛を生じて、これに觸るれば、上皮が容易に剝脫して出血を來し、腰部及び腹部に牽引性鈍痛を發するものである。

（療法）發煙硝酸、木醋、石炭酸等にて腐蝕を行ふ。また手術的には楔狀切除又は烙白金の燒灼を行ふ。

【子宮頸管裂創】Zervixaiss(獨) Fissure of the cervix uteri(英)

（原因）分娩殊に手術的分娩の後に多いものである。

（症候）分娩期中に發生せば其時より出血を來し、殊に胎兒娩出後は殊に甚しく、これによつて死を致すことがある。

（療法）豫防が必要である。分娩直後に於ては連に縫合を行ふ。

【子宮頸管加答兒】Zervikalkatarrh(獨) Catarrh of the cervix uteri(英)

子宮內膜炎の一分症である、詳しくは內膜炎のところを見られよ。

【子宮頸管狹窄症】Zervixstenose(獨) Stenosis of the cavity of the cervix uteri(英)

（原因）先天性には子宮萎縮症等に來り、後天性には頸管裂創、手術、潰瘍等の後に起る瘢痕等によつて狹窄を來すものである。

（症候）月經の際惡心、嘔吐等の反射症候を發し、また疝痛を發するものである。

（療法）消息子挿入により擴張法を試ひ、また頸管切開術等を行ふ。

【小兒消化不良症】Die Verdauungsschwäche der Kinder(獨) Dyspepsia of children(英)

（原因）哺乳兒の消化器の造構は未だ完全に發達して居ない、又體質の纖弱なる爲めに傳染又は中毒に對する抵抗力も至つて弱いから、消化器系疾病に罹り易い素因を具へて居

るのである、卽ち口腔には齒も生じて居らず、唾液の分泌及び其性質も大人と違ひ、胃は殆んど沿直になつて、其胃壁も發育十分でなく、腸も亦其の通りである、要するに解剖的竝に生理的に、既に疾病に罹り易くなつて居るのである。

直接の原因は乳汁である、之は便宜上天然營養法卽ち人乳によつて養育せらるゝものと人工營養法卽ち牛乳、山羊乳等によつて養育せらるゝものとある。

天然營養法によるものでは授乳婦の精神感動、月經、食物、藥劑、年齡、疾病、腐敗、授乳の不規則なること、不適當なる病乳等は其主なる原因となる。

人工營養法に由るものでは、牛畜の飼料、疾病、腐敗牛乳、過飲、不正の授乳、稀釋法の過失、食器の不潔、食物の溫度等は其主なる原因となる。

それから不適當なる藥劑を飲ませる爲めに消化不良症を起すことがある。例へば「マクリ」、胎毒下し、救命丸等現今盛に行はるゝ賣藥を用ゐること、其他苦味丁幾、稀鹽酸などを用ゐることによつて本症を起すことも少くない。此等賣藥の爲めに重症なる消化不良症を起して斃れるのを屢々實見して居る。

其他誘因となるべき事項もある、卽ち季節の關係(夏期最も多い)生齒の時期(七—十ヶ月頃にこの病に罹り易い)此年齡頃には凡て體の器官も段々揃ふて發育するのであるから、多少抵抗力が弱くなつて居ると思ふ。其外口腔疾患も誘因を爲すのであるから、哺乳後には常に湯水又は硼酸水で口腔を拭ふことが必要である、口瘡、口内炎、亞痢答、早產、結核性遺傳等も補助原因となるものである

(症候) 初めは兒は不安となり平常の樣に安眠もせず、哺乳量も減じて元氣もなくなり能く啼泣する、大便は初めは軟便で粘液、顆粒を混じ、色は綠色で臭氣も平常より强く、水分も多くなり、一日二三回位のものが段々と回數が增して來て十回以上になる。吐乳も其間に初つて哺乳後十五分乃至三十分も經つと吐くが、乳は少しも變化せぬこともあるし、或は多少粗大に凝固して居つて、酸臭或は腐敗臭を帶びるが、此れも症狀の惡化に連れ回數も多くなり、哺めば直ぐ吐く樣になり、遂には黃色を帶びる膽汁の混りて來る樣になる。多少の熱發もあつて、高き時は四十度近くにもなることもあるが一定せぬ、口腔は乾燥し舌は白くなつて食慾なく、煩喝を覺える。腹部は膨滿し腸の蠕動も亢進し疝痛もある樣になるが、此時には輕症消化不良の時であるが、素人は時候に中つたのだと云つて醫治を受けずに油斷をする方が澤山あるし、醫者の方でも經驗のなき人は簡單に考へる場合もある

のであるが、此等の症狀が四五日も續くと患兒は羸瘦と疲勞とを增し、吐乳下痢も多くなり、高熱を發し、痙攣などを起す樣な重症不消化症に陷るのであるから油斷をしてはならぬ。

重症の場合になると下痢は一層强くなつて水樣下痢となり、口渴甚しくなり、吐乳も一層烈しくなり、患兒は絕えず頭を左右に回轉し、嘆息する樣な深い呼吸をする樣になり、眼窩は陷沒して半開し、眼球を屢々上の方に向け、角膜は光澤を失ひ粘液で蓋はるゝ樣になり、口は尖りて見え、口唇の周圍は暗紫色を呈することがある。四肢は厥冷くなりて倦怠を覺え、大腿の內側などの皮膚には著しく皺襞を增し、羸瘦と疲勞とは著しく增して來て熱も一般に高くなり、利尿の數は減じ、精神は無慾又は嗜眠狀になり、慈愛深き兩親の顏を見るも一向に平氣になり、大顱門も陷沒して、時としては腦膜炎の樣に痙攣を起すことがある、腹部なども初めは膨滿するが次第に綿の樣に軟かになり、腸の蠕動も明に見える樣になる。此の樣な症狀を呈してからは、如何に騷いでも心配しても大抵は治癒の見込がないから、小兒の吐乳、下痢は決して油斷してはならぬ。

（療法） 療法は醫師の仕事であるから詳しく述べる必要はないが、唯家庭に於いての注意を述べやう。小兒に與へる乳に平常から注意して、授乳の度數、稀釋度、消毒等に氣を付けられたいのである、既に下痢又は吐乳あれば直ちに專門の醫師に診察を受ける樣にするがよい。

そして醫師の來るまでに是非灌腸をして腸の內にある惡い有毒な便を早く排泄せしめ、乳は非常に薄くするか、或は全く乳を廢して燕麥汁、卵白水或はソキスレットの滋養糖などを飲ませて胃の負擔を輕くする樣にした方がよろしい。卵白水はエプスタイン氏の試驗に由ると黴菌の發育を妨ぐことが出來ると云ふことである、其作り方は鷄卵一個の白味を一旦煮沸して水二合五勺許りに混和して、之を「ガーゼ」で漉して之に少量の白糖を加へて小量宛三乃至四時間目位に飲ませるのである。

【小兒コレラ】 Die Kinderchelera(獨) Summer diarrhea or Cholera infantum(英)

（原因） 本症は、小兒吐瀉症とも云ひ、亞米利加では夏季下痢と云ふて居る、今迄健康であつたものが突然犯さるゝこともあり、又小兒消化不良症から轉症することもあるが、急劇に經過して直ちに虛脫の症候を發する恐るべき病氣である。

そして其原因は未だ判明せぬが、傳染病たることは疑ない、夏季に多く、秋冷になるに

從ひ自然に減じ冬季に至れば消滅するのが通例である。屢々流行性となつて人家稠密なる非衛生的生活を營む者に來ることがある、殊に生後一年若しくは二年位の小兒にして人工營養法に由る者、及び離乳期に當れる者に最も多く本症を發するものである。母乳兒は本症に對して免疫であると云ふ學者があるが、時としては母乳にて發育せられて居る健康兒にも本症を發することがある、是等は他の食物殊に菓子類、果實類、或は水、不潔なる玩具などから傳染したものである。

（症候）　本症の多くは初め突然の下痢を以て起り、哺めば直ぐに下痢すると云ふ有樣で、其便は水瀉便で褐黃色或は黃色の水分が澤山にあつて、其中に青色又は黃色或は無色の粘液絮片が交つて居る、又時としては血液の色を呈して一種固有な臭氣を放ち二十四時間中十乃至四十回或は其以上になることがある。同時に體溫も昂騰して三十九度乃至四十度以上になることが通例であるが、腸窒扶斯などの樣に一定の熱型ばなく、時としては平溫よりも下ることがある。この樣に激しい下痢と發熱との爲めに著しく口渴を訴へて、何でも手に當るもの例へば頭部を冷す氷囊などを摘み口に入れやうとする程で、牛乳壜とか、匙などを見ては殆んど堪へ切れない樣子である、併しこれは口渴のためで食慾の爲めではないから誤解して食物を與へてはいかぬ。口腔粘膜は乾き、舌は白苔を帶ぶる樣になる、嘔吐も次いで起り、飲んだものは勿論粘液性液體又は茶褐色或は珈琲滓樣色を呈する物を吐いて激しい時には飲めば少しでも直ぐに吐くやうになる。

心臟の力も弱り脈搏が頻數にして細小となり、血液內及び諸臟器の水分が減ずる爲めに紅顏肥滿したる小兒は急に痩せ、其他總て重症の消化不良症に見る樣な有樣になつて、重いのは二十四時間以內に死することもあるが、通常は五日乃至九日位で死亡するものである、併し早く手當を施せば多くは癒るものである。

（豫防法）　夏期にあつては、特に牛乳は十分に煮沸し、哺乳器を清潔にし、授乳時間及び哺乳量に注意し、善良なる飲料水、室內の清潔に注意して、少しでも小兒に異常があつたならば速かに醫療を受け、殊に方々に小兒の下痢病あると云ふ樣な歲にあつては一層注意せねばならぬ。

【小兒萎縮症】 Die Schrumpfung der Kinder(獨)　Shrinked children(英)

（原因）　本症は、不適當なる養育殊に乳の粉などで育てたものに多い。

（症候）　本症に罹つた小兒は、其頰骨立つて上から下へ尖つて居り、頭の〇門の處がピ

シャリと凹んで、彼方此方の骨が重なり合つて居る、それから眼の周圍、口の周圍は縦横に皺襞を疊んで居る、眼が凹みきつて怨めし相な目付をして居る、そして生れながらに老人の顔のやうな顔付をして居る、聲は嗄れて居り、裸體にすれば全身皺だらけで肋骨は一本一本數へることが出來る程痩せて居る、臀部や大腿の邊は垂れ下つて居て丁度「コレラ」病の後で水分がなくなつた樣に摘み上げることが出來る。それから手足の先は冷くお腹丈は非常に大きく皮膚が透き通る樣に薄くなつて、腹は太鼓の樣に膨れる。併しこれ等は又輕い方でひどい方になると腹の皮の色が眞黑になつて、非常に引込んで了ふ、それから股の邊りや、腋下、頸の邊りが爛れて來て遂には其處から丹毒の如き惡疾を受け、或は肺炎などに罹つて遂に死んで仕舞ふのである。

（療法）營養に注意して、これを豫防すると共に、若し本症の傾向を發したるときは、母乳を與へて充分營養に注意するがよい。

【小兒苔蘚】Strophulus infantum(獨) Infantile ichenl(英)

（症候）生後三ヶ月乃至十二ヶ月の嬰兒に發する蕁麻疹樣の皮疹である。疹は帽針頭乃至扁豆大の小結節であつて、鮮紅色を呈し、頗る痒さものである。又時としては水泡を生して甚だ蕁麻疹に似て居る。多くは夕刻或は夜間全身に盛んに發して、小兒は安眠することが出來ないことがある。これは殊に軀幹に多くして顔面には少い、年齢と共に輕減するも往々反復して三四歳頃まで續くことがある。

本症は俗に「ひぶ」などゝ唱へ、また小兒痒疹と別稱するものである。

（療法）時としては消化機の障礙によつて發することがある故、斯樣の場合には、それを除かなければならぬ。また夜間蒲團を餘り多く掛けぬがよい。軀幹には澱粉類を撒布し又サリチル酸アルコールを塗附し、硫黄浴なども試むのである。

【小兒結核】Kindertuberkel(獨) Infantile tuberculosis(英)

（原因）結核菌によるものであつて、傳染徑路は主として呼吸器である。其他消化器、皮膚等よりも入る。

（症候）以前は、小兒には結核は少いものゝやうに思はれて居たが、決してさうでない小兒にも隨分結核が多いものである。尤も小兒の結核は肺結核患者として醫者に罹るものは少くして、頸部の淋巴腺、或は氣管枝腺などに潛伏して居る、所謂腺結核であるが、此數は非常に多い、少くとも其過半はあると云ふて居る學者がある位である。併し此時には

未だ結核の症候を呈しない、勿論傳染もしないが、それがだん〳〵年と共に繁殖して遂に肺に入る。肺に入るとき は、第一に肺尖に先に入つて、所謂肺尖加答兒を起して來ると云ふ順序である。

結核そのものは、遺傳的に、親から子供に傳はると云ふことはないが、結核に罹り易い體質を受けて產れてゐる子供は澤山にある、卽ち腺病性のものや、滲出性體質のものはそれである。

一方には結核菌は、他の各種の黴菌と共に塵埃の多いところなどには、殊に餘計に撒布してゐる。嬰兒は床や疊の上を匐ひ歩く時分から、色々なものを嘗めて口に入れるからして、結核菌の入る機會が非常に多いと思ふ。また皮膚に傷をつける、其處からもまた黴菌を取り込むこともあるだらうし、種々樣々の危險な場合があるので、結核に罹り易い體質のものは殊に危險なわけである。

併し結核菌が、いよ〳〵子供の體內に入つて棲息するやうになつても、直ぐに肺結核と云ふやうな病氣になるものではない、肺尖加答兒と云へば、素人は結核の初期だと思ふて居るけれども、肺尖加答兒になるまでには、多くの場合に於ては、結核菌が子供の身體に

棲息し初めてから幾年かの歲月を經て來た後である。年頃になると肺病の出さうな身體だと昔からよくいつた言葉であるが、年頃になつて結核の出るのは、大概幼い時から結核菌を身體の中に住ませて來た子供であつて、此等の子供は、前に云つた樣に、氣管枝の淋巴腺などに結核菌を住ませて置いのである。

（療法） 今のところでは、結核菌を身體の中で確に滅ぼし得ると認めらるゝ藥物は見出されて居ない、併し體內に棲息する黴菌の盛んでない間ならば、一と口に云へば身體を健康にすることによつて、結核菌を驅除し去ることが出來る、我々の目ざすところは其處なのである。もう肺尖加答兒といはれるやうになつたときは餘程運いが、幸いにして前に云つたやうに、子供の身體に結核菌が棲息してから、外部に著しく其徵候の現はるゝまでには若干の間のあることであるから、一日も早く、卽ち黴菌の力の少しでも弱い間に驅逐する方法を講ずることが大切である。

それで結核菌が居るか居ないかと云ふことを第一に試驗せねばならぬが、これには墺國のピルケーと云ふ小兒科醫の發見した方法がある。卽ちコッホ氏のツベルクリンを土臺として造つたものである、結核菌の有無を疑はねばならぬ子供に、丁度種痘をするやうにし

て刺射を試みると、若しも結核菌のあるときには、二十四時間ほどで反應が現はれる。それからまた南獨逸のモローと云ふ人が、矢張ツベルクリンで一種の軟膏を造つた、これを乳房の下のところにこすり込むと、結核菌があると、矢張反應を起して來るのである、卽ち細かいブツ〳〵の粟粒疹が現はれる、これが結核の診斷法としては、一番手輕な方法である。

さていよ〳〵結核と診斷がついたならば、治療法として藥物に重きを措くわけにはゆかぬ、それで食物と、空氣と、日光とを以てこれを驅除しやうとするのが、今日の療法となつて居る、尤も藥も用ゐなければならぬ、其詳細のことは肺結核のところに記載してあるから、萬事それに準じて行ふがよい。

【小兒麻痺】 Cerebrle(獨) Infautile paralysis(英)

(種類) 本症には腦性小兒麻痺一名腦髓灰白質炎と、脊髓性小兒麻痺一名急性脊髓前角炎との區別がある。

(一) 腦性小兒麻痺

(原因) 傳染病殊に麻疹、猩紅熱と關係あり、傳染性を有するものである。また早產せるもの及び神經病的素質のものに來るものである。

(症候) 初期には發熱、嘔吐、嗜眠、痙攣等があつて、是等の症狀が二三日續きたる後恢復するも、半身不隨を殘すものである。其麻痺は上肢も下肢も殆んど同程度に犯さるゝが、腕殊に手の麻痺は最も長く殘るものである。また患兒の約半數は癲癇を起し、智力の發達も制限せらるゝものである。

(二) 脊髓性小兒麻痺

(原因) 本症もまた傳染病性を有するもので、腦性小兒麻痺よりもそれが一層著明である。流行期は常に夏期である。起病菌は不明なるも、外傷、肺炎、百日咳等は機會的原因として著明なるものである。主として三歲以下の小兒を犯す。

(症候) 一日乃至四日の潛伏期を經たる後、急劇に、高熱を以て起り、頭痛、嗜眠、嘔吐、痙攣時としては下痢を發す。その狀態が二三日持續するの後、下熱して平常に復するも數多の筋簇に麻痺を殘すもので、殊に手、足等に甚しきものである。此麻痺は數日、數週或は年餘を經たる後、追々に輕快するものである。

(療法) 腦性、脊髓性を問はず、流行時には小兒を流行地より遠ざけ、また其家族より

も隔離せしむることは必要の豫防法である。病の初期には發汗劑、下劑等を與へ、腦症狀を呈せるものには、氷嚢を貼し、クロラール等を與ふ、初期より少くとも二週間の臥床は必要である。麻痺の遺殘せるものには、平流電氣、感傳電氣、マッサージ、他働的運動法溫泉浴其他麻痺の一般的療法を行ふ。もし甚しき歩行障礙または强直を殘せるときには、外科的療法を行ふ。

【小腦疾患】 Kleinhirnerkrankungen(獨) Disease of the cerebellum(英)

(原因) 小腦の疾患は種々あるが、其原因となるものは、腫瘍、膿瘍、嚢腫等が最も多い、また出血、軟化、炎症等を發することがあり、また其伴障礙として、遺傳性運動失調多發性硬化症、急性脊髓前角炎の際に侵さるゝものである。

(症候) 運動失調、眩暈の感は何れの場合にも來る症狀である。其他强迫運動、共同偏視、眼球震盪、構音障礙時にはまた偏癱等を來すことがある。

(療法) 多くは手術によるも、其結果は餘り思はしくはないものである。

【小舞踏病】 Chorea minor(獨) Chorea minor(英)

(原因) 不明なるも、恐らく毒性傳染性のものならんか、大抵急性に始まつて、時々流行性に來るものである。

(症候) 多く少年少女に來るものであつて、本症を發すれば手足が不安となり、手足をじつとして居るとか、靜座して居るとかゞ出來なくなり、筆記も不能となり、間代性の搐搦を處々の筋に發するもので、殊に運動を命ずるときは、精神興奮して殊に甚しきものである。言語は爆發的或は斷節的なるが多い。併し此發作は睡眠中は多く休止するものである。氣質は憂鬱となり、稀れには躁狂的發作がある。そして其多くはヒステリーを合併して來るものである。

(療法) 患者は之を隔離し、安靜ならしめ、砒素劑、臭素劑、水治法を行ふ。また本症の多くは關節リウマチス、心嚢炎、辨膜病と共に起るものである故、此方面の療法をも忽にしてはならぬ。

【小横痃】 Bubonulus(獨) Small bubo(英)

(原因) 主として軟性下疳に發するが、また混合傳染によつても發することがある。陰莖背面淋巴管の急性炎である。

(症候) 陰莖背面淋巴管の徑路に沿ふて、豌豆大乃至蠶豆大の、連珠狀の硬固なる結節

を現はすのであるが、また時には其經過中膿瘍を形成することがある。

（療法）醋酸礬土液の罨法を行ふ。化膿せば切開を要す。

【猩紅熱】Scharlach(獨) Scarlet fever(英)

（原因）原因は不明なるも、一種の微菌によつて起るもので、なか〳〵性質の惡い傳染病である。また經過も可なり長く、さうして其毒力も強くして、其傳染力も著しいものである。

本症は、三歳から八歳乃至十歳迄の小兒を侵すことが最も多く、三歳以下、十歳以上の小兒には割合に少い、つまり一種の小兒病である。本症は主もに秋と初冬に流行するが、併し何れの季節にもあつて、都會の地には、多少の相違はあれ太抵四季ともあるやうである。

（傳染徑路）猩紅熱は、衣服、器物、食物等は皆本病傳染の媒介をなすものである。また健康な人が此の病毒を他に運搬することもある。それで英國では牛乳が此猩紅熱、ヂフテリー、チフスの感染を媒介するものであると云はれて居る、患者の病室に長く居て、病毒の混じた空氣を吸ふても本病に感染することがある。それから此病には誰でも罹るけれども麻疹ほどではない、麻疹には大抵の人が罹ると云つてもよろしい位であるけれども、猩紅熱はさうではない。それから創傷のある者、産婦等は本病に罹り易いと云はれて居るのである。

（症候）猩紅熱は、多くは健康なる小兒が突然侵さるゝものである。例へば夕方には何の變りも無く眠りに就いたものが、其翌日になつて、急に病の前兆を發し、或は學校から歸り、或は散歩から歸つて來る、此の時に機嫌が惡くて食慾が無くなり、眠くなる、頭痛を訴え、何と無く元氣が衰へ、或は嘔吐を催し、通例咽喉に痛みを訴えるが、これが本病の初めであつて、前驅症と云ふものである。それから一日乃至三日も經つと、體溫が昇り三十九度以上の高熱となり、同時に頸部から始まつて全身に眞赤な發疹が出て、其完全に出揃ふた狀況を見ると、丁度赤インキを吹き掛けたやうな有樣である。顏面では頰部に發疹するが、口のまわりと顋の邊には發疹せぬ。此の發疹は通常四日乃至六日間位は續いてあつて、又此發疹のある間は熱も去らず。三十九度乃至四十度と云ふ高い熱が出る、さうして四日乃至六日も經つと、此の赤い發疹が全く消え去つて、此時分から熱も次第に下りかけて、遂に通常に復して來る。

熱の出て來た初めに咽喉を見ると、咽喉は大變に赤くなつて腫れてゐる。それで飲食物が此處を通過するときには痛みを覺えるのである。また咽喉に少し黄味を帶びた白い物が附着して居ることもあつて、丁度ヂフテリーの義膜のやうに見えることもある。それから頸の淋巴腺も腫れて、壓へると痛みを訴へる、此の熱のある時或は發熱の初めには、惡寒戰慄と云つて、ふるえることもあり、或は小さな子供であると、痙攣を發することがある食慾が惡く、機嫌も惡くて、大變に渴きを覺えて來る、小便は熱の爲めに濃い色を呈し、分量も少くなつて來る、それから常に頭痛がして、時としては下痢することもある。そこで此發疹が消散し、熱も取れて平温に復すると共に、段々に氣分も良くなり、睡眠も充分に出來るやうになり、食慾も付いて來て、口渴もまた去つて了い、咽喉の腫れも取れ、赤くなつて居たものが次第に常の狀態に復し、頸の淋巴腺の腫れも隨つて消散し、小便の色も薄くなり、分量も多くなつて來る。かくして發疹以後一週日から十日目位になると、殆んど病は癒つたやうに見える、併しながら、それから先きが、なか〳〵油斷がならないのである、病が癒つたと思ふては大變な間違である。

發疹が消え、熱も取れてから、先きに發疹した跡は皮膚の上皮が剝げ始めるのである、

其の剝げ方は木の葉のやうに大きな形の儘で剝げ落ち、大きいのになると、丁度手袋や足袋を脱いだやうな風になつて落る。或は小さな形で、糠の如く剝げる部分もある、さうして殊に手足の指に著しく此表皮の剝脱が見える。此上皮剝脱はなか〳〵永くかゝるもので大抵一週間から三週間位はかゝる、時としては四週間以上もかゝつて、上皮剝脱が了ることもある、此剝脱が終れば、皮膚は通常の狀態に恢復するのである。

熱は取れ、發疹が去つても油斷が出來ぬ、それは發病第二週日目位になると、腎臟炎を發して來ることが多いのである。此猩紅熱に來る腎臟炎は、其性質は極めて不良で、其經過が中々永いものであつて、最も恐るべき合併症なのである。既に腎臟炎を發した場合には、熱が再び出て來ることもあれば、また熱の出ないこともある。また顔面、四肢、全身に水腫を發することがあり、時としては、此水腫が極めて輕度のこともあるが、何れにしても猩紅熱の時には、腎臟炎の合併と云ふことを忘れてはならぬ。

それから中耳炎、これも猩紅熱によく合併症として來るものである。中耳炎が起ると、これまで平温であつた體温が急に上昇し、非常に劇しさ耳の痛みを覺え、夜分此疼痛の爲めに眠られぬほどのことがある。そして一二日も經つと耳からヅン〳〵膿が出て來る、或

は狀況によつては、耳の鼓膜を破つて中から膿を洩らす必要のあることもあるが、多くは皆自然に鼓膜が破れて膿が洩れ出る、膿が出始めると、大抵熱も下つて來るけれども、時としては熱のなか〳〵下らぬ場合もある。或は經過の惡いのになると、甚だ危險を招くこともある、何分此中耳炎と云ふ病氣は甚だ恐ろしいものであるから、決して油斷はならぬ其外にまだいろ〳〵と合併症があるが、一番大事な合併症は、此中耳炎と、さうして彼の腎臟炎とである。

猩紅熱は、大體右述べたやう病氣であるが、其中には輕いのもあれば重いのもある、重いのになると、發熱後數日にして急に死亡するのもある、或は咽喉に甚しい病變を起すものもある等、いろ〳〵ある。

（豫防法） 猩紅熱は、如何なる時期に傳染力があるかと云ふに、發熱、發疹ある時よりも、皮膚落屑のある時は一番傳染力が強い、上皮の剝げるときは、立派に感染力があるから、剝げた上皮を丁寧に集めて石炭酸水の中に入れ、決して室内に散亂せぬやうに注意しなければならぬ。

次に豫防法はどうするかと云ふに、先づ猩紅熱に罹つた小兒は、嚴重に之を隔離して、他の小兒との交通を斷つのである、それには取り急いで病院に入れて、跡を一切、室は勿論、器具、玩具等總て患兒に接觸せるものを消毒するのであつて、物によつては燒き捨てるのである。又近傍に猩紅熱患者の居る時に、熱が出て、嘔吐を催したものがあれば、すぐに隔離して、醫師の診斷を受けねばならぬ。

（養生法） 前にも申した如く、猩紅熱の時分には、中耳炎や腎臟炎を併發するものであるから、始めから床に就かせて、嚴重に身體を安靜にすることが一番大切である、床に就て安靜にさせると云ふことは、ドーモ人の氣に入らぬことであるけれども、病氣の豫後が恐しいから致し方が無い。熱が出て居る間は注意をするけれども、熱が取れて機嫌でもよくなると、なか〳〵此臥床安靜が守れぬものであるが、猩紅熱の恐ろしい幕の始まるのはムシロ下熱後であるから、決して安心は出來ぬ、此事は甚だ大切であるから、吳々も注意しなければならぬ。何れの病氣でも皆然りであつて、癒りかけのときに看護が行き屆かぬところから、病勢が重くなつて來るのが多い。

それから食事も牛乳、米湯の如き流動物を與へて置くのであつて、鹽氣のあるものを與へてはならぬ、幸ひにして中耳炎、腎臟炎其他の合併症が起らずに濟んでも、四週日以上

を經過しなければ安心は出來ぬ。それから上皮の剝脫が全く了らない間は決して床を離れることを許されない、また猩紅熱患者の出た家族の兒童は登校を禁止しなければならぬ患兒が上皮剝脫を終つて、入浴して全身を消毒し、新しき衣服と着換へた後でなければ、學校へ出てはならぬ。その外患者に接し、或は近傍に居たものは悉く嚴重に消毒を施すは申すまでも無いこと、看護をする人は日々數回含嗽を行ふなどは主なる注意である。

（療法）合併症無きものは、以上述べたる攝生療法にてよろしい。口内は屢々含嗽せしめ、或は醋酸礬土液にて洗滌して口内の清潔を計らねばならぬ。高熱あるときは、多量の冷ッモナーテを與へ、または全身濕布纏絡等を行ふ。其他は對症療法を行ふに過ぎぬ、合併症あるときは、それ〴〵の手當（各病參照）を行ふは勿論である。

【初生兒假死】 Asphyxie der Neugeborenen（獨） Neonatal asphysia（英）

（原因）總て分娩に長時間を要するもの、または臍帶脫出等ありたるときに、初兒は假死に陷るものである。

（症候）赤兒は生れ出るや否や呱々の聲を擧げて泣くものであるが、中には心臟の鼓動はあるが、呼吸（號泣）せざるものがある、これは假死と云ふものであつて、輕きものは全身青赤色を帶び、重きものは蒼白色を呈するものである。

（療法）輕症は冷水を吹きかけて皮膚を刺戟したゞけでも回生へる、また胸を平手で輕く叩く、或は湯の中で手足を同時に屈伸して人工呼吸法を行へば更によろしい。尤も生兒の口中に液體などが充塡て居たならば、最初に注意して之を除かねばならぬ、氣管の中までも塡つて居る場合には、氣管「カテーテル」と云ふ道具が必要である。若しまた此等の方法でも尙ほ回生らぬ場合には、シユルツエと云ふ人の人工呼吸法を用ゐるがよろしい。

此方法を說明するの都合上二動作に分ける。第一動作は、假死の生兒の兩方の肩を夫々術者の相手の手で掴む、卽ち生兒の右の肩を術者の右の手で捕へ、左の肩を左の手で捕へるやうにするのであるが、此時拇指は前へ廻し、他の四指は後ろに廻して、拇指と示指とで上膊を固定する、右の通りに生兒を持つて、これを術者の兩膝の前に垂れ下けるのである（以上第一動作）

第二動作は、前記の通りに生兒を掴んだまゝ、半圓形を畫きながら、之を術者の頭の上にまで持つて來るのである、此時生兒の腰は屈み、橫隔膜は下つて肺を充分に壓迫するから、生兒は呼氣を營まねばならぬことになる。それからまた生兒を半圓形を畫きつゝ、振

り下げて第一の動作に廻る。此時は生兒の足は垂下し、横隔膜が下るから、肺は廣げられて空氣が肺中に入る、卽ち吸氣を營むことになるのである。

上記の二動作は、一分間に凡そ二十回位、卽ち術者の呼吸と凡そ同一致に行つて、回生するまで、一時間でも二時間でも續行せねばならぬ、隨分二時間位辛抱して始めて回生つた例はある。尤も此振搖法の間に生兒が寒冒を惹かせぬ爲めに、溫湯に入れて全身を溫めねばならぬ、卽ち十五回位上下に振搖したならば、其後に直ちに二三分間湯に入れる、湯の中でも手足を同時に伸べ、同時に縮める運動を與へて人工呼吸法を營ませれば尙ほよろしい、そしてまた更に振搖法を繰り返すのである。此方法はまた嚴寒中にあつては、特に注意を要すべく、無論醫師産婆の行ふべきものである。

【初生兒硬皮症】Sclerema neonatorum(獨) Neonatal sclerouns(英)

（原因）不明なり。

（症候）小兒生れて、須臾にして多くは先づ下腿より發し、日を經る間に下腹部より胸部及び背部に達し、遂には上肢、顏面まで及ぼすものである。其症候は卽ち皮膚の靠硬となるものであつて、蒼白色或は暗紅色を呈して緊脹し、手指にて壓すも凹まざるに至るものである。また體溫は漸次に下降し來り、追々に呼吸もまた障礙せられて困難を來すものである。また顏面の皮膚を犯さるゝに至れば、頰唇硬直となる爲めに、哺乳を妨げられ、營養不良に陷り、其極遂に死に至るものである。

（療法）人工的加溫により、常に溫度を適當に保たしめ、特に營養に注意し、また赤酒エーテル等を與ふるのであるが、豫後多くは不良なるものである。

【初生兒膿漏眼】Blenorrhoea neonatrum(獨) Neonatal blenorrhoea(英)

（原因）本症は、膿漏性結膜炎、又は俗にフゥガンと稱へるが、淋病の毒が眼に入つた爲めに起るものである。

（症候）淋毒が眼に入つてから早きは數時間遲きも二三日の中に、眼に灼熱と異物樣の感があり、羞明流淚を來し、結膜は急に充血腫脹し、角膜の周圍は堤狀に隆起し、結膜乳頭は天鵞絨樣になり、漿液膿性分泌物を洩らし、眼瞼皮膚は發赤腫脹硬變し、劇痛堪へがたきに至り、多少の發熱を來すものである。

前症二三日續けば今度は膿漏期に入り、炎症は稍減退するも、膿性の分泌頗る旺盛を極め、帶黃色の膿汁は滾々として流れ出で、遂には角膜潰瘍より全眼球炎を發して失明する

に至るが、早期に相當の手當を施せば、初期より四乃至六週を經て治に至るものである。

（療法）日本に於ける盲人の大半は本症の爲めである、豫防としては初生兒にはクレーデ氏點眼を行ひ、又淋疾ある人は常に豫防法を心掛け、若し淋膿飛んで眼に入りたる時は、五千倍昇汞水（急には唯の水でもよいからどん〳〵洗ふ）五十倍硝酸銀水を點眼し、一方片も早く醫治を受くるがよい。

【初生兒天疱瘡】Pemphigus neonatorum（獨）Neonatal pemphigus（英）

（原因）不明なるも、流行性疾患にして恐らく傳染性膿疱疹と同種類のものならんと思ふ。また產婆より感染すと云ふ人もある。

（症候）暫時發熱したる後、俄に漿液性の內容を有する小水泡を全身に發し、瘙痒甚しきも、普通は二三週にして格別のこと無く治に至るものである。

（療法）硼酸水、鉛糖水等にて冷罨法を行ひ、また亞鉛華軟膏、硼酸ワセリン等を塗布するのである。

【初生兒剝脫性皮膚炎】Dermatitis exfoliativa neonatorum（獨）Neonatal Exfoliative dermatitis（英）

（原因）リッテル氏の初めて記載せるものであつて、流行性に來ることあり、原因は不明なり、或は之を毒血症に歸する人あるも疑はし、併し營養不良の小兒に來ることだけは事實である。

（症候）出生後一二週に至つて、先づ顏面殊に口圍に不定形の紅變を呈し、それより全身に蔓延することが多い、皮膚は一般に潮紅して、丁度茹蝦のやうな色になり、少しく浮腫んで居る、また口圍には裂瘡を生じ、また糜爛せる皺襞を見る。かくすること二三週の後に全快するものである。

（療法）母乳にて營養することが必要の注意である、即ち營養の亢進を計るのである。患兒は一日二回微溫浴を取らしめ、硼酸軟膏等の無刺戟性軟膏を塗布するがよい。

【初生兒メレナ】Melaena neonatrum（獨）Neonatal melena（英）

（原因）不明なるも、中には口腔及び鼻咽腔の出血または母の乳房損傷による出血を飲みたる爲めに起るものもあつて、それは卽ち假性メレナと稱し、豫後佳良なるものである、

（症候）眞性と假性とあり、何れも血液を吐出し、或は血便を排泄するものである。假性メレナは原因が止めば、止まるも、眞性メレナにあつては、追々に衰弱して、遂に死に至るものが多い。

（療法）ゲラチンの注射、アドレナリンの内服、腹部には冷罨法を施すも、四肢は溫保して、冷き牛乳を少しづゝ飲用せしむ。衰弱を來し、虛脫に陷れば、溫保して亢奮劑を與ふ。

【初生兒黃疸】Ikterus neonatorum(獨) Neonatal icterus(英)

（原因）初生兒の七〇乃至八〇%に於て之を見るものであつて、其原因に就ては、血管內に於て血球の破壞に因ると云ふ說と、肝細胞作用の異常によつて、膽汁の一部が血液中に移行するに因ると云ふ說と、アランケ氏管に由つて、胎便中の膽汁色素が血中に移行するに因るとの三說がある。

（症候）生後三四日目から、皮膚に輕微の黃疸色を呈するものであつて、殊に胸部、前額及び鼻尖等に强いものである。そして其黃色を呈するの度は極めて多種で、極薄いのもあれば、またなか〳〵に濃いものある。これは殆んど生理的と云ふべき位のものであつて醫藥を要さぬものである。また其持續の長短は、着色の强弱によつて違ふが、通常三四日位で消退するものである、尤も中には二週間を經てから初めて消褪するものもある。

（療法）普通治療を要せざるものであるが、本症は此處より破傷風

【初生兒破傷風】Tetanus neotorum(獨) Neonatal tetanus(英)

（原因）初生兒の臍は、一種の創傷と見做すべきものであるが、本症は此處より破傷風菌の傳染に因て起るものである。

（症候）多くは生後五日乃至九日位に發するものである。牙關緊急の爲めに哺乳困難となる爲め、營養不良となる。また不安、啼泣を起し、また痙攣を發すること、大人の破傷風と同じく、多くは呼吸困難または全身衰弱の爲めに死に至るものである。

（療法）病室を暗くして、總ての刺戟を避くること、大人の場合と同樣である。そして破傷風血清注射を行ふ。

【初生兒窒息】Asphyxia neotatorum(獨) Neonatal suffocation(英)

（原因）血中に炭酸瓦斯蓄積するも、呼嘔中樞の刺戟性が減弱して居るので、呼吸困難を起さゝるが爲に起るもので、孱弱なる嬰兒に來るものである。

（症候）呼吸が淺表となつて叫泣せず、哺乳力は減じ、體溫下降し、全身チアノーゼを發して、遂に死に至るものである。

（療法）溫湯に入れて皮膚刺戟を與へ（場合によりては溫湯中にて胸部に冷水を注ぐこと）

とがある）然る後「クヴエーゼ」に入るゝか、または湯タンポを用ひて溫めそれから暫くしてから哺乳せしむる、これを毎二時間に行ひ、少し呼吸に力がはいつて來たところで、一日二三回となし、通常の呼吸、叫泣を爲すに至るまで、毎日之を行ふのである。

【初生兒敗血症】 Sepsis neonatorum（獨） Neonatal septicemia（英）

（原因） 臍または皮膚の創傷より細菌が入るか、または羊水の吸入、其他咽頭、耳、腸胱等より細菌の侵入するによつて起るものである。

（症候） 本症に三種の型がある、即ち第一は、食思振はずして患兒は哺乳すること少く皮膚蒼白、脈搏頻數微弱となるも、體溫昇騰せざるものである。

第二型は、發熱があつて意識が溷濁し、無慾狀態となり、加答兒性肺炎または皮膚出血を來すものである。

第三型は、多くの轉移竈を生じ、皮膚膿瘍や關節炎、膿胞または肺炎等を發するものである。

（豫後） 第一と第二型のものは、速に死の轉歸を取る。第三のものも何れ死ぬことは死ぬが、前二者よりは少し長くかゝるものである。

（療法） 豫防法として、臍炎のところで述べたる如き注意が必要である。既に本症を發せるものにあつては、唯對症療法を施すのみである。

【蕁麻疹】 Urticaria（獨） Urticaria（英）

（原因） 本症は俗に風の花、または風ぼゝしと唱へるものである。其原因は蚊、蚤、虱床蟲等に螫されたる後、或は寒風、冷水等に觸れ、または蝦、蟹、牡蠣等を食したる後、或は器械的の刺戟、漆かぶれ、藥物の服用、子宮、胃腸の疾患等澤山ある。勿論人によつて其原因も違ふが、要するに本症は一種の特異性に屬するものである。

（症候） 皮膚の血管が擴張して、其部分が赤く腫れ上り、不快なる痛みを起し、丁度蕁麻に刺されて起る發疹の如き狀態を呈するので、蕁麻疹と名づくるものである。またそれが澤山に生ずると痛みを覺え、燒くが如き感を起すこともある。輕いものは溫かにして居ると間も無く消失するが、重いのになると、なか〳〵頑固にして癒り難いものである。

（療法） 先づ其原因を去るがよろしく、また胃腸を强壯になし、便通を利する等は豫防法になるものである。また既に發せるものにあつては、鹽類下劑を與へ、また局部に鉛糖水の罨法を行ひ、搔痒劇しきものには、三%メントール、アルコールを塗布するがよろし

す。

【蕁麻疹狀痤瘡】Acne Urticata(獨) Urticarial acne(英)

（原因）不明なり、カポシー氏によつて初めて記述せられたるものである。

（症候）顏面、頭部また四肢の伸展面に於て、劇甚の瘙痒及び灼熱感を有する、豌豆大若しくはそれよりも稍大にして、頗る硬固なる蕁麻疹樣の隆起を發するが、これは數時間乃至數日存在するの後、卒然として消散し、一二週間に亙りて硬き浸潤を殘し後消失するが、また少しの間隙を置き再發し、かゝること年餘に亙りて反復するものである。

（療法）一〇%メントール軟膏、硫黃浴等を行ひ、內服にはアトロピンを與ふ。またレントゲン線も應用せらる。

【蕁常白皮症】Vitiligo(獨) Tenkopathia(英)

（原因）多くは先天性のものであるが、また後天性に發することがある。

（症候）皮膚に於ける色素の缺乏であつて、白斑を呈するものである、其白斑は永時一定大に止まることもあるも、また大に擴延して、全身殆んどこれに犯さるゝものもある、全身のものは、俗に白子と稱するものである。

（療法）全身症のものはなんとも致し方が無い、局處性のものは發泡膏か芥子泥を貼して色素を沈着せしむるがよろしい、けれどもどうも其の結果は餘り思はしくないとのことである。

【蕁常性狼瘡】Lupus Vugaris(獨) Lupus vulgaris(英)

（原因）結核菌によつて起る皮膚結核の一種である。

（症候）本症は主もに春機發動期前に發して、其經過の甚だ長きものである。身體中何處にも發するが、殊に顏面殊に頰部及び鼻尖に好發するものである。鼻尖に發したるものは軟骨も共に破潰して了ふものであるが、黴毒のやうに骨までも侵して鞍鼻になると云ふやうなことは無い。

本症は、初め疼痛の無い帽針頭大の小結節を發するもので、其色は赤褐色或は黃褐色を呈する光澤ある皮膚より被はれ、壓を加ふれば一時其色が無くなるが、汚穢の黃色な色合は決して消失しない。結節の形は圓形或は楕圓形である、其結節の有無を調ふるには、皮膚を少しく引張つて見るとよく分る、卽ち健康な皮膚は牽引に連れて動くものであるが、結節があると決して動かぬものである。

此の結節は、各處に孤立的に散ど、或は中央部は瘢痕を結んで治癒するも、周圍に向つて侵蝕し、遂に大部面に亙りて蔓延するのが特徴である。

（療法）外用として、昇汞、クレオーソート、アルコールを塗布して局部の軟化するまで持續し、潰瘍になりたる後は、五%硼酸軟膏を貼布するがよい、また局部を外科的に切除したる後、植皮術を行ふもよい。近時レントゲン線を本症に應用して、奏效せる報告は可なり多くある。

【尋常性膿疱疹】Impetigo vulgaris(獨) Impetigo vulgaris(英)

（原因）釀膿菌によつて發するものである。

（症候）小なる紅色の斑點或は丘疹を發して、それが半日乃至一日以内に小水疱となり更に一二日の間に水泡の内容は溷濁して膿疱に變じ、これがまた暫く經つと、今度は蜜樣黄色の結痂を形成して乾燥し、また一二週の後結痂脱落し、紅斑を遺して治に至るものである。本症の好發部位は、顔面の外頭部、頸部等であるが、時としては四肢に發生することがある。膿疱疹は初め個々孤立して散在するも、追々に其近接せるものと相融合して一錢乃至二錢銅貨大となることがある。

（療法）硼酸軟膏または白降汞軟膏を貼布するがよろしい、炎症劇しきときは醋酸礬土液の罨法を行ふ。

【尋常性痤瘡】Acne vulgaris(獨) Acne vulgaris(英)

（原因）皮脂腺の閉塞によつて起る。其化膿するものには、有機么微體を發見せりとの說あるも、未だ特殊のものは發見せられない。

（症候）顔面及び軀幹殊に上背及び上胸部に於て現はるゝものであつて、青年期に發する面皰に於て、其皮脂腺の閉塞せるにも拘はらず、皮麭は尙ほ進んで分泌するが爲めに、皮脂は滯積して、圓錐狀の小結節即ち丘疹狀痤瘡となる。此ものは其色淡紅若しくは深紅色であつて炎症浸潤を致し、次で尖端に膿點を現はし化膿するに至る、卽ち膿疱性痤瘡である。それよりして毛囊の周圍に續發的炎症を起し、深く浸潤を呈し、硬き暗紅色の小結節は硬結性痤瘡となることがある。

（療法）消化機を整調し、便通を正しくし、また酒類を禁ずる。そして副腎錠を内服せしめ、加里石鹼精にて屢々洗滌し、硫黄劑、ベタナフトール劑等の軟膏を塗布せしむ。

【尋常性天疱疹】Pemphigus vulgaris(獨) Pemphigus vulgaris(英)

（原因）不明なり。

（症候）慢性に經過する水疱性疾患であつて、往々寒戰、發熱、嘔吐等を來すことがある。其發するや、先づ皮膚に輕度の紅斑或は蕁麻疹を發し、次で水疱を發するに至る。水疱は透明の漿液を以て充され、小豆大より鷄卵大となり屢々數多融合して、其中心部は治癒するも、更に周圍に向つて蛇行狀を爲して擴延することがある。水疱の內容は日を經るに從つて膿樣となり溢血を混ずるが、これが乾涸して結痂を作り、其脫落後鱗屑を以て被はれ、更に水疱を發せざるものは良性であるが、惡性のものにあつては增殖性となり輕久治せず、遂せ惡液質及び多大の表皮剝離の爲めに死に至ることがある。

（療法）水疱には撒布劑或は硼酸ラノリン等を貼し、醋酸礬土液の罨法、硫黃浴等を行ふ。全身に蔓延せるものには水褥を與へ、亞砒酸、ストヲヒニン等を服用せしむ。

【食思欠乏症】Acorie(獨) Lōss of Appetite(英)

（原因）本症は、胃が惡くて消化が充分でない爲めとか、又熱がある、頭の工合が惡いと云ふ風に、澤山の原因があるからして、此食の進まぬ原因を尋ねて其原因を除去するがよい。

（療法）一般に食慾を增進させる目的には散歩するがよい、その散歩には成るべく空氣の淸良なる郊外がよいのであるけれども事情によつては郊外に限らず市內でも宜しいが成るべく塵埃の立たぬ處を選ぶの必要がある。散歩の時間は人々の境遇によつて一樣に云ふわけに行かぬが、毎日規則正しく興味を以て散歩すると云ふことは非常に大切なことである。それから便秘の傾きある人、肺病、神經衰弱、貧血の人等にも散歩は大變に效きめがある。又海邊、高山などの散步は殊に宜しく、按摩、溫浴、冷水浴、海水浴等も無論宜しいのであるが、虛弱な人にあつては疲れる程度までやるのは宜しくない。

其他食事の場所を換へて食すると食慾が起きる、又日々の料理を色々に取換へることもよい方法であるが、食品を成るべく種類を多くして一品の分量を尠くすること大切で、又食前にサイダー、シトロンの如きを用ゐ、食後に蜜柑、林檎等の果物を食すると胃粘膜を刺戟して食慾を進めるものである。

食するに語らずとは我國の敎であるが、食事の時に機嫌よく衆と共に快活に面白く談話しながら食事すると自然甘く食べられるのである、其に反して精神を過勞した時、不愉快な時に食事すると甘いものも不味く食べるから、かゝる時は少しく散歩するか、又横臥し

て氣を落付けて徐々に食事するがよい、決して機械的にやつてはいかぬ。

食事の場合に種々なる飲料を少しづゝ用ゐるのは食慾を增進するに大效あるが、其反對に食事の際に常に飲料を用ゐて居た人が、食思不振に陷つた場合に飲料を節すると再び食慾が出て來るものである、それから食事は極めて規則正しく時を定めて行ふと云ふことは大切なことで、若し又便秘がある人は一日一回の便通ある樣にせねばならぬ。

【食道癌】Oesophaguskrebs(獨) Cancer (carcinoma) of the oesophagus(英)

(原因) 男子に多く、殊に飲酒、喫煙者に多きこと胃癌と同じ關係である。

(症候) 食道の狹窄現象が漸次に發生し、全身の衰弱日に〳〵加はる。初めは固形物のみ嚥下障礙を來しが、後には流動食も障礙せられ、逆吐する。患部に疼痛あり、潰瘍を形成するときは、隣接器官に穿孔し、聲音か嗄嗄を來し、遂に死に至るものである。

(療法) 沃度劑を與ふ。食養療法は最も必要である(胃癌を見よ)手術療法は稀れに行ふのみである。

【食道狹窄】Oesophagusstrictur(獨) Stricture of the oesophagus(英)

(原因) 其最も頻繁なる原因は食道癌腫であつて、環狀に發生して食道內徑をして狹小ならしめ、甚しきは全く之を閉塞するに至る。又隣接器管に發生した腫瘍の爲めに壓迫性狹窄を來し、誤嚥せる異物によりて異物性狹窄を發するものである。

(症候) 患者は嚥下困難を訴へ、液體にあらざれば嚥下すること能はず、狹窄愈々甚しければ遂に飲料をも取る能はざるに至り、爲めに漸次饑餓の狀態に陷るものである。

(療法) 食道消息子によつて器械的擴張法を施すの外道無い、けれども大動脈瘤の如きものにあつては消息子を用ゐることは禁忌である。藥劑にては殆んど奏效するものなきも、腐蝕に因する瘢痕性狹窄には、ヂオジナミン溶液を隔日一回肩胛間部に注射して奏效せる報告もあるから、これを試みるもよかろう。

【食道憩室】Diverticulum Oesophagi (獨) Diverticulum of the oesophagus(英)

(原因) 本症は食道の壁に於ける限局性膨出のことであるが、誤嚥せる異物若しくは頸部の外傷等が原因となるものがある。

(症候) 其初期には殆んど何等の症候を呈せざるも、漸次嚥下困難を來し、飲食物の一部分憩室に殘留し後一定時を經て食物の吐逆を來す、其食物は腐敗し甚しき惡臭を放つ、憩室の增大甚しきに至れば壓迫せられ遂に食道狹窄の症狀を來すものである。

（療法）百倍の硼酸水を以て洗滌するも宜しきも、根治法は外科的手術を以て其切除を謀るのが肝要である。

【食道擴張】Erweiterung der speiseröhre(獨) Dilatation of the oesophagus(英)

（原因）先天性には、筋肉の發育不十分なるが爲めに起り、後天性には、食道糜爛、潰瘍、狹窄等に由て起るものである。

（症候）嚥下困難、食物の反流等が主徴候である。本症の特に一局部に強く起れる場合は卽ち食道憩室である。

（療法）瘢痕によるものは、狹窄の如くチオヂオミン、フイブロリジン等を注射し、其他は對症的に行ふのみである。

【食道潰瘍】Geschwüre der Speiseröhre(獨) Ulcer of the oesophagus(英)

（原因）結核または黴毒によつて起ることあり、また腐蝕藥によつて起り、或はヂフテリー、猩紅熱に續發することがある。

（症候）食物を嚥下するときに、胸骨及び背部に灼くが如き、刺すが如き痙攣性疼痛を訴ふるものである。

（療法）流動物を與へ、總ての刺戟を避く。また硫酸銀を服用せしめ、疼痛甚しきときには麻醉藥を與ふ。

【食道炎】Oesophagitis(獨) Oesophagitis(英)

（原因）總て刺戟を與ふる飲食物の嚥下は本症の原因となるものである。また咽喉加答兒より蔓延することもあれば、また麻疹、猩紅熱、痘瘡等の傳染病に併發することもある、

（症候）何等の症候を呈せざることもあるが、或はまた嚥下に際して胸骨部に疼痛を發することがある。

（療法）流動性食品または粥狀食品を與へ、香料、酒類を禁じ、氷片または冷牛乳を與ふ。疼痛劇しきときは鎭痛劑を與ふ。

【食道痙攣】Oesphaguskrampf(獨) Spasm of the oesophagus(英)

（原因）ヒステリー、神經衰弱の一症候として現はるゝことが多きものであるが、また破傷風、恐水病等にも來るものである。其他食道炎、食道の損傷、過熱せる飲食物の嚥下によつても來ることがある。

（症候）痙攣性嚥下困難は主徴である、けれども器質的狹窄と異つて、嚥下困難は時に

より、食物の種類に因て異なるものであるが、流動物よりも寧ろ固形物の方が嚥下され易いものである。

（療法）原病の治療が第一である。其他水治法、臭素劑の内服等を試み、また太き消息子挿入を行ふのである。

【食道損傷】Verletzungen des Oesophagus(獨) Injury of the oesophagus(英)

（原因）内面的よりするものは、ブージー、鉗子の挿入または嚥下せる異物により、また刺傷、切創、銃創等によつて外面より傷けらるゝことがある。

（症候）食道損傷は、啻に食道損傷のみに止らず、常に同時に重き副損傷を來すものであつて、寧ろ此方が危險が多い、即ち頸部にあつては大なる血管、喉頭、氣管等を傷け、胸部にあつては、肋膜、心臓、肺臓等を傷くるものである。また食道損傷の固有徴候として、嚥下時に於ける疼痛であつて、損傷部より飲食物または唾液等の流出するのは、副損傷の症候の爲めに被れて現はれざるものである。また喉頭、氣管等の大損傷にあつては、血液吸引の爲めに窒息死を來すの危險がある。

（療法）先づ出血を止め、食道を明らかに現はして損傷を縫合するのである。また食道

の切斷は、兩端を縫ひ合せ、縫合後一兩日間は、食道ブージーを用ゐて食物を與ふ等、一般外科的處置によるのである。

【食道火傷】Verbrennung des Oesophagus(獨) Burns of the oesophagus(英)

（原因）熱湯、蒸氣、過熱の食物を嚥下するによつて起る。また稀れには嚥下せる爆發物の爆發によつて起ることがある。

（症候）疼痛殊に嚥下時に於ける疼痛は主徴候である、また出血を來し、其量多きときは吐血を來すに至るものである。

（療法）安靜を命じ、氷嚢を貼し、氷、牛乳等を與ふ。瘢痕による狹窄を豫する爲めに、ブージーを挿入することがある。

【食道新生物】Neubildung des Oesophagus(獨) New growths of the oesophagus(英)

（種類）良性と惡性とある。良性の腫瘍にては

（一）乳頭疣

（二）乳嘴腫

（三）脂肪腫

（四）筋肉腫

（五）滲溜囊腫

（六）纖維腫多くは「ポリープ」として現はれ、大なるときは嚥下困難、食物逆流、痙攣性嘔吐等を發するものである。

惡性腫瘍の重なるものは、癌腫と肉腫である。

（一）食道癌　前に詳述せり。

（二）肉腫　癌腫よりは少し、多くは食道上端に存するものであつて、症候は略々癌腫のそれに似て、唯癌腫より年少者に發するが常である。

（療法）口腔より、或は食道截開術を行ひて之を除去するがよい。

【食道畸形】Mißbildung der speiseröhre（獨）Deformity of the oesophagus（英）

（種類）（一）先天性狹窄

（二）先天性擴張

（三）先天性憩室

（四）食道氣管瘻

（五）食道內膜形成

（六）食道の一部或は全部の重復

（七）食道全部　缺損全長を通じて筋肉の索をなし、兩端は盲囊をなす。

【食道腐蝕】Verätzung des Oesophagus（獨）Corrosion of the oesophagus（英）

（原因）腐蝕性の藥品卽ち硫酸、鹽酸、硝酸等の鑛酸類或は苛性加里、苛性曹達等の亞爾加里を嚥下するによつて起る。

（症候）局部は腐蝕して、吐血、咳嗽、疼痛等を來し、若し化膿せるときは體溫上昇するものである。

（療法）安靜を命じ、局部に氷囊を貼し、また麻醉藥を投じて疼痛を緩解せしむ、尙ほ酸類による腐蝕には、重曹、マグネシヤ等の亞爾加里を與へ、亞爾加里による腐蝕には、枸櫞酸其他の植物性酸を與へて中和せしめ、重ねて腐蝕の擴進するを防がねばならぬ。また瘢痕を形成して治癒するときは、其狹窄の高度なるを防ぐために、「ブジー」を用ゐるがよろしいが、其應用は少くとも二ヶ月後にしなければならぬ。

【食道內異物】Fremdkörper der Speiseröhre（獨）Foreign body in the oesophagus（英）

（原因、種類）小兒が遊戯中貨幣または玩具を誤つて嚥み込み、食道に閊へることがある其他大人でも食事の際、又は熟睡中小楊子又は具合の惡い義齒を呑み込み、それが食道に閊へることもある。此義齒を呑み込む場合が、割合に多いものであるからして、工合の惡い義齒は、寢る前に取つて置く方がよろしく、根本的には充分それを矯正して動かぬやうにして貰ふがよい。

（療法）食道へ異物の嵌入したときには、矢張俯臥せしめて、胸に枕を當てゝ、背中を強く打つとよろしい、若しそれでも取れなかつたならば、直ちに耳鼻咽喉科の醫師に手當を請ふがよい。近來は食道鏡と云ふ便利な器械が出來て、此器械を以て取れば比較的簡單に摘出することが出來るものである。食道異物を長時日放置すると、時として食道壁が破壞して、遂に救ふべからざるに至ることもあり、又法に適はざる無謀な方法で、異物摘出を試みると、それが爲めに食道を破ることがあるから注意しなければならぬ。

【眞正臭鼻】Ozana genuina(獨) Real Ozena(英)

（原因）不明なるも、比較的女子に多く、また春機發動期の然も顏貌廣濶なるものに多い。また黴毒者の子女に多く發するも、遺傳黴毒とは違ふやうである。

（症候）本症はまた惡臭性萎縮性鼻炎とも云ふ。鼻腔內の組織が萎縮して、鼻腔が廣濶になり、爲めに鼻腔內分泌物が固まつて痂皮を形成し、爲めに鼻腔閉塞を起し、また歐氏管、中耳等の疾患を起すことがある許りで無く、其痂皮が一種忌むべき惡臭を放つものである。故に一朝此臭鼻症に罹つた人は、他人より嫌はれ、其人より遠ざかる樣になり、從つて交際社會に出でゝ、他人と談笑することが出來なくなる。また學生などは、學校に行つても、甚しく惡臭を放つ爲めに、衆人と同席することが出來なくなり、隅の方に小さくなつて居ると云ふやうな境遇に陷り、精神上に大なる打擊を蒙り、非常に悲觀するやうになる。また婦人にありては、其爲めに强度のヒステリーに罹る場合もある。殊に都合の惡いことには、患者自身には、既に嗅覺が侵されて居るから、自分の鼻がそんなに甚しい惡臭を放つとは思はない、唯周圍の人にだけ惡臭が分るものである。

臭鼻症は、十五歲乃至二十二三歲の所謂靑春期に多く、婦人に多いものである故に、結婚に就ては非常なる障碍となる、從つて臭鼻症は、患者の一身上に重大なる影響を及ぼすことになる。

（療法）臭鼻症の惡臭は、鼻腔內に出來た痂皮が放つのであるから、痂皮を除けば、つ

まり惡臭等は無くなるものである、故に取敢ず痂皮を除く方法を講ずることが必要である最も簡單なる方法は、鼻腔内を洗滌することである、それには、鼻腔内洗滌用の噴霧器を備へて、百倍の食鹽水または百倍の過酸化水素水を以て鼻腔内を洗ふとよい。然るときは痂皮はだん〳〵鼻腔の壁から離れて、鼻汁をかむ際に出て來るものである、從つて鼻呼吸障礙も癒り、また惡臭も放たなくなる。併し鼻腔の奥の方に痂皮が堅く附着して居る場合には洗つた丈けでは除去ないことがある、さう云ふ場合には鑷子を以て除去し、次でゴットスタイン氏栓塞法を行ひ、二時間乃至十二時間の後之を除去するのである。其他萎縮を恢復せしめん爲め、鼻粘膜振顫按摩法、パラフキン粘膜下注射法、電氣分析法或は藥液塗布等を行ふ。

以上局處療法の外に、沃度劑、鐵劑、亞砒酸劑等を内服せしむ。

【床蟲】 Cimex lectularius(獨) Bedbug(英)

（症候） 床蟲は、一名南京蟲とも云ふものであるが、此蟲の咬刺によつて、夜間劇甚の瘙痒を覺え、顔面手足其他に蕁麻疹を發し、又往々吸痕部に小水疱を形成し赤く腫れ上ることがあり、時としては其穿刺部ばかりで無く、又反射的に隔りたる身體の他部にも發生することもあれば、淋巴管炎を惹起することもあつて腕などが全體に腫脹することがある、併し床蟲に度々出會つて馴れると終りには其咬刺に餘り感じ無くなるものである。

（療法） 褥床を清潔にして床蟲を除去し、又孵卵すべき場所即ち壁孔、柱の裂罅には硝酸を注入し、或は除蟲菊の粉末を撒布するがよろしく、身體の咬刺部には安母尼亞水、或は五乃至一〇、% 「メントール」膏を塗布するがよい。

【痔疾】 Das Haemorrhoidalleiden(獨) Haemorrhoid(英)

（原因） 本症は非常に多く日本人の殆んど半數はこれに罹つて居る位で、其主なる原因は肛門竝に直腸下部の靜脈鬱血である、我々の肛門には痔靜脈があつて實に鬱血し易く出來て居る。一體全身を循環して居る總ての靜脈血管には、瓣膜と云ふ一種の皮膜が血管の内壁に付いて居つて、血液が此處を通ると、後で其通路を蓋する働きを爲し、其れが爲めに一旦通つた血液が逆流しない樣に仕組んであるのが普通である。然るにこの痔靜脈には此の瓣膜がない、ないから上行しやうとする血液も逆行することないとも限らぬ。それに靜脈自身の位置を下方殊に坐位に生活する日本人には痔靜脈が最下位に位することになる。加之血壓が弱いので血液は自然に停滯するの已むを得ざるに至るわけである。それに又

此靜脈の周圍には脂肪層が多いので何分軟いから、靜脈の擴張に對する抵抗力が弱いので、どこまでも凹まされると云ふ樣なわけで、痔疾の方からすれば誠に都合がよいのである。

其外一般的原因とするものは、常習便秘、坐業をする人、俳優、音樂家、其他常に大聲を發し、腹部に力を入れる人、大食家、大酒家、多血質の人、茶、コーヒの類を澤山に用ゐ、或は刺戟性の香料藥味等を好む人、病氣では肺氣腫、心臟病、肝臟病、攝護腺肥大、子宮後屈症、子宮及び卵巢の腫瘍及び妊娠等である。

年齡の長幼には關係は餘りない樣であるが、何れかと云へば老人に多い、殊に安坐逸居の樂隱居には多いのである。それから日本人の生活法と菜食及便所の不完全の爲め多いと云ふことであるが、此病氣は遺傳する傾きを持つて居て、親に痔疾があれば子にも必ずある其割合は十人に五人位とする學者もあるから、將來大いに研究することが肝要である。

（症候） 本症には、痔核、脫肛、直腸脫、痒痔、下血等で其症候を示すと次の通りである。

（痔核） 肛門並に直腸下部に靜脈血が體の深部にある門脈系と云ふ大靜脈に還流するを妨げられて鬱血を起し、それが恰度袋の中に血液を盛つた樣な風になつて、肛門の內壁に大小種々の結節が出來る、此結節が卽ち疣痔である。然るに此處は步行や其他に際して擦れ易い場所なので、どうかすると上皮の袋が破れて鮮血淋漓と迸り出づるのである。

本症が益々重くなれば肛門の內外には宛然葡萄の實の樣に、累々たる大小幾多の結節が相垂れ相重る樣になる、其結節の肛門の內部にあるのが內痔核で、外部にあるのが外痔核である。この狹い肛門內に澤山の結節が出來ると坐臥步行に不便であるばかりでなく、核が破れてだら〳〵始終出血することがあり、又此處から微菌が入つて恐しき膿毒症を起すこともある。

（脫肛） 本症は排便時に於ける特徵が二つある、第一は出血で、第二は肛門の脫出である、第一の出血は初期の間は僅かに糞塊の表面を染め、或は拂拭紙に着色するによつて發見する位であるが、重症にあつては如露の水を注ぐ樣に純血を流すのである。第二の肛門の脫出は、輕度の間は其脫出部も豆粒程だが、段々胡桃大より鷄卵大乃至手拳大になるものである。さてこの脫出部は輕度の間は、空氣を吸ふ氣味にすると自然元の通りに還納するか又指頭で押しても元の通りになる。けれども段々月日が經つて病勢が進むに從ひ、容易に還納し難いのみならず、僅かの步行にも直ちに脫出して心地の惡しい許りでなく、時としては腫脹疼痛を發し、又出血の結果として腦貧血を起し、輕き頭重、頭痛より、重き

は卒倒して人事不省に陥り、其他種々の續發症を起して身體の衰弱を來すものである。又同病患者にして腸加答兒、赤痢等の下痢症に罹るときは其脱出部を完納せしむる隙が無い爲め發熱、腫脹、疼痛を起して遂に壞死に陥り膿毒症を起して生命に關するやうなことになるものである。

（直腸脱）　本症は小兒に多いものであるが、大人にも大分ある、小兒には成長するに從ひ何時とはなしに治癒するものであるが、多くは次第に增劇するものであるから決して粗末にはならぬ。

（痔瘻）　本症は多くは痔核、脱肛等を有する人が其原病を閑却して、治療を怠る爲めに、其分泌物が絶えず肛圍を刺戟して、其部が漸々消耗菲薄となり濕疹を起すからである。又往々寄生蟲の刺戟の爲めに本症を起すこともある。何れにしても肛圍が何とも云へぬ程痒く、て夜間などは安眠が出來ないで精神不安となり、爪にて搔傷を起し、疼痛を發するものである。

（下血）　本症は脱肛、痔核、裂痔等より續發するものであるが、そして多くは脱肛に發するもので、時としては下血の大量に達し、種々恐るべき續發症を惹き起すことがあるのである。然るに素人は下血があると惡血が取れたとか云ふて喜んで居るが、これは以ての外のことであつて、後には全身貧血を來すことになるのである。

（豫防法）　本症は、多くは後天性の不養生より來るものであるから、其原因を去ることを去つてさへも癒るものであるのに、餘り苦痛を感ぜぬ程のものであれば、大抵は癒らぬものとして打捨て置く樣であるが、これは甚だしき間違ひである。痔瘻の如き重症のものでさへ其治療法宜しきを得れば無論癒るものである。痔核の如きは或は單に養生法を嚴守した丈けでも癒ることがある。殊に其原因が一時的のものであると最もよく癒る、例令ば婦人の妊娠時に起る痔疾の如きは分娩をして了へば大抵は癒るものである。それからよく人は痔は一旦癒つても大抵は再發するものであると云ふが、痔疾其物は決して再發性を帶びで居るものではない、一體一度でも痔に罹る人は必ずかゝる丈けの原因があつて罹るのであるから、一時醫療によつて癒つても、矢張其原因假へば不攝生とかゞ始終其人にあるとすれば、再發することになるのであるから、絶對的に其原因を去れば再發するものでない。

（攝生法）　運動は本症に最も大切な關係があるから、若し運動不足の人が本症に罹つたならば、從來の生活法を一變すると云ふことは必要なことである。日本人にして輕度の痔

疾を有する人が、海外に渡つて知らず識らずの間に全治したと云ふことは、往々耳にする處であるそれは多少飲食物によることであるが、其主なる點は適度の運動するからである。此運動法には種々あつて何れを選ぶも敢て惡くはないが、殊に良好なりと信ずるものは晩餐後三十分乃至一時間位の散歩である、其他玉突き、ローンテニス等は最も賞用すべきものゝ一つで、又運動に兼ねて新鮮の空氣中に呼吸すると云ふことは、ヨリ必要なことである。併し過度の運動例へば自轉車乘り、騎馬等は宜しくないことは勿論である。

飲食物で惡いものは第一酒である、酒は何病にも宜しくないが、痔疾には殊に惡い、上戸黨には氣の毒であるが何とも致し方がない、然らば下戸黨は萬歳であるかと云ふに、餅も殆んど酒に讓らぬ害を爲すものであるから兩黨ともに大打擊である。然らばどんなものを攝ればよいかと云ふに何品によらず、一時に暴食するのは宜しくない、成るべく消化し易く、淡泊なものを少量づゝ數回に用ゐねばならぬ。假へば脂肪少き肉汁、スープ、ラカン、雞卵、牛乳、肉類では小羊、野鳥、鰈、鱈、野菜では大根、馬薯鈴、サラダの如く、糞便を硬固ならしめざるものは宜しきも、糞便の量を多大ならしむるのは避くるがよい、又果物は、林檎、梨、桃、葡萄等を食後に食するのは宜いが、柿は便秘を促すものであるから用ゐてはならぬ。又生姜、芥子、胡椒、ワサビ、煙草、濃厚なる茶、コーヒ等の如き刺戟性のものゝ不良なるは勿論である。併し食間に平野水、サイダー、リモナーデ、シトロン等の如き飲料を用ゐるは敢て妨げない。

それから便通の調節を計ると云ふことは實に肝要なことで、毎日一二回軟便を通ずる習慣をつけねばならぬ、そこで常に便秘する人は食後果實を食するか、毎朝冷水を飲んで適宜の運動をせねばならぬ、それでも便秘の氣味があれば緩下劑を投ずるか、灌腸させねばならぬ、厠で努責するのは惡い、又下劑には種々あるが賞用せらるゝのは精製硫黄、茴香末、センナ葉末等である。

次に排便後の拭淨用には新鮮にして柔軟なる脱脂綿、日本紙、海綿等がよい、用に臨んでは、海綿を初め水に潤ふして輕く搾つたもので叮嚀に拭ひ、次いで乾いた方で乾燥する樣によく拭かねばならぬ。新聞紙や、小説類の如き廢物を利用するのは最も忌むべきことである。

溫浴もよく行はれて居るが、自然清潔法にも適ひ、又一時血行を旺盛ならしむるから、局部の鬱血を掃流し、病勢を緩解する效力は確にある、又唯單に局部を洗ふのみでも宜し

く、入浴後バケツに水を汲み込んだもの〻中に肛門を入れて冷す等は殊に效がある方法である。温泉にては熱海、有馬、湯本等は强壯なるものに適し、虛弱なるものにあつては伊香保がよろしい、併し温浴のみで全治を望むはチト無理な注文であるから、必ず適當なる治療法を施さねばならぬのである。

（療法）痔核、俗間に馬糞又は鼈甲を熱して肛門を温め、或は無花果の葉を温湯に入れて痔核を蒸すが、これは一種の罨法療法である、何れも用ゐて效があるが、醫師の用ゐる罨法藥は百倍鉛糖水をガーゼに浸し其を局部にあて、上に油紙、脱脂綿等を加へて輕く繃帶する樣になし、ガーゼが乾いたならば又取換へるのであるが、これは主に痔核が十分に緊滿して熱い、灼かれるやうな感のある場合に應用するのである。

痔核には、入浴が偉大なる效力を奏するものである、入浴は血行を盛んならしめ、靜脈血の環流を促し、又局部を清潔にし神經を緩解し、若し又損傷あるものには肉芽の發生を助くるなど、輕症のものは單に入浴療法のみにて快癒することもあるもの故、痔核患者は成るべく頻回入浴するがよい、それから冷水灌腸も效あり、又鬱血の甚しきものには水蛭を貼し、又刺絡によりて射血すること等もあるが、これは得て習慣になり易きもの故、成

るべくならば應用せぬがよい。

痔核は外部に出て居るもの故、外用塗付藥は割合に利くものである、尤も中には單に塗布藥のみにては全癒を期し難き場合のあるは無論なるも、少くとも塗付藥によつて、如何なる症にても輕快するものである。

塗布藥には普通五倍又は十倍の單寧酸軟膏であるが、クロサロビン、沃度ホルム、ロードキスをリント（絞羽のやうもの）に塗りて局部に貼用すると宜しい。それから痛みの劇しいのは、單寧酸、コカイン、ロートエキスの混和したものを用ふるがよろしい。

坐藥と云ふのは、肛門内に挿入する圓筒或は圓錐狀の、太さは小指位、長さは一寸位のものであるが、これに數種あるが、その中賞用せらるゝのは、クリサロビン、沃度ホルム、ロートエキス、柯々阿酪を混和したものを用ふるがよい。

直腸脱には、單寧酸軟膏を塗つて完納し、そして其後には直腸壓定器を用ゐて固定して置くがよい。

裂痔には、痔核の療法に準ずるがよい。

痒痔には、寄生蟲のあるものには驅蟲劑によつて驅除し、其他には温浴によつて局部を

よく清潔になし、よく拭ひ取りたる後に、硼酸末、亞鉛華、澱粉の混和劑を汗知らずの樣に袋に入れて、シト〳〵打ち撒らすがよい。

下血には、根治法として注射であるが、塗布劑としてはアドレナリンで、坐藥には單寧酸、柯々阿酪等である。

（脫肛還納法）　脫肛の起りさうな場合、又は起つた場合には、先づ第一は灌腸療法で、痔核の緊張して居る時に行ふと、未だ出でざる脫肛を防ぎ、又既に出た脫肛も輕いのなら納まることになる、用液は前者には冷水のみにて可なるも、後者にては百倍の單寧酸水、或は二百倍の明礬水の何れなりを四百グラム（約二合五勺）程一回に灌腸するのである。

脫肛は時と場所とを問はずに出ることあるが、多くは便通の時に出るものである。これは早く納めないと、種々の障害を來すものであるが、さて其納方は、先づ匍ふ樣の姿勢を取り、兩面に脂肪を塗つた布片を脫肛の上に被ひ、指頭で此布片の上から脫肛を肛門内に壓して納めるか、又は脫肛に塗を塗つて壓納してもよいが、此際に用ゐる油は單純の胡麻油なり、オレフ油でも差支はないが、成るべくは單寧酸軟膏のやうな收斂性の油劑を用ゐた方がよい。脫肛も出た直ぐなら容易く納るが、少し長くなると復納は困難なものであるから、斯樣な場合には腰湯を使ふて、よく溫めた上ですると案外樂に出來るものであるそして納めた後は脫脂綿、ガーゼ等を通常繃帶する樣にし其上に褌を堅く締めて置くがよい。

若し又脫肛の度々出る人や、老人等にあつては脫肛固定器を用ゐるとよい、これはベラオーグト氏の直腸壓定器、フオンエスコルヒ氏の脫肛固定器等が賞用されて居る。

【痔瘻】Mastdarmfistel(獨)　Anal fistula(英)

（原因）　本症は痔核を充分に治療しなかつた場合、直腸周圍炎、肛門周圍炎、糞便中の魚骨等の爲めに傷けられたもの、直腸潰瘍、淋病、黴毒、結核等が主なる原因であるが、其中に結核性か一般に多い、結核性にあつては其分泌物に結核菌があつて、それより他に傳染の危險あるもの故、其分泌物又は分泌物を處理したものは、總て消毒の上捨てるのが必要な注意である。

（症候）　本症は、又孔痔とも云ふが、痔疾中最も重症なものである、痔瘻の直腸粘膜と外面と交通せぬのが不全痔瘻と云ひ、又外面より直腸まで穿孔して堪へず直腸内容物の外面に流れ出づるのが全痔瘻、それから同じく孔が穿くにしても、肛門外に穿くのは外痔瘻で肛門括約筋の内部に孔の穿くのは内痔瘻と云ふものである。

斯の如く數種あるが、輕いものは御當人頗る平氣の平左で、時々膿の出るので驚く位のものであるが、少し重いものになるとなか〳〵困難なものである。全痔瘻とは、直腸の内外に孔の通じてあるものゝことであるが、不潔なる腸の内容物が、絶えず内孔から外孔に洩れ出て、そして其内容物が通る度に瘻腔壁を刺戟され、分泌が多くなり、外孔の周圍は常に濕潤して、遂に濕疹を發するなど非常に氣持の惡いものである。内痔瘻は直腸の内部にばかり孔の穿いて居るものであるが、これも矢張り絶へず、直腸内容物の爲めに刺戟されるゝことはないが、よく其外孔口が塞がり易い爲めに膿が蓄積して新らしく炎症を發し、疼痛を發することがある。そして以上の痔瘻は其何れの種類を問はずなか〳〵容易に癒らぬものである。

（療法） 本症は外科手術によらなければならぬものである。併し姑息法としては坐藥を挿入して一時の安を貪ることは出來るが併し決して根治ではない。

俗間に痔瘻を切れば肺病になると云ふがこれは強ちさうとは限らぬ、尤も結核性の痔瘻を切開して、結核菌が血管其他によりて肺に行く場合は無いでもないが、これは滅多にあることはない、否寧ろ皆無と云ふて宜しく、痔に結核があれば多くは其以前に肺若しくは腸に結核があるもの故、手術によつて身體の弱つた爲に、肺の方が惡くなつたと云ふ方が多いのであるから、手術するにしても能く其時期を選むが肝要であるから、是等は然るべき大家に依賴するがよい。

それから痔疾の總てに通じて注射療法の效あることがある、注射法には數種あるが、何れを可とするかは問題である。

【深層性虹彩炎】 Tiepiescutliche Regenbogenhautentzündung（獨）
Deep layer inflammation of the irir（英）

（原因） 結核、黴毒、癩病によつて起る。

（症候） 表層性のものと同樣であるが、浸潤は虹彩實質内に生ずるからして、紋理が消失して、色彩の變化等が著しきものである。また虹彩實質中に浸潤中に結節を生ずるが、黴毒性のときには結節は瞳孔緣または毛樣緣に生じ、黄赤色にして血管新生を見る。結核なれば中間部又は前房隅角に生じ、灰白色にして、血管新生すること無く、また癩病のときは緣部に生じ、白色にして血管新生あるものである。

（療法） 原因療法を行ふの外、局處療法として、アトロピンを點眼して、充血を去り、且つ後癒着を豫防し、または之を除く等虹彩炎一般の療法によるのである。

【硝酸中毒】Salpetersäure vergiftung(獨) Poisoning by nitric acid(英)

症候、療法とも硫酸中毒と同樣である、同條下を參照せられよ。尙は食道に腐蝕を來せるものに對しては食道腐蝕の療法を行ふのである。

【症候的禿髮】Alopecia Symptmatica(獨) Symptomatic Alpecia(英)

（原因）衰弱性傳染病に於て、毛乳嘴は毒性影響を被ひて、營養不良に陷るが爲めに禿髮を來すものであるが、多くは一時的である。

（症候）窒扶斯、猩紅熱、肺炎、盲腸炎、產褥後に於て、凡そ六週間後には汎發性毛髮脫落を來すものであるが、殊に黴毒性禿髮は固有の形狀を現はして、傳染後半年或は一年を經て、後頭及び顳顬に於て斑點狀の脫落を來すものである。

（療法）自發的治療の促進には糠粃性其他の禿髮症に對する諸種の「アルコール」劑を用ゐ、其他硫酸キニーネ、タンニン、ペールバルサム、硼酸ラノリン膏、洗滌用としては抱水クロラール、リチネ油を用ゐるのである。

黴毒性禿髮に於ては驅黴療法及び局處に白降汞の塗布等を用ふるがよい。

【耳痛】Ohrschmerz(獨) Otalgia or earache(英)

（原因）多くは大臼齒の齲齒によつて、同側の耳に疼痛を發するものである。また扁桃腺其他近隣せる部分の疾患によつて起る。但し耳性耳痛とは別物である。

（症候）耳に限局せる疼痛が主徵であつて、多少聽覺も障碍せらるゝものである。

（療法）原因を除くが緊要である。場合によりてはモルヒネの如き止痛藥を要す。

【耳血腫】Ohrblutgeschwulse(獨) Aural hematoma(英)

（症候）耳翼前部の凹陷部に突然何等自覺的症候なくして、急速に青色或は暗赤色の柔軟なる膨隆を生じ、甚しきは耳翼の全面に亙ることがある。

（療法）緊張甚しきものは、注射器を以て內容を吸出して壓定繃帶を施すがよろしく、輕きものは濕布繃帶を施し、少し吸收されたるときはヨードカリウム劑を塗布し、若し化膿した場合には切開手術を行ふがよい。

【耳硬化症】Otosklelose(獨) Otosclerosis(英)

（原因）本症は遺傳に關係を有することは確實であるが、又黴毒、月經時、妊娠時に來るものである。

（症候）男子よりも十五歲乃至三十歲の婦人に多いもので、初期には耳鳴りがあり、そ

れが段々増長すれば從つて聽力に障害を來し、眩暈等あつて遂に一側より他側に及ぶものである。

（療法）内服藥としては、ヨードカリウム、臭素カリウムを與へ、其他注射、通氣法、按摩法を施すのである。

【耳茸】Ohrpolypen(獨) Otopolypus or Ear-polypus(英)

（原因）急性或は慢性の化膿性中耳炎より發することが最も多きものであるが、また潰瘍性腫瘍に發生することがある。

（症候）赤色球形の腫瘤を外聽道深部または鼓室内に發するものであつて、其周囲には膿汁を附着して居る。また茸腫が全然管腔を閉塞するときは、發熱、惡寒、耳痛及び頭痛を發するものである。

【耳鳴】Ohrgeräusche(獨) Tinnitus aurium or Ringing in the ear(英)

（原因）耵聹栓塞、外聽道及び中耳の炎症性疾患、耳硬化症、迷路及び、聽神經の疾患によつて來り、また腦、心臟の疾患、血液病等によつて起るものである。

（症候）耳鳴は高調なることもあれば、また低調なることもある。そして其音調は雜音

なることが多いが、時としては樂音に近きことがある。持續性に來ることもあれば、また間歇性に來ることもあり、また搏動性なることもあれば、否らざることもあつて、種々であるが、時には耳鳴に耐へ難くして、自殺を企つるに至るもの故、大に注意を要するものである。

（療法）原病の治療は第一である。内服藥としては普通臭素劑を與ふ。其他通氣法、壓迫消息子を用ひる鼓膜按摩法を行ふ。

【耳濕疹】Ohrekzem(獨) Aural eczema(英)

（原因）幼年者に來る濕疹は、沐浴の際に水を充分に拭き取らぬため、其他耳翼附近を不潔にして置くか、或は刺戟性の藥品の爲めに起ること等である。また哺乳兒に厚着させて汗をかゝせ、其爲めに汗の刺戟によつて、耳翼の附近に濕疹を起すことがある。また毛絲の編物、羅紗、毛布其他の毛織等によつて、小兒をくるみ、其等のものが絶えず耳翼附近に觸て擦る爲めに、其刺戟によつて濕疹を起すことがある。また顏面或は頭部の濕疹より蔓延することもあれば、また耳漏あるを看過せるとき、分泌物が分解し、刺戟するによつて、先づ外聽道に發することがある。

（症候）　耳の濕疹は、甚だ多く見る病氣であつて、これには二た通りの種類がある、即ち其一は濕潤性濕疹で、他の一は乾燥性又は落屑性の濕疹である。

小兒には多く濕潤性の濕疹が來るものであつて、そして其出來る場所は耳翼の附着線或は耳朶、または外聽道の入口等である。本症に罹ると、其部分は赤く糜爛して、其表面に痂皮が附着して居る、痒い爲めに其處を掻くので、時に出血することがある

濕疹が出來ると、その部分が赤くなり、少し腫れ、且つ汁が出る、最初には通常其部分に灼けるやうな感じがあり、それと同時に痒みを覺ゆるので、哺乳兒などは爲めに絶えず號泣して、遂に睡眠も妨げられるに至るものである。

大人には通常乾燥性の慢性濕疹が多く生ずるものである。これは外聽道の皮膚の表面から頭垢のやうに皮が除去れる、これは非常に痒いものであつて、痒みの爲めに眠られぬなどである、其部分の皮膚は通常肥厚して厚くなるものである。

（療法）　濕疹は適當の治療によれば、比較的短時日の間に癒ゆるものであるが、若し治療の方法を誤る、假へば不適當な膏藥を塗布するとか、または素人考へで種々の塗り藥をするやうなことがあると、其れが爲めに却つて病氣は段々に擴がり、遂には頸の淋巴腺まで腫れ出し、甚しきはそれが化膿して切開せねばならぬやうなことに至る故に、病勢の輕い初期に於て、早く適當な藥を用ゐて癒すと云ふことが必要である。

大人に來る濕疹は通常慢性であつて、治療にも時日を要するものであるから、患者も醫師も共に忍耐力が必要である。勿論適當なる藥劑によつて全治するものであるが、僅か二三度醫治を受けて、それで癒るなど云ふ考を以て居る人は大變に多いやうであるが、通常それでは根治せぬものであるから、屢々醫者に診せて其病氣の容態によつて、藥を取り代へて貰ふと云ふ風にするのが必要である。

療法としては、急性症には亞鉛華、阿列布油泥劑を塗布し、また濕潤甚しきものには亞鉛華、澱粉等の撒布藥を用ひ、また硼酸軟膏、ラッサル氏軟膏、ウキルソン氏軟膏、ツメノール氏軟膏等を貼用し、頑固なる落屑性症には箋兒劑がよろしい。

【耳損傷】Ohrverletzungen（獨）　Aural injury（英）

（原因）　相撲、擊劍或は其他の機會に於て、耳を劇しく打たるゝ等によつて起る。また平手にて耳を打たれると、よく鼓膜損傷を來すことがあるが、此鼓膜損傷は、既に記載してある。

（症候）通常耳翼が急に腫れて、普通の二倍或は其以上の大さになり、同時に痛みを感じ、色は暗赤色となるものである。

（療法）疼痛の劇しきときは、氷嚢を其部に冷すか、または五十倍の硼酸水を以て罨法するがよい。一體耳の損傷は容易に癒ちぬばかりで無く、容易く化膿するの虞れもあり、また甚しく醜形を殘すものであるから、成るべく早く醫師の治療を受くるがよい。力士の耳を見ると間々可笑しい形の耳翼を認むるが、これは多くは此病の結果である。

【耳性咳嗽】Ohrhusten(獨) Aural cough(英)

（原因）消息子、綿片、耵聹其他の異物が、迷走神經耳枝の分布區域殊に外聽道後壁を刺戟するによつて發するものである。

（症候）咽頭に一種不快の瘙痒感があり、次で乾性咳嗽を發するが、此咳嗽は頑固に頻發するものである。だから呼吸器に異狀なくして、乾性咳嗽の頻發するときは、本症に疑を措かねばならぬ。

（療法）原因となれる異物を除去するがよろしい。

【耳性横竇血栓症】Otogene sinusthrombose(獨) Aural sinus-thrombosis(英)

（原因）急性及び慢性化膿性中耳炎の經過中、乳嘴突起の骨崩壞を起せば、しば〳〵後方に進みて、直接に横竇壁を侵襲し、壁は圓形細胞の浸潤を蒙り、茲に化膿を起して其内皮は破壞せられ血液が此の部に凝着して壁立性血栓を生ずるものである。

（症候）本症の特徴は、惡寒戰慄を伴へる高熱であつて、恰もマラリアに於けるが如き間歇熱である。其他頭痛、黄疸、脾腫等を來し、局部症狀としては耳漏竅に有痛性腫脹を見るものである。其他處々に轉移を來すものである。

（療法）早朝に外科的手術を行ふ、早ければ早いほどよい。

【耳性腦膿瘍】Otogener Gehirnabscess(獨) Aural cerebral abscess(英)

（原因）多くは化膿性慢性中耳炎によつて起るものである。

（症候）化膿性腦膜炎、腦髓炎がそれである。各症を見よ。

（療法）中耳全鑿開術を行ひ、次で膿瘍を開き、清拭するのである。

【耳腫瘍】Ohrgeschwülste(獨) Aural tumor(英)

（種類）耳翼には血管腫、纖維腫、粉瘤、癌腫、肉腫等を生じ、外聽道骨部に骨腫が主として來り、鼓室には癌腫及び肉腫を發生し、また聽神經には、小腦橋隅腫瘍を發生する

ものである。

（症候）各腫瘍特有の症狀を發するの外、其腫大によつて、難聽、耳鳴等を發するものである。

（療法）成るべく早く切除するがよい。

【耳出血】Ohrblutungen(獨) Aural haemorrage(英)

（原因）外傷または炎症充血ありては血管破裂するときに來る。また嘔吐、咳嗽によつて發するたとあり、稀れには代償月經として來ることもある。

（症候）外傷によるものは、鼓膜破裂其他の損傷ありて外聽道より流血するものである。また鼓膜損傷せずして、鼓室内に出血するときは、中耳内に血液瀦溜して、耳内壓重の感及び難聽を發す。また迷路に出血あれば、メニエル氏症候群を呈するものである。

（療法）小出血は格別の治療を要せざるも、强度の出血には、外聽道または中耳にタンポンの挿入を要することがあり、時にはまた頸動脈の壓迫または結紮を要することもある

【耳翼軟骨膜炎】Perichondritis auricularis(獨) Auricular chondritis(英)

（原因）外傷、凍傷竝びに外耳軟部の疾患より來るものであるが、また稀れには結核に

よつて發することがある。

（症候）耳翼外面に凹凸不正の腫脹を來し、甚しきは耳朶を除いて全面に蔓延することがある。皮膚は炎症潮紅を呈し、觸るゝに熱感及び疼痛がある。經過は一般に緩慢であつて、數日乃至年餘に亙り、其一部分は壞疽に陷りて萎縮を來しか、または著しき肥大畸形を殘すものである。

（療法）初期には冷罨法を施し、波動を呈するに至れば切開するがよい。また結核性のものにあつては、ヨードフォルム、グセリセリンを注射するのである。

【耳翼凍傷】Die Erfrierung des Ohrmuschels(獨) Auricular frost-bite(英)

（原因）耳翼は外部に突出して居るからして、從つて冷い風等に觸れ易いばかりでなく割合に血管に乏しいからして、長い間冷い空氣に觸れて居るとか、または非常に强い寒氣に遭ふと、容易く凍傷に罹るものである。餘り長時間氷囊で冷やしても、凍傷に罹るものである。

（症候）凍傷の初期には、其部分が赤く腫れて痒いかまたは痛いだけであるが、それがだん〳〵に劇しくなると、今度は皮膚が糜爛して潰瘍に陷るものである。尙ほ一層甚しく

なると、今度は耳翼が落ちて了ふことがある。だからして寒冷な場處に居つたり、或は寒氣の劇しき場合には耳翼を保護せねばならぬ、殊に幼年者にありては、父兄が注意してやることが必要である。卽ち毛皮又は綿で耳翼を包み、又時々摩擦して血行をよくすることも必要である。

（療法）凍傷の初期には、薄き沃度丁幾を其部分に塗布すれば癒る、併しこれは初期の時だけに限るのであつて、若し病勢が糜爛、潰瘍等に進んだ場合には、直ちに醫師に就きて適當の治療を受けなければならぬ（凍傷參照）

【耳翼の畸形】Die Missbildung des Ohrmuschels(英) Deformity of the auricle

生來又は怪我等により耳翼に畸形を殘すことがあるが手術によつて治療し得るものである。

【衄血】Nasenbluten(獨) Epistaxis(英)

（原因）本症の原因は種々あつて、或は鼻を打つて卽ち外傷によつて起ることもあり、又鼻腔內に損傷を起して出血することもある。假へば指又は爪で引掻くとか剃刀で傷が出來たとか云ふ場合に起ることがある。其他心臟、腎臟、肝臟などに病氣のある人は、血壓亢進の結果本症を起すこともあれば、又動脈硬變の爲めに起ることもある。又出血し易い素質のある人は突然衄血を起すことがある。婦人などでは月經の時に、代償性に月經の代りに衄血が起り、其外痔疾患者にも矢張り代償性に、痔核から出血する代りに鼻腔から出血することもあるのである。故に婦人は月經中は怪我などをせぬ樣に注意することが必要である、鼻腔に少し傷が出來ても大量の出血を見るのである。醫師が婦人の月經中に手術をせぬのは皆高度の出血を恐れるからである。

衄血は少量の場合には、さして危險なこともないが、大量の場合、若しくは出血の量が少くとも一日數回出血して、それが長時日續く場合には遂に高度の貧血を起し生命に危險を及ぼすに至るものである。

（症候）衄血の時には、屢々頭重、眩暈、耳鳴り、上衝等の前驅症狀があることがある。出血する場所は多くは鼻中隔卽ち鼻の障子の前端であつて、鼻腔の入口部からさして奧でない處から出血するものである。

（處置）若し鼻から出血した場合には、暫くの間手指で鼻翼を鼻中隔に壓し付けて置くと輕度の場合には通常それで止血するものである。紙や綿を詰めるよりも、此法が簡單で

且つ容易に止血するものである。併し多量の場合には、鼻翼を手指で壓し付けた丈けでは不充分であるから、さう云ふ場合には氷嚢で頭部を冷し又氷枕を用ゐ其外鼻柱の上に氷嚢をあてる。それでも止血せぬ場合には、速に專門家を招いて止めて貰はねばならぬ、若し出血を餘り長く放任して置くと、全然貧血に陷り、血液薄くなり凝血作用が鈍くなり容易に止血せずして遂に生命にも危險を及ぼすことになるから、さう重態にならぬ前に專門醫の許に行き早く手當を受けることが必要である。

睡眠中に鼻から出血して、それが咽頭の方に下り、翌朝起きた際に血の混つた痰が出て、その爲めに驚くことがあるのみならず神經質の人は肺結核であるかと思ふて心配することがある。又時として腦溢血の代りに代償的に衂血を起す場合もあるから、かう云ふ際には反つて其出血を急に止めない方が宜しい之等の判斷は總て醫師の考へによるべきである。

【腎盂炎】 Pyelitis(獨) Pyelitis(英)

(原因) 釀膿菌、普通大腸菌、結核菌、チフス菌、肺炎重球菌等の侵入によつて炎症を發するものであつて、其侵入の機會となるものは頗る多いものである。

(症候) 本症は、腎臓部に疼痛を發し、頭痛、發熱、倦怠、食思缺乏等を發するが、尿の變狀は主要なるものにして、膿樣或は血樣を呈し、常に溷濁して居るのである。

(療法) 平臥安靜を命じ、多量の飮料、殊に煮沸せる牛乳に石灰水を加へたるものを與ふ

【腎臓結核】 Nephrophthise, Nierentuberkulose(獨) Tuberculosis of the kidney(英)

(原因) 本症は全身粟粒結核の一症狀より來り、また肺結核、泌尿生殖器結核、腸其他周圍臓器の結核より感染するものであつて、二十歳乃至三十歳の、女子よりも男子に多きものである。

(症候) 腎臓部に疼痛を發し、血尿を出し、甚しきは膿尿を洩らすに至る。疾病は總て漸次的である。また他の結核の如く消耗熱を發し、身體漸次羸瘦、衰弱を來すに至るものである。

(療法) 成るべく初期に、腎臓を摘出するがよろしいが、多くは他臓器にも結核あるを以て豫後不良なることが多い。

【腎臓腫瘍】 Nierengeschwülste(獨) Tumor of the kidney(英)

(種類) (一)良性腫瘍としては、腺腫、軟骨腫、脂肪腫、血管腫、纖維腫、筋腫等ある

も稀れである。

(二)嚢腫は、多く發するもので、これに單純性孤在性嚢腫と、皮膚樣嚢腫とある。また多發性嚢腫は、良性と惡性腫瘍との中間に位するものである。

惡性腫瘍は、(一)定型的癌腫、所謂胎胚腫瘍、(二)肉腫及び副腎腫の三種である。

(症候) 各腫瘍特有の症狀を呈するの外、疝痛及び尿に異常を來すもので、殊に惡性腫瘍は血尿を洩らすに至るものである。

(療法) 偏側の際は成るべく摘出するを可とす、併し嚢腫にあつては、其穿刺を行ひ、重量を減じて良果を收め得ることがある。手術せざるものは總て對症療法による。

【腎臟癌腫】Nierencarcinoma(獨) Carcinoma of the kidney(英)

(原因) 多くは隣接器官に於ける癌腫の傳播若しくは轉移に因るもの多く、原發性のものは甚だ稀れである。

(症候) 本症は徐々に發するものであつて、他の癌腫にも見る如く、羸瘦、貧血、惡液質は日を追ふて漸進し、尿には常に血液を混じ、腎臟部に鈍痛あり、壓すれば益々其疼痛劇しくなるものである。

(豫後) 不良

(療法) 早く確診し得ば、腎臟切除術を行ふことが出來るが、多くは不幸の轉歸を取るものである。

【腎臟水腫】Hydronephrose(獨) Hydronephrosis(英)

(原因) 先天性に來るものは約三分の一ほどあつて、これは多くは偏側であるが、稀れには兩側なることもある。後天性の原因としては最も多きものは泌尿管内の結石狹窄によるものであつて、其他小骨盤内の腫瘍、遊走腎の捻轉等も原因となるものである。

(症候) 腫瘍大となれば、重量及び壓力によつて、疼痛と壓迫の感を自覺するのみであるが、若し細菌傳染を來せば發熱、疼痛等を發するに至る。また兩側性腎臟水腫の末期にあつては尿毒症を發するものである。

(療法) 原因を除くことが第一の注意である。また偏側性にして極めて大なるときは摘出するがよろしく、兩側性なるときは、輸尿管瘻を造るより外に方法が無い。

【腎臟の外傷】Traumatische Nierenverletzungen(獨) Injury of the kidney(英)

(原因) 銃創、皮下創傷、挫傷、破裂等を來すものである。

（症候）血尿、出血、虚脱、腎臓部の疼痛等が主徴候である。

（療法）一般法則によつて縫合術を行ふ。

【腎石病】Nierensteinkranheit(獨) Renal calculus(英)

（原因）痛風、糖尿病、チスチン尿及びこれに基く結石形成等によつて起り、肉食及び過度の飲酒殊に坐食を爲すものに多く來り、また遺傳的關係をも認むるのである。

（症候）何等の症候を呈せざることあるも、通常は時々屈したる姿勢を取り、薦骨部に疼痛を發し、腎臓部の壓感があつて殊に勞働後に甚しきものである。また胃腸の障礙を來すものである。腎石疝痛は、結石が輸尿管中に遊動し來りて、狹窄を生じたるときに起るものであつて、激甚なる疼痛が初め腎臓部に起り、輸尿管に沿ふて大腿部に放散するものであるが、此際惡寒、戰慄、發熱、嘔吐、冷汗、虚脱、人事不省を來すに至るものである其他尿意頻數、また時としては無尿症を發し、或は血尿を洩すことがある。此疝痛發作は結石が輸尿管を通過するか、または腎盂に復歸する迄數時間乃至一日間繼續するものである。時としては無尿症の經過長きに亙り、爲めに尿毒症を起して、死に至ることがある。

（豫防法）成るべく菜食するがよろしく、牛乳は多量に攝取するを可とするも、肉類は成るべく少量に取るがよい、殊に肝臓、腎臓、胸腺、犢牛腦、鹹魚の卵等はヌクレイン含量が多いからして、決して用ひてはならぬ。其他食物の量は節し、酒類の飲用を禁じ、勞働、運動、入浴等によりて、新陳代謝機を盛んに、飲料は成るべく多く用ひるがよろしく、殊にアルカリ性鑛泉の飲用は效がある。

（療法）疝痛發作のときには、モルヒネ等の麻醉劑注射によりて緩解するも、根治には腎臓截切術又は摘出術を行はねばならぬ。

【腎臓周圍結締織炎】Paranephritis(獨) Perinephritis(英)

（原因）周圍組織より炎症の波及によつて起り、また急性傳染病の經過中に來る。其他化膿性炎症に續發することがある。

（症候）惡寒、戰慄、高熱を激烈に、或はまた潛行性に始まり、腰部の疼痛及び深在性壓痛を來し。また嘔吐、吃逆、黄疸、下肢の浮腫等を發し、時にはまた下垂し來りて、膀胱或は膣内に破裂することがある。

（療法）切開手術によるの外なきものである。

【腎臓、腎盂及び輸尿管の先天性畸形】

(一)單腎　極めて稀有のものである。

(二)馬蹄腎　通常兩腎が其下端に於て癒合せるものである。

(三)先天性腎臟變位　これは腎臟の位置が生理的のところに無いが、遊走腎と異つて、其位置に固定せらるゝものである。

【靜脈瘤】Varixphlebectasie(獨)　Aneurysmalvarix(英)

(原因)　總て靜脈血の還流を妨げ、靜脈內の血壓を亢むるものが本症の原因となるものであるが、また靜脈壁及び其弁の抵抗力の弱いのも誘因となるものである。

(症候)　所患靜脈が、膨隆するものであつて、それが爲めに皮膚の萎縮、浮腫、潰瘍等を來し、甚しきは、靜脈炎及び出血を來すものである。殊に下肢、痔靜脈叢、蔓狀靜脈叢に多く發するものである。痔靜脈叢の瘤は卽ち俗に云ふ痔疾であつて、此出血ははしり痔と稱するものである。

(療法)　下肢等にあつては、彈力性壓迫或は高擧を可とすることあるも、根治には總て靜脈を摘出するのがよい。

【出血性病】Hämorrhagische Diathese(獨)　Hemorrhagic disease(英)

本症には紫斑病、リウマチス性紫斑病、惡性紫斑病の三種ある、詳しくは各病下を見られたし。

【臭素疹】Brom Exanthème(獨)　Bromid Eruption(英)

(原因)　臭素劑の內服によつて發するところの皮膚病である。

(症候)　五厘銅貨大位の紅斑として顏面及び軀幹に散在性に發することもあれば、また汎發性紅斑となりて下肢を犯すことあり、或は蕁麻疹樣の發疹を見ることもあるが、最も多く現るゝは結節樣の皮疹である、卽ち粟粒乃至豌豆大の赤色または褐赤色の痤瘡樣の小結節を生じて、それが追々に膿疱となる、時には此膿疱が融合して大となることがある。頭髮部、上下肢及び肩胛等には好發するものである。

(療法)　臭素劑の服用を禁じ、疹に對しては亞鉛華泥膏を塗布するのである。

【酒客譫妄】Delirium tremens(獨)　Delirium tremens(英)

(原因)　アルコール性精神病の一種であつて、また震顫譫妄とも云ふ。慢性アルコール中毒の素地あるものが、熱性病、感冒、外傷、精神感動等によつて誘發さるゝものである

また平素慣れざる强酒を用ひるによつて發することもある。

（症候）時としては前驅症のあることがあるも、多くは急激に發するものであつて、意識溷濁し、夥多の幻視、幻聽あり、殊に狐、山川、人の形または微細動物を幻視するものである。また舌、手、後に至れば足に粗大震顫あり、搐搦不明、夜間不眠或は癲癇樣痙攣を發することがある。

（豫後）三日乃至八日にして治に至るも、一二乃至一五%の死亡がある、殊に心臟の弱れるときに多いものである。

（療法）中酒者にして重症なる身體的疾患にかゝれるときには、豫防として少許の酒類を與ふるがよい。本病の起りたるときには、最初より心臟に注意して、其衰弱を豫防しなければならぬ。藥物は種々あるも、入院療法が第一である。

【酒客嫉妬妄想病】Eifersuchtwahn der Trinker(獨) Jealousy delusion of the drinker(英)

（原因）本症もまたアルコール性精神病の一種であつて、一名慢性中酒性偏執病と稱するものである。

（症候）他の症候は、アルコール性精神病と同じく、記憶障礙が甚しからざるに、系統的の男女間嫉妬妄想を形成して、頗る頑固なるものである、殊に患者が陰萎に罹れる場合には、自己の妻に對して嫉妬を起し、種々妄想を呈して、甚しく虐待を加ふるもので、其例はよく新聞などに散見するものである。

（療法）入院治療が第一である。本症は割合に頑固なるものであつて、長時日の禁酒、藥用を要するものである

【酒齄鼻】Acne rosacea(獨) Acne rosacea(英)

（原因）本症は、俗に赤鼻と稱し消化不良或は寒溫の劇變、戸外に長く出て居たり、酒精飲料を多量に用ゐたり、また婦人の生殖器疾患等の爲めに起るものであつて、中年者に最も多い。

（症候）鼻、頰、額、頤等に發するもので、多く左右共に同じく發し、其皮膚面は頗る潮紅し、細小血管の擴張岐走するのを見る。そしてこれに屢々痤瘡性小結節及び膿疱の發生を伴ふことがある。又頭髮部及び顏面に、既に乾性皮脂漏及び皮脂漏性濕疹に永く存在せる時は、皮脂腺口は甚しく擴張し、分泌增加して屢々惡臭を放つものである。又自覺的には頭部充血に原因する熱感及び多少の瘙痒があり時として患部の褪色に際し、結節狀新

生物即ち結締織の著しき增殖によつて鼻瘤を生じ來り、又皮脂腺の肥大を現はすことあるので、これによつて鼻は腫瘍塊の如き大結節狀の暗青紅色の膨隆を呈するものである。

（療法）消化不良、婦人の生殖器病、循環障害等其原病を治療することが肝要である。輕症にあつては沈降硫黃、サルチル酸、酸化亞鉛等を與ふるのである。

【上顎竇化膿症】Kieferhöhlenvereiterung(獨) Suppuration of the maxillary sinus(英)

（原因）インフルエンザ、麻疹、感冒、猩紅熱、丹毒等によつて起り、また上顎第二小臼齒、第一大臼齒の齲齒によつて發するものである。

（症候）何時も鼻加答兒に罹つたやうな症狀があつて、鼻汁の分泌多く、度々鼻をかまねばならぬ。鼻汁は漿液或は粘液性で、時々膿性の濃厚なるものを出し、時としては惡臭を發することがある。患者は鼻ヅマリを患ひ、頭痛、頭重其他鼻腔閉塞に起る諸多の神經症狀を發し、また夜間睡眠中鼻汁を嚥下する爲めに間々胃病を起すことがある。また重症にあつては、鼻根眼窩に鈍痛を發し、時としては發作性に疼痛を起し、また或は下眼窩神經痛を起すことがある。

（療法）輕症にあつては、鼻腔内より中鼻道洗濯を毎日根氣よく受くれば、自然に治癒することがあるが、手術的療法を受くるのは最も確實である。

【上顎膜炎】Episkleritis(獨) Episcleritis(英)

（原因）黴毒、結核及び痛風によつて起るものである。

（症候）上顎膜組織内に淡褐色の結節を現して壓痛がある。多くは刺戟症狀輕微なるものである。

（療法）眼に溫罨法を施し、沃度加里を内服せしむ、其他原病の治療は大切である。

【十二指腸潰瘍】Ulcus duodeni(獨) Duodenal ulcer(英)

（原因）胃潰瘍と同じく、腸管粘膜の血行障害に伴ふて、胃液の作用が加はる爲めに起るものである。また皮膚の廣汎なる火傷によつて起ることもあり、女子よりも男子に多いものである。

（症候）初めは何等の症候を現はさずして、突然出血または穿孔を來すことが多い。自覺的には食後二三時間に、右季肋部に疼痛を發し、右側臥位を取るときは殊に甚しきものである。其他吐血、血便等も來るものである。

（療法）絕對的安靜に象ねて、絕食を守らしめ、滋養灌腸をなし、止血藥を投ずる等、

胃潰瘍のそれに準ずるがよい。

【十二指腸蟲病】Anchylostomiasis(獨) Ankylostomiasis(英)

腸寄生蟲病を見よ。

【自家中毒】Autointoxication(獨) Autointoxication(英)

(原因) 如何なる理由なるかは不明なるも、或る條件の下に、胃腸管又は組織間に於て有毒性新陳代謝產物を生じ、之れを吸收するによつて起るものである。

(症候) 他の中毒症に見る如く、胃腸障害、頭痛、眩暈、麻痺樣狀態または痙攣を起すものである。

(療法) 下劑を投じて、腸内を掃除するがよろしく、またタンニン水を以て腸を洗滌するがよろしく、一般に蛋白食の攝取を減じ、含水炭素食を多くするがよい。

【嗜酒病】Dipsomanie(獨) Dipsomania(英)

(原因) 一名定期性暴飲症とも云ひ、神經衰弱、ヒステリー、慢性アルコール中毒に來る。また癲癇の一種なりとする人もある。

(症候) 平素餘り飲酒せざるものが、時と場所とを選ばず、必ずしも快味あるにあらざるも、單に飲酒の念强烈となつて暴飲するものであつて、これが爲めにアルコール中毒を來すもので、つまり飲酒の狀況が病的なるものである。アルコール性精神病とは異なり、暴飲が發作的に起るものである。

(療法) 發作時には入院せしむるがよい。また臭素劑の大量を服用せしめ、或はバラアルデヒード、抱水アミレン等を與へ、また持續浴を取らしむ。

【脂肪心】Fettherz(獨) Fatty heart(英)

(原因) 脂肪病、瓣膜病、慢性腎臟炎、肺氣腫等に發するものである。

(症候) 患者は輕度の運動に由り、心悸亢進、呼吸促迫、眩暈を訴へ、甚だしきは人事不省を來すものである。

(療法) 身心の過勞を避け、暴飲暴食を禁じ、ヨード劑の内服を與ふ。脂肪病に發したるものには脱脂療法を行ふのである。

【紫斑病】Purpura(獨) Purpura(英)

(原因) 本症の原因となるものは頗る多く、熱性傳染病、黴毒、結核、月經時、妊娠中に來り、また燐其他の中毒に於ても起るものである。

（症候）　本病には、單純性、リウマチス性、ウエルホー氏紫斑病の三種あるが、何れも皮膚に出血を來すのが特徴である、其出血はまた大小種々あつて、帽針頭大、板狀、棒狀線狀に現れ、下腿に最も多く、軀幹並に上肢は往々其侵襲を免る、ものである。

患者は全身倦怠、食思缺乏等を以て起り、次で皮膚出血を來すものである。單純性のものにあつては、二三週間の靜養を爲せば治に至るも、ウエルホー氏紫斑病にあつては、內臟其他に出血を來す爲め、多くは死に至るものである。

（療法）　平臥安靜を命じ、エルゴチンを與へ、またリウマチス性にはサリチル酸、ウエルホー氏紫斑病には、規那煎に稀硫酸を伍せるものを與ふ。

【四頭胯筋腱破裂】Ruptur der Quadricepssehne(獨) Rupture of the tendon of quedrafemoralis(英)

（原因）　膝蓋骨々折と同じに來ることが多い。

（症候）　腱の離開するときは或る雜音が聞ゆるものである。併して局處に疼痛があり、破裂の個處には空所を生ずるもので、また關節囊の破られた時には、關節に血腫を來し、關節の伸展が不可能となるものである。

（療法）　伸位に固定し、腱縫合術を行ふ。

【濕疹】Ekzema(獨)　Eczema(英)

（原因）　本症は俗間に、くさ、がんがさ、胎毒、頭瘡等色々の名稱を附けて居り、實に皮膚病中最も多い病氣であつて、汗疹や水蟲なども之に屬するのである。そして其原因中非常に多い外因では、溫熱、濕氣、日光、電氣、其他の理學的刺戟又は摩擦、抓搔等の器械的刺戟、又藥劑(石炭酸、昇汞、水銀、沃度ホルム其他)防腐劑の使用に因る化學的刺戟或は皮膚分泌卽ち汗皮脂、糞尿等の分解に因る刺戟、又は植物(櫻草、向日葵其他)細菌、寄生蟲等の刺戟によつて起るものである。更に內因としては神經系統の異常、血液の異常、體質、消化器障害、腎臟疾患等により起るものである。

（症候）　急性濕疹は紅斑及び腫脹(紅斑期)を以て始り、次で小結節を形成し(丘疹期)更に進んで水疱を表はすに至り(水疱期)炎症は高度に達し、其破裂後濕疹を呈し(濕潤期)尙ほ水疱の內容は化膿して膿疱に變ずる(膿疱期)ものであるが、結局は鱗屑を形成し(鱗屑期)表皮は修復せられて再生するものである。以上は急性濕疹の定型であるが、濕疹は以上の各時期を必ずしも經過するではなくして、或は汎延せる紅斑を現して漿液性分泌を致すこともあらば、或は當初より散在せる若くは群簇せる丘疹を發することもあつて、其發

生狀態は甚だ種々である。

慢性濕疹は再發輕快交々に來り、反復して如上の諸症を發するばかりでなく、炎症の持久する爲めに、患部の皮膚は肥厚し、乾燥し裂皹を來すことがある。皮脂漏性濕疹は、一種混合せる疾患であつて、其症狀に特殊の點がある。寄生性濕疹は內形にして多くは限劃せる濕潤性の發疹であるが、其病原菌は今日尙不明である。

濕疹　何れの種類を問はず劇甚の瘙痒を伴ふものであつて殊に、臥蓐中溫まるに從ひ、增劇する爲めに睡眠を妨げらるゝことが屢々ある。そして其炎症の蔓延も亦色々であつて或は周邊に進行することあり、或は反射的に身體の遠隔部に發生することあり、或は又一局部に長く存して蔓延せざることもある。又頭髮部に於て水疱、膿疱を多く發生する時は毛髮は濕潤の爲めに膠着し、且つ近接せる頸項の淋巴腺は腫脹するに至るが、この原因は屢々頭虱なることがある。

全身急性濕疹にあつては、頭部、軀幹、四肢に悉く濕疹の發生を見、瘙痒堪へ難く、又乳兒に於ては、殊に屢々頭部、耳、前額及び頰部に鱗狀濕疹を現はし、或は膿疱を形成し皮脂漏と併發して、炎症が頗る旺盛となることがある。又小兒及び肥滿の人には兩股間に皮膚面相摩擦の結果若しく　汗、尿の爲めに濕疹を起すことがある。（間擦濕疹）

慢性鼻加答兒の結果屢々慢性濕疹を起し、次でこれより丹毒を起して反復再發することがある、又頗る疼痛あるは乳腺の慢性濕疹である、又肥滿したる人には臍に濕疹を發して長く治せざることがある。糖尿病に於ては肛門及び陰部に濕疹を發し、手及び下腕には屢々職業的濕疹（藥品の刺戟等）を見るものである、慢性濕疹の多く發するは頭、顏面、乳房、臍、陰部、肛門、關節屈折部、手足等である。又爪部に於ける濕疹は、近接部より進行するか、或は唯其部に局在し、爪は縱走せる陷溝及び隆起を生ずるものである。

（療法）　急性濕疹に對しては其原因を去ることに努め、無刺戟的緩和の處置を施し、慢性疹濕には時期に應じ、强劇の作用ある藥劑を用ゐ、病機を一轉せしひるの方針を取るのは療法の眼目である。

急性濕疹に於て紅斑及び多少の濕潤あるに於ては總ての刺戟（洗滌、發汗、濕氣）を避ける爲めに、澱粉、亞鉛華、雲母、炭酸マグネシウム」石松子末等を撒布するのである。

それから濕潤が盛んであつて水泡の多い時には消炎的の濕罨法を施すがよい、之は藥液に浸したる布片を堅く壓搾し、水の滴流せざるを度として罨法するのである、其藥液には

硼酸水、鉛糖水、醋酸礬土液、ブロー氏液を用ふ。紅斑して汎く腫脹せる場合にもこの罨法は著效がある。又紅斑と共に小結節群生し鱗屑多きときは、亞鉛華、雲母、豚脂、水楊酸を混合したる軟膏を用ふるのである。

瘙痒を鎮制する爲めには右の軟膏に「ブロモゴル」「ツメノール」石炭酸、木釜兒を配伍するがよい、若し頭部に結痂堆積する時は「オレーフ」油を灌注して後洗滌し、硼酸、ワゼリン」を塗布するがよい。

慢性濕疹に對しては以上の軟膏に、水楊酸、「レゾルチン」硫黄、イヒチオール」、木釜兒を配伍して用ふ。若し表皮の肥厚著しければ、「ベタナフトール」の軟膏を用ゐ、頑固なる症には「剝屑軟膏」、或はウヰルキンソン氏軟膏を用ゐ、加里滴汁を塗布して腐蝕することがある。爪の濕疹にはレントゲン光線を試み、手足の胼胝性濕疹にはビック氏石鹼硬膏、「レチレン」、亞鉛華泥膏又Xは光線を應用し、肛門、陰部の乾性濕疹にはベック氏鉛糖膠劑を用ゐ、又内用としては砒素劑を用ふるのである。

【濕爛】Intertrigo(獨) Intertrigo(英)

(原因) 皮膚と皮膚と接觸し、相摩擦する爲めに起るものであつて、肥滿者殊に小兒には常に發し易きものである。

(症候) 二箇の皮膚面の互に相接觸摩擦する爲めに發する皮膚の炎症であつて、汗、皮脂、及び其他糞尿によつて刺戟せらるゝ時は、其症狀增惡して濕疹を發するに至る、水疱或は膿疱を生ずることがある。本症の發生する部分は腋窩、鼠蹊部、陰嚢、乳房、大腿内面等であつて殊に肥滿せる人、又は小兒に於て多く發するものである。

(療法) 肥滿せる大人にあつては、一乃至二%の水楊酸、亞鉛華、澱粉、雲母等を撒布し又は亞鉛華泥膏或は軟膏等を炎症に塗布するがよい。小兒にあつては注意して尿を排泄せしめ清潔を保たしむるがよい。炎症の起りたる際には洗滌を禁じ、皮膚の赤色退かざる間は、日に數回撒布及塗布を行ふがよい。

【斜頸】Der Schiefhals(獨) Torticollis(英)

(原因) 先天的胸鎖乳嘴筋の短縮に由るものもあり、又出産時に頸の軟部に損傷を來せる爲めにも起り、或は又頸の攣縮、麻痺、頸椎彎曲より來ることもある。

(症候) 分娩時の障害によつて生ずるものは生後數日にして該部に溢血し、益々硬固となり生後二三週に至れば母親に發見さるゝことが多く、頭部は甚しく一側に傾斜するもの

である。

（療法）溢血を有するものは按摩法によりて除去せしめ、厚紙又は革製の襟卷を應用し、瘢痕に由るものは切除又は伸展し、炎症あるものは消失法を施し、筋の短縮せるものは皮下切腱術を行ふがよい、そして矯正的後療法としてはグリツリン氏の踵係を施し持續的伸展を行ふがよい。

【屍體結核】Leichentuberkel(獨) Tuberculosis of the dead body(英)

（原因）屍體の結核より傳染するものであつて、醫師、解剖家及び解剖小使等に之を見るものである。

（症候）手指に發生する、硬き症狀の贅肉であつて、周圍に膿疱及び痂皮を見るものである。決して全身結核を來さゞるものである。

（療法）局部を截除するがよい。

【失神】Ohnmacht(獨) Unconciousness(英)

（原因）恐怖、出血、憤怒等の劇しき衝動によつて、脈管運動神經の麻痺を來し、爲めに腦貧血を起すに因るものである。

（症候）顏面蒼白色となり、惡心あり、冷汗を流し、眩暈及び視野暗黑を先驅として、瞳孔散大し、凝視、運動及び知覺麻痺を起し、卒然として倒るゝものである。此際呼吸は淺表となり、脈搏細弱且つ頻數となるものである。

（療法）上體を低くして仰臥せしめ、頭部を溫め、衣服の緊迫を去り、赤酒を與ふ。失神久しきに亙るときは、カンフル注射等を行ふ。

【蓚酸中毒】Oxalsäurevergiftung(獨) Intoxication of the oxalic acid(英)

（原因）工業上また醫療の誤用より起るものである。

（症候）口腔及び咽頭に灼熱感があり、恰も硫酸中毒に於けるが如く、粘膜の發赤腫脹を來し、嘔吐時に血液を吐することあり、甚しきは呼吸困難、運動麻痺、牙關緊急、痙攣等を來し、遂に虛脫に陷りて死に至ることがある。

（療法）石灰水、白堊、大理石末等を內服せしむ。胃洗滌及び吐劑は禁忌である。

【脂肪腫】Lipom(獨) Lipoma(英)

（原因）脂肪組織より發生し、三十歲乃至五十歲の男子及び月經閉止の女子に多く見るものである。

（症候）全身脂肪の存するところは何れの部にも之を發するも、大半は皮下組織にあつて、肩胛、背部に最も多く、胸、項、頸、臀部これに次ぎ、顏面、頭部、陰囊、陰唇は更に之れに次ぐものである。本腫瘍は圓形にして、著しく周圍より隆起し、稀れに長莖を具へ、限界判然として多く特有の囊を具ふ。好んで多發するものである。

（療法）全剔出を可とす。

【脂漏性濕疹】Eczema seborrhoicum(獨) Sebaceous eczema(英)

（原因）寄生物によつて起るもので、脂肪漏や濕疹とは異なるものである。

（症候）初め頭髮部に脂氣ある鱗屑を生じ、漸次其堆屑は鱗積して黃褐色の痂皮を作りて、周圍に蔓延し、瘙痒あり、普通二三週にして治に至るものである。

（療法）加里石鹼精にて洗滌し、沈降硫黃軟膏(頭部)またはクリザロヒン、トラウマチチン(軀幹用)を塗布せしむ。

【春期加答兒】Frühjahrskatarrh(獨) Spring catarrh(英)

（原因）若き男子に多く發するものである。太陽光線に何等かの關係があるらしく思はれる。

（症候）眼瞼結膜は灰白色不透明にして硝子樣となり、屢々硬固なる扁平舗石樣隆起を軟骨部結膜に示し、眼球結膜も、角膜緣に灰白色硝子樣の隆起を生ずるものである。そして患者は瘙痒、灼熱、羞明を訴へ、頗る頑固なるものであつて、一旦消失するも、溫暖なる氣候に伴はれて再發するものである。

（療法）黃降汞軟膏、昇汞軟膏等の擦入を行ひ、冷罨法を施し、また遮光眼鏡を與ふ。全身的には滋養物を與へ、鐵劑或は砒素劑を服用せしむ。

【尺骨骨折】Fractura ulnae(獨) Fracture of the ulna(英)

（原因）直達外力によつて生ずること多く、尺骨上三分の一、または中三分の一部の境界に來ることが最も多いものである。

（症候）尺骨の後緣は、其全長徑を明かに觸れ得るを以て、診斷は容易である、卽ち骨折部を明かに觸るゝものである。其他骨折一般の症狀を更ふ。本症は多く撓骨小頭の骨折及び脫臼を伴ふものである。

（療法）整復したる後、肘關節を銳角に屈曲し、且つ前膊を半廻後して、ギプス繃帶若しくは副子繃帶を施すのである。

【尺骨神經麻痺】Ulnarislähmung(獨) Paralysis of the Ulnar nerve(英)

（原因） 上膊内踝の骨折、肘關節化膿に來り、職業的不完全麻痺として硝子職其他に來るまた一時的には睡眠時の壓迫によつて起り。其他脊髓空洞症、前角炎其他の疾患に伴ふて起ることがある。

（症候） 尺腕屈筋、第三乃至第五指の深總指屈筋、拇指轉筋、小指球全部、骨間筋、第三以下の蟲樣筋が麻痺するからして、唯撓骨側のみ、屈折及び外轉を爲し得るものである。

（療法） 電氣療法が必要である。尙ほ麻痺の療法を參照せよ。

【震顫】Tremor(獨) Tremor(英)

（原因、種類） 頭部及び手の微細震顫は神經衰弱に來り、老人性震顫は、老人に來るものであつて、これも微細震顫である。其他慢性アルコール中毒、鉛中毒、パセドー氏病に來り、ヒステリーに來るものは、多くは一側のみに現はるゝ粗大震顫である。また多發性硬化症に於ては、注意震顫が現る。健康者に於ても、精神亢奮せるとき、努力せるとき、また寒氣に曝さるゝときは、微細的或は粗大的の震顫が現はるゝものである。

（症候） 身體諸筋の規序的攣縮より成る不隨意運動であつて、俗にふるひとか、ふるふとが云ふのが卽ちそれである。

（療法） 原因を除くことが第一の注意である。

【震顫麻痺】Paralysis agitans(獨) Paralysis agitans(英)

（原因） 不明なるも、精神的或は身體的傷害が誘因となつて發するものである。

（症候） 殆んど常に高齡者のみに來るものであつて、震顫と、筋緊張とは特徴である。震顫は、示指拇指の運動が特有であつて、貨幣の計算または丸藥を捻轉するが如き恰好を爲すものである。また筋肉緊張は主として顏面、頸部、頂部、脊柱、脚、臂等に起り、體は前屈して、歩行は强直性である、そして急に歩行を止むること能はざるが爲めに、屢々倒るゝものである。然し叡智には障害を來さゝることが多いものである。

（豫後） 殆んど治癒せざるものであつて、多くは他の併發症によつて死に至るものである。

（療法） 砒素劑・臭素劑を與へ、また頭部に平流電氣を通ずる等である。

【薔薇性糠粃疹】Pityriasis rosea(獨) Pityriasis rosea(英)

（原因） ヂーベルト氏の初めて記載にかゝるもので、寄生物に因つて起ると云ふも、未

だ原因菌が發見されない。

（症候）頸部、軀幹及び四肢に於て皮膚の裂割方向に一致して發する散列性の、淡紅色なるは扁豆大乃至二十錢銀貨大の疹である、多少の瘙痒を伴ひ、三週乃至十週間の經過中交も新生し、且つ擴延し、或は融合することがあり、中心部に菲薄の鱗屑あるが特有である。

（療法）ナフトール加里石鹸を塗布して表皮を剝離せしめ、沈降硫黄亞鉛華軟膏を塗布せしむ。

【進行性球麻痺】Progressive Bulbärparalyse(獨) Progressive bullar paralysis(英)

（原因）不明なるも、外傷後に起ることが多いものである。

（症候）四十歲後に來るものであつて、言語、咀嚼、嚥下及び發音が、慢性的進行的困難を起し、同時に口唇、舌、口蓋、咽頭、喉頭諸筋の萎縮を兼ぬるものである。

（療法）營養療法が必要である、殊に流動性または軟性の食物を與ふ。內服には沃剝を始め、砒素劑、硝酸銀、ストリキニネ等を與へ、また電氣療法を行ふがよい。

【進行性顏面半側萎縮】Hemiatrophia facilis Progressiva(獨) Progressive hemiatrophy of the face(英)

（原因）不明なり、時としては外傷が誘因となつて發することがある。

（症候）青年に來り、多くは特發性であつて、漸次に顏面半側の羸瘦を來すものであつて、總ての組織を犯すものである。

（療法）平流電氣其他を試びるも、殆んど治癒の望み無きものである。

【肢端肥大症】Akromegalie(獨) Acromegaly(英)

（原因）恐らくは腫瘍によつて起る、腦の松果腺の機能障礙ならん。

（症候）全身倦怠、陰萎、脫力、貧血、頭重等の前驅症を來し、身體末端殊に手、足、顎、顴骨弓、鼻、舌、胸骨等の膨大を來すものである。

（療法）砒石劑または臟器エキスを內服せしむ。また松果腺を切除して治癒せる報告がある。

【職業性官能的神經病】Beschäftigungs neurse(獨) Occupational functional nervous disease(英)

（原因）原因は過勞であるが、神經病性素質殊に神經衰弱の者に來るものである。又筋使用法の拙なる者に起り易きものである。

（症候）同一節が他の目的の各運動には何等の障礙無きも、獨り一定の職業性複雜運動

を行ふ能はずして、强ゐて之を行はんとすれば同時に節の痙攣又は麻痺を起すものである。

（療法）輕症のときは愛惜的なるがよい。また砒石劑、鐵劑、ストリキニネ等を與へ、一般水治法、按摩、電氣療法等を行ふ。

【自聽】Autophonie(獨) Autophony(英)

（原因）歐氏管の萎縮亦は閉塞、鼓室內滲出液滯溜及び外聽道耵聹栓塞によつて之を發するものである。

（症候）本症はまた自聲强聽とも云ひ、患者自身が發したる音聲が不快に耳內に共鳴するものであつて、殊にマ、ミ、ム、メ、モを含有する音に於て然るものである。

（療法）耵聹あれば之を洗ひ出し、鼓室內滲出液あるものは其排除を計り、其他歐氏管壁の按摩法を行ふ等。總て原因となるものを除くのである。

【女子淋疾】Gonorrhoe des Weibes(獨) Gonorrhea of woman(英)

（原因）交接に因て感染するものであるが、幼女にあつては浴湯または保姆等より感染することがある。

（症候）女子の尿道淋は俗に消渴として知られて居るが、これは男子の尿道淋に罹る機會よりは、其數非常に少いものである。一體女子の尿道は男子のに比して甚だ短い、男子の尿道は二十乃至二十二仙迷あるが、女子のは僅かに三仙迷卽ち一寸位しかない、それに其の幅も男子に比べると非常に廣いから淋病に罹つても症狀が餘り重くない、時として自分では少しも分らぬ、つまり自覺症狀が無いこともあつて、他の病氣の爲めに醫者の診察を受けて、始めて發見せらるゝことなどもあるが、淋病に罹ると多くは排尿時に尿道に熱い樣な痛みがあつて、尿通の度數が尙ほ多くなる、そして初期に尿道口の粘膜が腫れて、綠かゝつた黃色な膿汁で被はれて居るが、二週間目の終りになると、最早急性症狀が去つて、僅かに腫脹がある位で、五六週間もすると大抵は癒つて了ふが、尿道が短くて膀胱への距離が短い爲めに、膀胱に波及して淋毒性の膀胱加答兒を起すことは間々あつて、此方の危險は、男子の尿道淋の場合よりは多い、從つてまた腎臟に及ぼす危險も大である。

女子生殖器の構造は、男子のそれとは違つて廣くなつて居るから、淋病も單に尿道にばかり來るのでは無く、陰門、膣、子宮頸管、バルトリン氏腺等をも殆んど同樣に侵して、此等の部位に淋毒性の炎症を起すばかりで無く、其大多數は子宮其他の臟器を侵して婦人病の原因を爲すものであつて、實際婦人病の多數は淋毒に起因するものが多い。これに就

てネツケラートは、第一、婦人が淋病に罹れば殆んど皆後日必ず子宮内膜炎を起すか、或は子宮外膜炎を起す。第二、男子卽ち良人が淋毒を持つて居るときは、亦必ず其妻に淋病を傳染せしめて、矢張子宮内膜炎、子宮外膜炎を起す。第三には、此婦人の淋病は多くの場合多年の宿痾となつて不妊症の原因となると云ふて居る。

（療法）男子淋疾の療法と同じである。同病を參照せよ。

【弱視】Amblyopie(獨) Weakness of vision or Amblyopia(英)

（原因）先天性のものは一眼に來り、多くは斜視に伴ふものであるが、白兒には兩眼共に來ることがある。後天性には中毒、神經衰弱、ヒステリー等に來り、また亂視、遠視にも往々之を見ることがある。

（症候）檢眼鏡的何等の變化無く、また屈折體の溷濁等無くして、弱視を訴ふるものである。

（療法）先天性のものは不治の症であるが、後天性のものは、原因病を治するを以て療則とするものである。

【漿液性虹彩炎】Serose Regenbagenhautentzing(獨) Serous Iritis(英)

（原因）本症はまた慢性毛樣體炎とも云ひ、微毒、結核等に因て發するものであるが、また特發することもある。

（症候）刺戟症候は比較的少いものであるが、角膜周擁充血、房水の輕煙樣溷濁等を呈し、瞳孔は散大及び强直となるの傾向がある。其他初期に於て輕度の眼内壓亢進を來すことあり、眼に輕度の疼痛を發するものである。

（療法）一般虹彩炎の療則による。

【漿液性齒根膜炎】Die seröse Zahnwurzelhautentzündung(獨) Serous periodontitis(英)

（原因）中毒性齒根膜炎の一形態として來り、或はまた化膿性齒根膜炎の治癒後に來るものである。

（症候）根管より多量の漿液性の液體を漏出するのが特徵である。併し疼痛も壓痛も無し、唯齒牙は動搖するを以て多少の不安を來すものである。

（療法）中毒性のものは綿花を挿入し假封すること數日、漿液分泌止むの後、根管を溢充するがよろしく、其他のものは收斂劑を用ひて分泌を制限せしむ。

【篩骨蜂窠化膿症】Ziellbeinzellenvereiterung(獨) Suppuration of the ethmoidalis(英)

（原因）上顎竇化膿症と同一の原因によつて起るものである。

（症候）鼻腔閉塞の外、鼻根部の鈍痛、鼻背の擴大等を來し、また蜂窩粘膜が嚢腫樣の變性を來し、骨胞腫と云ふて、骨壁が鼻腔内に膨出することがある。

（療法）手術療法によらねばならぬ。

【心悸亢進】Herzaklopfen(獨) Palpitation(英)

（原因）總て脈搏の數及び强度を增し、また神經系の興奮性を亢ぶるものは本症の原因となる、また心臓の重き器質的疾患も原因となる。

（症候）心動の數多くなるのは主徴であるが、これに顏面の潮紅を來し、所謂旺盛となるものと、反對に蒼白となる衰弱性のものとある。

（療法）神經性のものは患者の神經を安靜ならしむるがよろしく、對症的としては心臓部の冷罨法を行ふ。其他原病の治療が第一である。衰弱性のものには、强壯劑を與ふ。

【心臓過勞】Herzüberanstrengung(獨) Overwork of the heart(英)

（原因）元來虛弱なるか、或は未だ過勞に慣れざるか、または以前に傳染病、中毒等によつて衰弱したる心臓が、過劇の勞働、行軍、亢奮、房事過度等によりて、一時的に又は持續的に過勞せるときに起るものである。

（症候）前驅症として、既に輕き勞働の後にも劇しき心臓動作を起し、皮膚蒼白又は輕度のチアノーゼ、失神、呼吸困難等を起し、甚しきは心臓部に劇しき心臓部疼痛、急性心臓擴張を起すものである。

（療法）安靜を充分ならしめ、また永く身體の過勞を避けしむ。恢復期に至れば炭酸泉浴を行はしむるがよい。

【心臓黴毒】Herzsyphilis(獨) Syphilis of the heart(英)

（原因）先天性黴毒に來り、また後天性黴毒には常に第三期症に來るものである。

（症候）慢性心臓機能不全の症候を來すものである。

（療法）驅黴法を行ふ。

【心臓肥大】Herzhypertrophie(獨) Hypertrophy of the heart(英)

（原因）凡て大動脈系に狹窄を起せるとき、流動する血液量の增加せるとき、また神經性影響、アルコール中毒、茶、煙草の濫用、妊娠、子宮筋腫によつて心左室の肥大を來すものである。

また右心室の肥大を來すものは、肺臟循環の抵抗亢進である。

心房の肥大は、心臟口よりの血液流出の障害あるとき、例へば狹窄または閉塞不全等である。

また心臟全部の肥大は、上述諸原因が併發せるときか、殊に持續的に筋肉を過勞せるときに起るもので俥夫には職業病として來る。また麥酒を鯨飲し、豪奢の生活をするものに來ることがある。

（症候）自覺的症候としては心悸亢進、耳鳴、眩暈、大血管の搏動感、呼吸促迫、疲勞し易く、身體動作力が減退せるの感がある。

（療法）攝生法によるの外なし（心臟辨膜病參照）

【心臟擴張】 Passive Dilatation(獨) Dilatation of the heart(英)

（原因）心臟肥大を來すべき諸原因が從來弱き心臟に作用せるときに起る。

（症候）屢々劇しき心臟部の疼痛を發し、心動減弱し、咳嗽發作を來す等である。

（療法）絶對的安靜を守らしめ、デキタリス劑を與ふ。

【心臟辨膜病】 Herzklappenfehler(獨) Valvular diseases of the heart(英)

（種類）本症は解剖的には、僧帽辨閉鎖不全、僧帽辨口狹窄、大動脈辨閉鎖不全、大動脈辨口狹窄、三尖辨閉鎖不全、三尖辨口狹窄及び此等の二或は三混合せる混合心臟辨膜病等の種類があり、また理學的の檢査によれば多少の相違があるも、患者の自覺症及び治療法等は皆同じことであるから、單に辨膜病として述べよう。また本症は割合に多いばかりで無く、不治の症なるも、攝生によつては天壽を保ち得るものであるから、素人としては最も深く心得置かねばならぬものであるから、詳しく說明しよう。

（原因）心臟辨膜病の原因はいろ〳〵あるが、第一にはリウマチス病で、殊に急性の關節リウマチスに罹つた後で、急性心內膜炎を起し、それから辨膜に故障を來すものが一番に多い。

第二には、猩紅熱、ヂフテリー、チフス等の熱性傳染病に、心臟內膜炎を續發して、それより辨膜に障害を來す、兎に角何病氣よりするも、初めに內膜炎を起して、それから辨膜病になると云ふ順序は何時も同じことである。

第三には、慢性に心內膜に炎症を來して、それが原因するもの、それは初めから內膜炎として來たものを云ふのである。

第四には、リウマチスの一種なる畸形性關節炎から起るものもある、これも矢張內膜炎を起して、それから瓣膜病となる。

第五には、廣汎性の動脈硬化と云ふて、動脈の硬化する病が、其硬化を心臟に迄蔓延せしめて、遂に大動脈瓣の閉鎖不全を來すことがある。

第六には、黴毒、淋疾等の花柳病よりして、遂に大動脈瓣障害を來すものがある。

第七には、慢性の腎臟炎よりして、同じく瓣膜障害を起すものである。

其他外傷等により、瓣膜破損を生ずることもあるが、併しこれは甚だ稀れなるものである。

メンゲル氏が、獨逸國ライプチヒ大學病院に於て、瓣膜疾患六七〇例を集めて統計的に研究した結果によれば、其全數の四分の三は、心內膜炎に次で起つたものであつて、其內膜炎の原因は、熱性傳染病就中多數なるは關節リウマチスであつて、右の六七〇例に就て見るも、五八、五%は急性關節リウマチスに繼發せるものであつて、次に多きは舞踏病(一、二%)、天然痘(〇、七%)、淋疾(〇、三%)、猩紅熱、ヂフテリー、敗血症等であつた。そして全數の四分の一は其原因不明である。また瓣膜疾患の一二、%三は動脈硬化症によつて發生せるものである。

ロンペルグ氏に據れば、關節リウマチスの後に來れる瓣膜疾患三九二例中五九%は單純なる僧帽瓣疾患、二九%は僧帽瓣並に大動脈瓣疾患、三%は僧帽瓣並に三尖瓣疾患、或は此兩瓣疾患の外に、大動脈瓣並に肺動脈瓣の變化あり、九%は單純なる大動脈瓣であると。また是等の瓣膜疾患は七五%までは十歲より二十五歲の間に發生せるものであると。

また動脈硬化症によつて起りし瓣膜障碍は、最初は大動脈瓣を侵し、次に僧帽瓣に及ぶものなりと。また七十九例の動脈硬化性心臟瓣膜疾患中八一%は、大動瓣のみ侵され、一四%は大動脈瓣、僧帽瓣共に侵され、五%は僧帽瓣のみ侵されたりと。又動脈硬化性の瓣膜疾患は老人に來ること多く、上述疾患中八三、五%は、四十歲以上の人に甫めて來りたるものなりと。但し二十歲代乃至三十歲代の人にも來ることがあると云ふ。

(症候) 心臟瓣膜病に罹ると、心臟の部分卽ち左の乳房の處が膨隆の傾きがある、殊に子供の心臟病なれば、此處が著しく突出するものである。それから顏や手足にチヤノーゼと云ふて、青紫色のイヤな色になる、心臟の部分の動悸が亢まつて、見たゞけでも分るやうになり、時としてはまた心窩に動悸がすることもある。心臟に手を當てゝ見ると、ガラ

〳〵と猫の喉頭を鳴らすやうな音が手に觸るゝことがある。また手や足の靜脈に鬱血することもある。

以上の症候は、病氣が重くなつてから起るところの症候であつて、初めは心臓病と分らずに經過する、唯何となく食物の消化が悪いやうな感じがあつて、頭痛がしたり、眩暈がしたりするので始めて醫者にかゝり、診療を受けて初めて心臓病と分ることが多い。そして通常心臓病と命名されてから、患者の訴ふる症候は、少し運動すると動悸が亢まる、呼吸がされる、呼吸苦しくなる、喘息にでも罹つたかのやうにヒドク咳嗽が出る、胸に向つて痛みがあり、或は心臓に狹窄する樣な痛みがあつたり、心窩に痛みを起すこともある。また時として關節や筋肉にリウマチスのやうな痛みを起すこともある、そして段々に甚しくなると浮腫、これも心臓から遠いところの足の胛に始めて浮腫出し、次に手の先や顔が腫れて、腹に水が溜まつたりする、また鬱血と云ふて、身體の處々に血が滯るが、外からよく見ゆるところは、口唇、鼻翼、兩頰、爪の先きなどで、此等は紫色になる。體内にては鬱血が心臓内に起るは勿論、肺、肝臓、腎臓、胃腸等にも鬱血する、肺に鬱血すれば咳嗽、喀痰等氣管枝加答兒の症狀を呈し、肝臓に鬱血すれば黄疸を起し、腎臓に鬱血すれば利尿少くなり、胃腸に鬱血すれば食慾不振、嘔吐、便秘または下痢を起すやうなことがある。

以上述べた症候だけで終ればまだしもよいが、若しエンボリーを起すやうなことがあつては實に恐るべき結果を來すものである。一體辨膜病に罹ると、血液の循環が悪くなる爲め、彼等此處に血栓と云ふて血の凝りが出來る、これは或は心臓の中に出來ることもあれば、或は靜脈の中に出來ることもあるが、殊に多く下肢の靜脈の中に出來るものである。此血栓はよし出來たにしても、其出來た處に附着して居る間には、さしたる障りも無いが其中の一部分が剝離して、血液と共に循環して細小の血管に至り、茲に止まれば、即ちエンボリー(栓塞)を起したもので、これが肺にヒッかゝれば肺のエンボリーとなり、腦に行けば腦のエンボリーで、此場合には恰も卒中と同じやうの症狀を呈して卒倒し、又は後に半身不隨の症候を殘するものである。また神經系統の障害としては、腦エンボリーの爲めに軟化を來すこともあれば、また眞に腦に出血を來すこともある、これは殊に大動脈辨閉鎖不全の爲めに、血液が殊に多く腦に行き、遂に血管が破裂して出血するものである。其他精神障害としては、鬱憂症と云ふて沈鬱に陷ることもあり、また辨膜病の經過中に、リ

ウマチスの如き關節の疾患を發することもある。

（豫防法） 心臓辨膜病の豫防法としては、間接的には、一般に身體を強壯になし、總ての病氣に對する抵抗力を增さしむることゝ、直接に原因となるところの病氣に對する豫防法との二つある。

次に直接の豫防法としては、最も屢々辨膜病を惹き起すところの關節リウマチスは、扁桃腺炎に次で來ることがあるからして、口内の清潔を保つは最も必要である。また若し扁桃腺炎に罹つたならば、其徵候の全然消失するまでは床中に安臥せしめなければならぬ。

ロンベルクは、屢々リウマチス性疾患を反復する患者には、扁桃腺炎に罹つたときには、一日量一乃至二グラムの水楊酸曹達を二乃至三週日も連續して、之を與ふるときは、これを豫防し得ることあるを述べて居る。若し水楊酸曹達に堪えざる患者にあつては、アスピリン、ザリピリン、ザロール、ベンツオザリン等を用ひるがよい。

また此處に最も注意すべきことは、關節リウマチスは、小兒にあつては、大人の如く著明なる症候を現はさずして經過することである、即ち小兒にありては、大人の如く關節が腫脹せずして、輕微の疼痛を訴えることがある、また關節これ自身に疼痛なくして、其周

邊に疼痛があることがある。或はまた軀幹に疼痛を訴え、或は小豆大、又は更に小なるリウマチス性核を皮下に生じて、此核子に疼痛あることもある。是等の場合にあつては、矢張大人に於ける急性關節リウマチスと同樣に、直ちに絶對の靜臥溫保を命じなければならぬ。

それから急性筋肉リウマチスや、慢性關節リウマチスもまた、辨膜疾患と密接の關係があると主張する人がある、殊に是等の場合には、注意を怠ることが多いものであるが、よく〳〵注意しなければならぬのである。

尙ほ其他原因の條に揭げたる疾病を豫防することが肝要の注意である。

（攝生法） それから今度は、愈々辨膜病に罹つた、即ち俗に云ふ心臓病患者の攝生法はどうするかと云ふに、一言にして言へば、代償機能を失はぬやうにすることである。代償機能とは、心臓の一部に病氣があつても、心臓の他の一部分が平素より多く働きて障害を起さしめぬやうにすることで、これを守るには、第一に營養療法で、消化れ易い滋養分に富んだ食物を程よく攝り、苟且にも暴飲暴食すること無く、食事の時間は一定して間食せぬやう注意せねばならぬ。心臓の働き正しく、よく働いて居れば、少し位の故障があつて

も代償機能を失はぬが、身體が衰へると、病の方が反對に强くなり、心臟が衰へて代償機能を失ふもの故、常に滋養物を攝つて補ひを附けねばならぬ。また平常滋養物を攝つて居れば、よし代償機能を失ふやうなことがあつても、それによつて充分恢復して行くことが出來るが、若し滋養物の供給が無くして、身體が衰へ、代償機能を失ふ樣では恢復が出來ぬから、何れの方面から見ても、營養療法は第一の攝生法である。

次には、心悸亢進を來さぬやうに最も注意を要する、これは劇しい運動は勿論、欲酒、房事過度、唐辛子、胡椒、ワサビ等の刺戟性食物を避け、熱い湯に入浴することをも慎み精神は常に平穩無事を保つ樣、少し位氣にかゝることを見聞きしても、眼は素通しの眼鏡なり、耳は音響の容物なりと觀念して心の平和を取り亂さぬやう、力めて心身共に安靜なるがよい。そして若し少しでも異常卽ち浮腫、心悸亢進等があつたら、素人療治は出來ぬから、速に醫療を受けて動悸を靜め、利尿の途を講ぜねばならぬ。また胃腸に鬱血を來せし爲め、消化不良を來せる場合には、血行を良くする藥を時々用ひて、腸胃の鬱血を取る樣にするのも一つの注意である。

それから今度は、心臟病に罹れば、生命にかゝるか、かゝらぬかと云ふに、元來心臟病に罹れば、心臟は常より肥大して代償機能を營む、卽ち血行の惡しきを補ふ爲め肥大するものであるが、それは元より限りのあるもの故、甚しくなると終には疲勞して心臟麻痺に陷り頓に死することがある、實に何時變化があるか分らぬものであるから、其覺悟で居らなければならぬ。併し心臟病に罹つたからとて、皆々其樣であるとは云へぬ、病が輕く、攝生も良ければ、五年も十年も、二十年も三十年も生きて居る人も珍しくない。

此病は女は、分娩と云ふ大役のある爲め、男子より危險の度が强いが、中には三人や五人の子供を產んで平氣で居る人もある。要するに代償機能を失はぬ間は故障が無い、されば一旦不幸にして此病に罹つた以上は、六づかしい學問や、六づかしい事業は、皆代償機能を失するの基故、此等には適せぬものとあきらめて、世間の刺戟少き田舍に靜養するのは天命を保つ所以である。そして平素は動悸の出ない限りの運動を試み、ブラ〳〵歩きなどは元より差支無く、朝夕の冷水摩擦なども差支が無い、海水浴は無論嚴禁で、海岸の散歩も人によりては注意せねばならぬが、山地の溫泉場に轉地して、餘り熱くない湯に、一日一度位入るのはよろしいことで、冬季ならば箱根邊、夏ならば日光、鹽原、伊香保、輕井澤が適して居る。

それからまた未婚の男女にて、本病に罹れる場合には、結婚は考へものであるから、此場合には、然るべき醫師の診斷を受けて、結婚に堪へるか否かを檢べて貰ひ、其意見に從はねばならぬ。

（療法）　瓣膜病に於て代償機能を失せざる間は、特別の治療を要せない、前記の攝生法を守り、また炭酸浴、電氣浴等を試みるのである。若しまた代償機能を失したる場合には安靜に平臥して、醫療を受くるがよろしく、此際に用ゐる藥物は何れも細心の注意を要するものである。

【心臟性喘息】Asthma cardiale(獨)　Cardiar asthma(英)

（原因）　心臟疾患の爲めに、喘息發作を來すものである。

（症候）　呼吸頻數となり、其際自覺に空氣の缺乏を感じ、呼吸困難を來し、多くは絞心症發作を合併するものである。

（療法）　原病の治療は第一である。發作時には胸部の芥子泥貼布、冷罨法または溫罨法を行ひ、または手足の熱浴等の誘導法を行ふ、刺絡もまた效あるものである。絞心症あるものは其療法を行ふ等である。（絞心症參照）

【心臟官能性神經症】Herzneurosen(獨)　Functional nervous heart disease(英)

本症は、心臟に何等器質的變化を認むることなきに、心臟に感覺及び運動障害を呈するものである。また本症には、神經性心臟衰弱、反射性神經症の二種あるを以て、詳細は該病を參照せられよ。

【心動急速症】Tachykardie(獨)　Tachycardia(英)

（原因）　生理的には、筋運動時に來り、また熱性病、神經系統の疾患、心筋炎、心內膜炎、心囊炎等に來るものである。

（症候）　正常の脈數より、其五分の一以上の頻數を來したる場合は、これを心動急速症と稱するものである。

（療法）　原病を治療し、對症療法として氷囊を貼用す。

【心外膜炎】Pericarditis(獨)　Pericarditis(英)

（原因）　リウマチス性關節炎、心內膜炎、肋膜炎、肺炎、熱性病、附近の化膿病竈の穿孔其他によつて起る。

（症候）　不明なることあるも、時に惡寒、發熱、呼吸困難、不安、不眠、苦悶、脈搏不

整、カフノーゼ等を來すものである。

（療法）安靜に平臥せしめ、氷嚢を貼し、サリチル酸劑を內服せしむ。

【心嚢炎】Perikarditis(獨) Pericarditis(英)

（原因）關節リウマチス、熱性諸病、左側肋膜炎、其他に起るものである、

（症候）心臟部に疼痛あり、胸內苦悶、呼吸促迫、體溫昇騰を來し、また心嚢內に滲出物を出すものである。

（療法）絕對的安靜を命じ、心臟部に氷嚢を貼し、或は水蛭を貼し、沃度丁幾を塗布する等の外、一般心臟病に對する療法を行ふも、豫後多くは不良なるものである。

【心嚢水腫】Hydropericardium(獨) Hydropericardium(英)

（原因）肺結核、瘤腫、化膿性腎臟炎等の惡液質に起るものである。

（症候）心音は微弱となり、患者は心窩苦悶、呼吸困難を訴へ、多くは同時に胸水、腹水等を併發するものである。

（療法）對症療法を施すのみ、豫後多くは不良。

【心嚢氣腫】Pneumoperikardium(獨) Pericardiac emphysema(英)

（原因）肺臟穿孔、食道癌腫、胃癌、胃潰瘍の心嚢內に穿通するによつて起り、また胸壁の外傷も原因となるものである。

（症候）心悸亢進、呼吸促迫、脈搏頻數等は重なる徵候である。

（療法）モルヒネの皮下注射を行ふて苦悶を醫するのみ、多くは死を免れざるものである。

【心嚢內出血】Haemopericardium(獨) Haemorrhage of the pericardium(英)

（原因）刺傷、銃創、動脈瘤の破裂、心筋破裂等によつて起るものである。

（症候）內出血の症候を來し、多くは靜脈及び心臟壓迫の爲め死に至るものである。

（療法）外科手術により心嚢を縫合するのである。

【心嚢癒着症】Synphysis perikardiaca(獨) Adhesion of the pericardium(英)

（原因）纖維素心嚢炎によつて起る。

（症候）心嚢の兩葉が一部には全部癒着する症にして、心臟機能不全を起すことがある。

（療法）心臟瓣膜病に於ける如くするのである。

【色素性乾皮症】Xerodermia Pigmentosum(獨) Xerodermia pigmentosum(英)

（症候）日光に曝露する部分に先づ發し、後ち全身に及ぶものである。雀斑狀の暗褐色乃至黑色の色素斑無數に現はれ、年と共に增進し、遂に皮膚は乾燥し、萎縮し、其結果口は狹小となり、眼は外飜するに至る。また疣贅樣の小腫瘍を發することがある。

（療法）砒素劑の內服、X光線療法、または切除を要す。

【色素性網膜炎】Retinitis Pigmentosa(獨) Retinitis Pigmentosa(英)

（原因）不明なるも、遺傳は確實であり、また父母の血族結婚によつて來る。

（症候）患者は夜盲を訴え、小兒時に來るのが通例であるが、追々には夜間のみならず晝間にても光線少き處にては見えぬやうになり、視野は頗る縮少し、洞管を以て物を見る如くになり、其全く失明なるまでは、長くは五十年を費すものもある。

（療法）電氣療法、發汗療法、瀉血法、ストリヒニン又は安知比林の注射を行ふ。多くは無效なるものである。

【神經炎】Neuritis(獨) Neuritis(英)

（原因）外傷、感冒、傳染病、黴毒、アルコール、ニコチン、炭酸瓦斯等の中毒または痛風、糖尿病によつて起るものである。

（症候）稀れに發熱することあり、疼痛は神經徑路に沿ふてあり、また時としては感覺脫失及び運動麻痺を來すものである。

（療法）急性のときは安靜、發汗法を行ひ、慢性症には沃劑、ストリキニネの內服または電氣療法を行ふ。

【神經衰弱】Neurasthenie(獨) Neurasthenia(英)

（原因）先天性には生來虛弱なるもの、父母の神經病等、つまり遺傳的素因のものもある。後天性には精神の過勞、心配、身體の過勞其他慢性病、熱性病、荒淫、耳鼻病等澤山あるが、最も多きものは心身の過勞である。今日は昔と違つて生活も非常に複雜となり、從つて生存競爭が多くなつたので、本症も年と共に多くなつて行くのである。

（症候）神經衰弱とは、其名の如く神經の衰弱である、尤も神經衰弱にも健康、つまり生理的のものと、病的のものとある。これを分り易く說明して見ると、我々が遠足したり山に登つたり或は力業をしたりすると必ず疲勞する、併し此場合に於ける疲勞は生理的であるから、いくら長くとも二三日も休めば元の通りになるけれども、神經衰弱に罹つた人即ち病的のものは、其疲勞は幾日經つても癒らぬ。それから勉強するに、非常に難しいこ

とに出合して判斷しなければならぬ、或は非常に不愉快なことがあつて激昂すると云ふ場合には腦力が疲れて、總ての判斷力も減じて來る場合もあるが、これは生理的であるから一定時を經れば恢復するけれども、神經衰弱に罹つた人は、かういふ場合に出合した時には、何時までも疲れが取れない、恢復する方法を講じても、疲れが取れないと云ふのは、神經衰弱に罹つた證據である。

神經衰弱に現はるゝ症候は、肉體に現はるゝものと、精神に現はるゝものと二つある、肉體的の症候としては、神經性弱視を呈して視力が衰へる、耳が鳴る、味覺に錯誤がある知覺に異常を呈する、殊に疼痛がある、それから頭痛する、これには頭の全部痛むのと、偏頭痛と云ふて頭の半分丈け痛むものもある。頭が重い、肩が凝る、消化不良や胃衰弱を起す、尿の化學的成分に變化を來す、心悸亢進を來したり、心臟部に疼痛を來したりする時としては呼吸困難を訴へることもある。眩暈がしたり、反射機能が亢進したり、生殖機能に障害を起したりする。睡眠は始めの間は眠くて〳〵いくら寢ても寢足りないが、其間に今度はどうしても眠られなくなる、寢附きが惡い、床に入つて寢やうとすると、どうしても寢られない、度々時計の鳴るのが聞える、煩悶し始める、萬感交々胸に集つて益々眼

が冴へて來ると云ふ有樣であつて、どうかして漸く眠りに就いたと思ふと、直ぐ眼が覺めて又寢られない。また眠つて居る間も決して熟眠は出來ないで、澤山夢ばかり見て居る、其癖晝になると、コクリ〳〵居眠り許りして眠むくて〳〵仕樣がない、それどや一と寢入しやうかなどと横になると、今度はどうしても眠られぬ、毎度これには弱らせられる。

それから殊に困るのは、作業不能と云ふて仕事が出來なくなる、其始めは唯無暗に疲勞の感が起る、實際疲勞したのではないが、唯何と無く疲れた氣がする、甚しきは何か仕事をするとか、歩くとかすると、是位働いたから疲れる筈だ、こんなに歩いたから疲れるのも無理が無いと、其實は未だ少しも疲れては居らぬが、自分で疲勞を拵える、丁度老人が無暗に隱居がると同じやうなものであるが、さうかうして居るうちに、今度は全く仕事に堪え無くなる、歩けば腓腸が痛くなり、本を見れば眼がかすむ、物を考へれば頭が痛くなる、物を食へば腹が張ると云ふ風で、全く仕事に堪えなくなる、そして頭の工合が少し惡ければ腦病だとか、胸が痛ければ肺病だとか、自分で自身の身體に故障を設けて、それが如何にも重症のやうに考へられるが常である。

精神上に現はるゝ症候は、一と口に云へば精神的作業の不能で、記憶が減退する、甚し

さは親友の名前も忘れ、僅の數の暗算も出來なくなる、二三日前に會つた人の顏も忘れ、總て日常の簡單なる用事さへも辨じ無くなる、例へば葉書を書くとか、電報文を認めるとか云ふことさへも出來なくなる。また物事に倦惰を來し易く、僅の事でもしまひ迄仕遂げることは出來なくなる、少し休息すれば恢復するが、またやり出すと直ぐ倦きて來ると云ふ有樣で、一本の手紙さへ滿足に書けなくなる。それから精神の集中力が無くなる、例へば書籍を讀んで見ても精神が集中しないから、直ぐ外の事を考へる、新聞を讀んでも一段の記事を讀む時に、最後の二行位しか記憶に殘つて居なくなり、また理解が出來ない位になる。それから意志が薄弱になつて常人には極めて平凡のことであつても、それが判斷がつかず、今の瞬間に或る一事を決定したと思ふと、其處に一寸他人の話を聞くと直ぐに決心を飜すと云ふ樣な有樣であつて自信力と云ふものは全く無くなつて了ふが、それが進んで來ると、今度は失望と云ふことが現はれて來るが、それが一番危險な症狀であつて、彼の厭世觀とか、何とか理由の分らぬことを云ふて自殺する連中には、此種のものが多い。

神經衰弱の症候の中に醫學上最も興味のあるは强迫觀念と云ふて、或る一つの考に囚はれると、どうしても其を心から離すことは出來ぬもので、これには種々ある、例へば臨場苦悶と云ふて或る場處にはどうしても居堪らぬものや、深い處、高い處のものを恐がるもの、赤面恐怖と云ふて、人と逢ふて赤面するもの、戸締りや何かは何處も見なければ氣が濟まぬと云ふ失念恐怖、或は疾病恐怖、潔癖等種々の症候を呈するが、茲には名稱恐怖の一例を擧げて見よう、これは俗に云ふ甚しき「御弊擔ぎ」で、吉日、物の名稱、緣起、數字等に關して心を惱ますこと多く、今日は佛滅だから日が惡いとか、天一天上だから大吉だとか云ふて頻りに其等のことを苦にする。また何でも目出度い名のついた物を喜ぶが若し、シと云ふ名稱のものであると震ひ上つて恐れる。暮の賣り出しの福引で茶杓に當り、緣起が惡いと云ふて、再び物を買ふて福引を爲すも、何時も茶杓ばかり三度當つたと云ふので恐怖煩悶措く能はず、遂に之を破壞放棄して蒼墓家に歸つたなど云ふ例もある。また數字に對しても三とか七とか云ふ數を喜び、四とか八とかを嫌ひ、電車に乘つて何心無く番號を見ると、それが四百四十四號であつたので、さては近い中に死ぬか知らんなど云ふて非常に落膽したなど云ふ例もある。

（攝生法） 攝生法はまた神經衰弱の豫防ともなるから、少し詳しく說明しよう。

神經衰弱の重いのは、元より入院治療を要するか、輕いのであると、つまりブラ〳〵病

なのであるから、其養生も亦大に注意を要するものである。卽ち第一は規律を守ることで
これには寢るにも起きるにも、食事をするにも、遊ぶにも總て規律あるやうにせねばならぬもので、朝は眼が醒めたならば速に起き出でゝ冷水摩擦を行ふ、冷水は神經衰弱には、非常に效のあるもので、冷水に半身を浴せしむる方法は、醫家の治療法として應用する處であるから、出來得るならば冷水浴を行ふがよろしい。冷水浴にも種々の方法があるが、最も良いのは灌水法と云つて、如露のやうなものから水を浴びるのが一番である、東京の洗湯屋にては、男湯の方に水を浴びるものが裝置してあるが、あの裝置がよろしい、あれを各自に湯殿に裝置して置いて毎朝浴びると最も妙である。水を浴びてからは乾いた西洋手拭でしつかり身體を拭ふがよろしい。

食物は何でも食べ慣れたものが良いので、日本料理に慣れた人は日本料理がよろしい、西洋料理に慣れた人は西洋料理が宜しいが、成るべく其量が少くして滋養成分に富み、且つ消化吸收の良いものが適して居る。量が多くして長く滿腹して居たり、消化が長びいたりすると、血液は胃や腸の方にばかり停滯勝になつてよろしくない、更に之を具體的に云ふと痩せたる人には軟かい肉類、魚類、牛乳、バタ、鷄卵、米飯、馬鈴薯、新しき蔬菜等がよろしく、肥えて居る人には成るべく脂肪分の少い食物が良い。

それから食事の注意、これは一般的に云へば、自ら欲しいと思ふ感じの無いときはお膳に向はぬやうにして、そして食事の時間は成るべく一定して置くとよろしい。それから食物は充分に咀嚼して用ひ、飲料は成るべく節し、腹一杯に食べぬやうにし、ワサビ、胡椒芥子等總て香辛類は一切用ゐぬことにして、食事の前後には運動をせぬこと、食事中新聞を見たり、考へごとをしたりなどせずに、唯氣樂相に面白く談話を變換すること、食事後は靜かに長椅子にでも倚つて休むこと、總て冷溫度に過ぎざるものを用ゐるなどは重なる注意である。

飲酒と喫煙は養生に害ありとは昔ながらの格言であるが、この二つのものは非常に神經衰弱の害になるものであつて、また神經衰弱の多數は此二つのものゝ濫用より起るものであるから、是等は絶對に禁止しなければならぬ。それから茶、これも神經衰弱には害のあるもの故、濃茶は矢張禁物として番茶の煎じたのか、または麥湯をこれに代へると宜しい若しまた茶の代りに牛乳を飲用する位に嗜好が進んで來れば非常に結構のことである。それから珈琲も亦茶と同樣の害があるから、これも禁ずべきものである。

神經衰弱患者の攝生法として運動を勸める醫者があるが、これは餘程考へ物である、一體運動と云ふものは、單に肉體を勞する許りで無く、神經を勞することと甚しいものであるから、神經衰弱の人が運動するには餘程注意せねばならぬものである、尤も本人が好むなら散歩するとか、庭園に出でゝ草花を愛するとかは固よりやらしても差支が無い。また他動法と云ふて、乘車、乘馬なども本人の嫌はぬ限りはやらせるのが宜しい、それから按摩マッサージ、電氣、入浴なども矢張緩和なる運動として奬勵すべきものである。

それから職業、これも絶對に禁止しなくとも宜しい、學生ならば少し位は讀書するのも自身が苦痛ならざる限りはやつても差支ない、餘りに無爲なると反つて今日一日を如何にして暮すべきやの問題に焦慮して神經を痛むるものである。次には慰安、これには色々の種類があるが、成るべくは自然より受くる慰安の方が宜しく、圍碁、釣魚等總て耽け易い娯樂は避ける方は安全である。

總て烈しい感動は心を病まし、身を殺ぐもので、烈しい感情が長く續いて居るのは宜しくない。神經衰弱には此の七情の變動の爲めに起るものが多くあるから、一旦此の病に罹つたならば、何でも心を平和に保つのが何よりの養生法である。

神經衰弱の養生中最も大切なのは熟睡であるが、さて神經衰弱になると大抵は眠られない、多くは不熟眠で夢ばかり見て居る、これに就ては本書中の不眠症の處に詳しく記載してあるから其を實行するがよろしく、催眠藥は成るべく用ゐぬがよい。

（療法） 神經衰弱を治療するには先づ其原因となるものを避けねばならぬ、何病氣でも原因療法が必要であるが、殊に神經衰弱は其原因を除く丈けで治癒することが間々ある。それから一般的療法としては安靜療法、それから運動療法、これは主として按摩、マッサージ、電氣等の他動法を用ふ。次は轉地療法、これは高地または溫泉場に轉地するのがよい。浴治療法、これは溫泉に浴するか、または冷水浴を行ふことである。

それから重症にあつては、入院療法を主とすべく、營養療法卽ち成るべく滋養物を多く取らしむる方法、電氣療法と云ふて電氣をかけるのや、溫湯の中に電流を通じて其中に患者を浴せしむる電氣浴もある。近時はまた無線電氣療法が、神經衰弱に良好なる作用を有するとて賞用されて居る。

神經衰弱に用ひる藥物は澤山あるが、これは其症によつて適宜取捨すべきものであるが根本義としては、神經の强壯劑を用ひねばならぬ。

【神經痛】 Neuralgien(獨) Neuralgia(英)

(原因) 總ての神經炎に來るが、其多くは感冒、流行性感冒、黴毒、ニコチン中毒によつて來り、また神經を壓搾する總てのもの例へば椎骨病、腫瘤等によつて起る。

(症候) 疼痛は鑽刺性或は裂截性であつて、持續的のものもあればまた發作性のものもある。また該神經の徑路に沿ふて所謂壓痛點があり、これを壓すれば發作間歇時にも疼痛を發するものである。疼痛發作は身體の動搖、壓迫、運動、賊風、精神感動または音樂によつても起ることがある。

(療法) 原因に注意し、壓搾性のものは之を去るがよろしく、其の他黴毒性のものは驅黴療法、感冒性には發汗療法を行ふ。一般的には鎮痛劑、下熱劑、麻醉劑を用ふ。慢性神經痛には砒素劑又は鐵劑を服用せしめ、また電氣療法を行ふ。

【膝外飜】 Genu valgum(獨) Genu extrosum or G. varum(英)

(原因) 膝關節の炎症、外傷後に來るも、眞の原因は不明である。

(症候) 上腿と下腿とが外に開ける角をなすもので、多くは扁平足を伴ふ。六歲迄の間に最も多く來るものであるが、また青春期にも來るものである。

(療法) 多く步行することを禁じ、一定の裝置を用ひて强制的に矯正するのである。

【膝內飜】 Genu varum(獨) Genu introrsum or G. valgum(英)

(原因) 生後一年以內に多くはラヒチスによつて起るものである。先天性のものもある

(症候) 上腿と下腿とが內方に開ける角を爲すものである。

(療法) 矢張强制的の矯正法が必要である。

【書痙】 Der Schreibkramf.(獨) Writers' cramp(英)

(原因) 職業的官能神經病の一種である、過度の書寫は最も多い原因であつて、殊に洋筆を使ふ人に多い。其の他精神的興奮殊に驚愕、苦慮等によつて誘發せられ、または不適當なる筆或は不良の机を使用するによつて起るもので、遺傳の關係があり、二十歲乃至四十歲の男子に來ることが多いものである。

(症候) 多くは徐々に起るが、若し其原因を除かざれば症狀は漸次强度となるものである。其特長は筆を以て文字を書くことが出來ぬことであるが、往々前驅症として頭重、眩暈、睡眠不安等を來すことがある。そして筆を持てば手が震へるものもあれば、痛みの起るものもあり、或はまた右手に疲勞の感じがあつて中指は動かなくなるのもある。

（療法）輕さものは太き筆を使用せしむるがよい。根治法としては山間或は海岸に轉地して心身の平穩を計り、局部に按摩法、電氣療法等を試みるのである。

【視神經炎】Sehnervenentzündung(獨) Inflammation of the optic nerve or optic neuritis(英)

（原因）腦膜炎、腦微毒、結核、急性傳染病、鉛其の他の中毒によつて起るものである。

（症候）眼前に霧がかゝつたやうで、發作性の暗黑がある、中心視力は減退し、視野狹窄し、殊に色神視野の侵さるゝことが著しきものである。

（療法）塗擦療法、沃剝の内服、食鹽水のテノン氏囊内注射、電氣浴、光線浴、蒸氣浴等を行ふ。其の他原因療法は必要である。

【視神經萎縮】Sehnervenatrophie(獨) Atrophy at the ortic nerve(英)

（原因）脊髓癆、球麻痺、散在性硬化症、緣内障によつて起る。其他色素性網膜炎、脈絡膜網膜炎、視神經炎、損傷、腫瘍、壓迫によつても起る。

（症候）視力は減退し、視野内に於ては、緣色感覺は消失し、其後は赤色或は青色を侵すものである。視野は多くは截痕狀態狹窄を呈するに至る。

（療法）休養せしめ、沃剝の内服、ストリヒニンの注射等を行ふ。

【皮膚結核】Hauttuberkulose(獨) Tuberculosis of the skin(英)

狼瘡を見よ。

【皮膚萎縮症】Atrophia cutis(獨) Atrophy of the skin(英)

（原因）老人に來るが、注目すべきは特殊性皮膚萎縮である。

（症候）皮膚は先づ赤色或は紫赤色に變じ、次で萎縮して菲薄且つ柔弱となり、乾燥して脂氣に乏しく、皺襞著しくして捲莨紙の樣になる、自覺症としては多少の搔痒がある。

（療法）砒素劑の内服に兼ねて、脂肪の塗布を行ふのみである。

【皮膚瘙痒症】Pruritus cutaneus(獨) Cutaneous pruritus(英)

（原因）本症は、純然たる皮膚の知覺神經機能疾患であつて、其原因は不明である。

（症候）本症に侵されたる患者の皮膚には初め何の異常も無いのが、唯全身が日夜堪へ難き搔痒に惱み、抓搔止む時がなく遂に其結果皮膚に爪痕や表皮の剝脫を來し、或は濕疹を惹起して膿疱を生ずることがある。殊に老人は皮脂分泌缺損の爲め屢々本症に冒さるゝものである。（老人性皮膚搔痒症）又本症は空氣の濕溫に關係するものである。即ち冬期性搔痒症は冬期に、夏期性搔痒症は夏期に現はるゝものである、其他には屢々月經時、月經

閉止期、鬱憂狂、躁狂、癲癇及び脊髄癆、腎臓病、黄疸、糖尿病或は又喫烟者に發することがある。それから局處性搔痒症と云ふは、陰部及び肛門(肛門搔痒)に限局して、劇甚の搔痒を發するのである。

(療法) 内用には「アトロヒネ」等を用ひ、外用には五乃至一〇%の薄荷軟膏、一〇%「フホルマリン」油、四%石炭酸「アルコール」等其他種々あり、光線療法は殊に效がある。

【皮下蜂窩織炎】 Phlegmona(獨) Subcutaneous phlegmon(英)

(原因) 化膿菌が皮膚の小創より侵入するによつて起る。

(症候) 局處は發赤腫脹して硬くして灼熱且つ疼痛堪へ難し、初めは切開するも組織は豚脂樣にして出血せざるが、進んで輕度のものは膿瘍を作り、重きものは膿が皮下に擴延するに至り、全身症として惡寒發熱を來すに至る。

(療法) 膿の有無に拘はらず、早期に深く切開するも可とするものである。

【皮脂漏】 Seborrhoe(獨) Seborrhea(英)

(原因) 本症は皮脂の分泌過多によつて起るものであるが、これに二つの種類がある、一は油性皮脂漏であつて、多量の皮脂流出して恰も油を塗布したるが如き觀を呈するものであるが、これは顔面頭部胸部背部等に多いものである。今一つは乾性皮脂漏で、患部の皮脂に大小の角質性鱗屑附着し、皮脂は之を侵して汚穢黄色の痂皮を形成し、顔面や頭に於て白色の糠粃樣鱗屑を生じ、頭髪は光澤を失するに至る、卽ち俗に云ふ白屑頭である(顔面頭部糠粃疹)そして屢々頭髪の脱落を來すことがある(脂漏性禿髪)

初生兒にあつては、最も屢々頭部に發するものであつて、全部黄褐色の脂樣の結痂を以て蔽はれ、遂には濕疹を惹起し、膿疱を生ずるに至ることがある。更に又顔面も侵され炎症盛んにして濕潤し、哺乳期中頑強に持續することがある、それから又陰阜、胸脊にも發することがあつて、此際多少潮紅して脂樣の鱗屑を見るものである。又本症と合併して屢々發するものは濕疹で、其他は面皰、痤瘡も亦發するものである。

(療法) 頭髪部に堆積する結痂を除去するには「オレーフ」油を灌注するがよろしく、又結痂少きものには「ワセリン」、「ラノリン」、豚脂、(硼酸、硫黄或は水楊酸を配伍し)を塗附するがよろしく、顔面に於て濕潤甚しき場合には冷罨法を行ふがよい、そして硫黄、水楊酸軟膏を塗布するのである、又頭部は時々加里石鹸精にて洗滌するがよろしい、或は頭部糠粃疹に對しては、「レントゲン」、其他の光線療法を試むるがよい、また酒精劑は頭部糠粃

疹に對しては著效を奏するものである。

【ヒステリー】Hysterie(獨) Hysteria(英)

（原因） 本症は、第一婦人の神經の抵抗力が弱いと云ふことが重大な關係を持つて居る、其弱いと云ふ婦人も自己の天職に從事しさへすれば、滅多にこの病には罹らぬものであるが近來女子敎育の盛んなるにつれ、虛榮心を嗾る所から無理なる勉强、種々なる煩悶をして本症の最大原因を爲すに至るものである、又女子は先天的に男子と同樣なる課業に從事することや、社會に活動することは出來ないと思ふ。よしや假りに女子の體格、體質、腦髓は男子に少しも劣つた點はないとしても、月經中、妊娠中、產褥中は神經が過敏になり、精神的なり、肉體的なり男子と同樣のことをすると云ふことは、到底不可能のことである

それに女子に固有の子宮病があるので、これも本症の原因を爲すものである。

次に年齡の關係を云へば、第一に春期發動期卽ち十四五歲より十六七歲の間、此時代には非常に神經が過敏になつて居るからよく〳〵注意せねばならぬ、若しも此際に過度の勉强を强ひたり、或は苦心するやうなことがあれば神經質に陷り、身體の衰弱を來し終に取返の付かぬことになる、つまり婦人の一生中最も大切な時代である、次に終閉期卽ち四十五六歲から五十歲までの間、此時代も又注意せねばならぬ。此兩期は共に新なる生活に入る過渡期であつて、肉體精神共に大なる變動を來すので神經も甚だ過敏になつて居るから此際は苦心、心配等の如き腦髓を過度に勞することは一切避けねばならぬ。

其他には生理的月經時を擧げなければならぬ、この月經時には神經が過敏になつて居るから、若し精神を刺戟する樣なことがあれば本症になるし、又妊娠中も精神を刺戟する樣なことのないやうにしなければならぬ、然らざれば本症に罹るのみならず、劇しき精神病になる樣な例は幾何もあるものである。

（症候） 第一の症候としては頭重、頭痛がある、卽ち何となく、頭が重く、或は上より壓迫されたるが如く、或は桶輪を篏めた樣に感じ、多くは頭の後部に來り、或は前頭又は全部に涉る、それから鈍痛もあるが時としては刺すが如き劇しき痛を感ずることがある。そして其場所は、前頭或は後頭等一局處に限局することあれば、又全部に涉ることもある時としては又頭內を攪き拌はすやうな感じもある。次は眩暈で數日持續的に起ることもあれば、又發作的に起ることもある、そして仰視する時、手を高く擧げる時、或は運動後、或は坐位に於て現はるゝことがある、又睡眠は多く妨げられ、全く妨げらるゝこともあり